# はじめに

専修学校専門課程(専門学校)は、高等学校卒業者の進学先として、大学に次いで 二番目に大きな進学先となっています。専門学校は、実践的な職業教育を行う教育機 関として、わが国の高等教育の重要な一翼を担ってきました。近年、職業教育の重要 性が強調されており、欧米はじめ世界各国が、高等職業教育の改革に積極的に取り組 んでいます。高等教育改革の中で、第三者による質保証(評価)は、必要不可欠なテ ーマとなっています。

大学(大学院を含む)、専門職大学院、短期大学および高等専門学校には、学校教育法に基づいて認証評価を定期的に受審することが義務づけられています。高等教育機関は、その教育研究等の水準の維持および向上を図るために、第三者機関の評価を定期的に受けることが国際的な流れとなっています。わが国の専門学校では、自己評価が義務づけられてはいますが、第三者評価については、喫緊の検討課題です。

企業等との密接な連携を通じて、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組む専修学校の専門課程を文部科学大臣が認定する「職業実践専門課程」が、平成26年度から発足しました。しかしながら、専門学校は、教育の質が制度上担保されていないこともあり、必ずしも適切な社会的評価を得られていないのが現状です。

一般社団法人専門職高等教育質保証機構(以下「機構」とよびます。)は、当初、一般社団法人ビューティビジネス評価機構として、文部科学大臣から専門職大学院のうちビューティビジネス分野の認証評価を行う認証評価機関として認証されました(2012年7月31日)。平成24年度には、ハリウッド大学院大学(ビューティビジネス研究科ビューティビジネス専攻)の専門分野別認証評価を実施し、評価結果を公表しました(2013年4月5日)。

専門学校教育の評価・質保証事業への展開をめざして、機構は、法人名を変更(2014年9月24日)し、平成26年度および27年度の文部科学省委託事業(学校法人メイ・ウシヤマ学園ハリウッドビューティ専門学校受託)において、専修学校職業実践専門課程第三者評価の試行(以下「試行的評価」とよびます。)の実施を支援しました。この試行的評価を通じて、専門学校の第三者評価を実施する上での問題点・課題を洗い出した上で、本格的実施を開始しました。

本年度事業においては、前年度に構築した専門学校第三者評価制度の国際通用性を高めることにより、専修学校の質保証・向上に関する発展的な取組を促進しました。具体的には、美容分野の専門学校を例として、学修成果の評価に関する標準化が進んだ国や、わが国の美容教育に特に関心がある国の質保証機関間の連携を進めるとともに、その連携に向けた普及促進活動の一環として国際シンポジウムを実施しました。また、連携成果を検証することを目的として、質保証を受けた学校間の単位互換、留学生の相互交換などの交流に結び付ける活動の端緒を開きました。

今後も、その延長として、国際通用性を念頭に置いた質保証関連の諸活動を進めていきたいと思っています。

平成30年3月 一般社団法人専門職高等教育質保証機構 美容評価コンソーシアム 研究委員会

委員長 川口 昭彦

# 目次

1	調査関連		1
	1.1 質保証機	と関の国際連携に関する調査	1
	1.1.1 調査	<b>፩の方法</b>	1
	1.1.2 調査	≦結果の分析	8
	1.2 交渉等で	『汎用的に使用できる資料の作成	9
2	2 国際シン	ポジウム	10
	2.1 国際シン	√ポジウムの計画	10
	2.1.1 ASQ	)A との交流協定締結	10
		コグラムの企画	
		□者の募集	
		†資料の作成	
	2.1.5 質問	<sup>閉票およびアンケートの作成</sup>	14
	2.2 国際シン	√ポジウムの実施	16
	2.2.1 当日	ヿのプログラム	16
	2.2.2 当日	3の様子	16
	2.2.3 パネ	ヽルディスカッション	17
	2.3 国際シン	√ポジウムの結果	25
	2.3.1 アン	ノケートの結果	25
	2.3.2 フリ	リーアンサーの分析	26
3	<b>3</b> 美容教育	の国際連携	29
	3.1 基本的な	・考え方	29

参考資料:国際シンポジウム配付資料	36
3.3 今後の課題	35
3.2.3 取り上げた事例	33
3.2.2 オーストラリアの美容職種とレベル	32
3.2.1 オーストラリアの NQF	31
3.2 連携検討のための資料作成	<ul><li>31</li><li>職種とレベル 32</li><li>33</li></ul>

# 美容評価コンソーシアム研究委員会名簿

氏名	所属	
川口 昭彦	一般社団法人専門職高等教育質保証機構	代表理事

### ■教育団体・大学・高等学校

岡本比呂志	全国専修学校各種学校総連合会副会長
富田 正次	全国定時制通信制高等学校長会 事務局長
上別府隆男	福山市立大学教授
川島鋼太郎	ハリウッド大学院大学専攻長
真崎 裕子	公益社団法人 東京都専修学校各種学校協会 事務局長

### ■業界関係者

佐藤	友彦	有限会社アクシス取締役
福島	吉功	ICD 世界美容家協会理事・東京美容家集団会長
渡邊	雅美	日本美容技術振興センター 副理事長

### ■有識者

野嶋	朗	ハリウッド大学院大学教授
花岡	萬之	学事出版 副社長

### ■専門学校関係者

山中	祥弘	学校法人メイ・ウシヤマ学園 理事長
田中	由視	学校法人明日香学園理事長
川越	宏樹	学校法人宮崎総合学院 理事長
池淵	淳	松江理容美容専門大学校学長

### ■モデル事業実施協力校

学校法人琉美学園 琉美インターナショナルビューティカレッジ

学校法人長崎県美容学園 長崎県美容専門学校

学校法人山陰理容美容学園 松江理容美容専門大学校

学校法人宮崎総合学院 宮崎サザンビューティ美容専門学校

学校法人明日香学園 明日香美容文化専門学校

学校法人メイ・ウシヤマ学園 ハリウッドビューティ専門学校

# 1 調査関連

# 1.1 質保証機関の国際連携に関する調査

### 1.1.1 調査の方法

本調査では、

- ・国が異なる質保証機関同士がアクレディテーションを共有する
- ・異なる国同士の間でアクレディテーションを共有する

など、国や質保証機関の国際連携の事例を調査・分析し、連携にはどのような パターンがあるかについて明らかにした。

そのためにまず、大学改革支援・学位授与機構等の質保証機関が行った調査 結果の記事をリストアップすることにした。表 1 はその結果である。

表 1 質保証国際連携事例を含む記事リスト

URL	記事タイトル	内容	記事掲載日	内容日
http://www.n iad.ac.jp/n_ shuppan/proj ect/no9_c201 3013102.pdf	海外の高等教育機関 との連携・共同を伴う 教育プログラムに関 する調査	日本の大学と海外大学の留学生を対象とした共同プログラムの例	2012.	2012.
https://qaup dates.niad.a c.jp/2017/01 /24/equatic/	高等教育機関の国際 的な連携の質を測る オンラインツールを 公開ーeQuATIC	ベルギー・フランダース地方の高等教育機関 の国際的な連携の質の改善を目的として行 われたプロジェクト	2017. 1.24	2017.
https://qaup dates.niad.a c.jp/2017/01 /30/accredit ation-and-st ructural-ref orm/	大学機関別評価認証 と大学構造改革評価 との連携方策を模索	韓国大学教育協議会・大学評価院 (KCUE-KUAI) が実施する「大学機関別評価 認証」と韓国教育部が実施する「大学構造改 革評価」間の連携方策についての議論	2017.	2016. 12.23
http://www.n iad.ac.jp/n_ hyouka/kokus ai/qaa/	QAA (英国高等教育質 保証機構) との連携	大学改革支援・学位授与機構(NIAD-QE)と、QAA (Quality Assurance Agency for Higher Education: 高等教育質保証機構) は、2007年2月に高等教育質保証分野での連携に関する覚書を締結		2007.
http://www.n iad.ac.jp/n_shuppan/news /news&topics /vol.45/p2.h tml	QAA(英国高等教育質 保証機構)との連携	大学改革支援・学位授与機構(NIAD-QE)と、QAA (Quality Assurance Agency for Higher Education: 高等教育質保証機構) は、2007年2月に高等教育質保証分野での連携に関する覚書を締結		2007.

http://www.n iad.ac.jp/n_ kokusai/intl _engagement/ uk/	英国の質保証機関との連携	大学改革支援・学位授与機構(NIAD-QE)と、QAA (Quality Assurance Agency for Higher Education: 高等教育質保証機構) は、2007年2月に高等教育質保証分野での連携に関する覚書を締結		2007.
http://www.n iad.ac.jp/n_ kokusai/intl _engagement/ jckcouncil/	日中韓3国の質保証機関による連携	大学改革支援・学位授与機構(NIAD-QE)は、 中国教育部高等教育教学評価センター (HEEC)及び韓国大学教育協議会(KCUE)に 対し、質保証機関間の実質的な連携を図るた めの枠組の構築を提案し、「日中韓質保証機 関協議会」が発足		2010. 6. 4
http://www.e nqa.eu/index .php/transna tional-europ ean-evaluati on-project-i	欧州国際共同評価プロジェクト I	欧州 11 か国の 14 プログラム (歴史学、物理学、獣医学の 3 分野) を対象とした共同評価を試行	2014. 11. 4	2002 ~ 2003
http://www.e nqa.eu/index .php/transna tional-europ ean-evaluati on-project-i i/	欧州国際共同評価プロジェクト II	水資源管理学、文化・コミュニケーション学、法・経済学の3分野で、必要単位数、修業年数、パートナー機関数等の異なる3つの共同修士プログラムの試行評価を実施	2014. 11.4	2005 ~ 2006
http://ecahe .eu/w/index. php/TEAM_I	共同教育プログラム の共同評価プロジェ クト I	欧州の 19 の質保証機関等が参加し、共同教育プログラムの推進を図ることを目的としたプロジェクト	2014.	2006 ~ 2008
http://ecahe .eu/w/index. php/TEAM_II_ 2008-2010	共同教育プログラム の共同評価プロジェ クト II	欧州各国の質保証機関による評価結果の相 互認証 (mutual recognition) を促進	2014.	2008 ~ 2010
http://www.ecahe.eu/w/index.php/JOQAR	共同教育プログラム の質保証と学位の認 証プロジェクト	5 か国 (クロアチア、スペイン、スウェーデン、イタリア、オランダ) の 5 大学を対象に、5 つの質保証機関協働によるひとつのアクレディテーション手続きによる試行評価	2014. 11.4	2010 ~ 2013
https://qach e.wordpress. com/	国境を越えた高等教育の質保証プロジェクト	欧州、オーストラリアの質保証機関、および アラブとアジア・太平洋地域の質保証機関ネ ットワークが参画するプロジェクト	2014. 11.4	2013 ~ 2015
http://www.e cahe.eu/w/in dex.php/MULT RA	共同教育プログラム に関するアクレディ テーション結果の相 互認証に関する多国 間協定	共同教育プログラムに関するアクレディテーション結果の相互認証を行い、欧州高等教育圏における共同教育プログラムのアクレディテーション手続きの重複を避け、その簡易化を図ることを目的とした質保証機関間の協定。	2014. 11.4	2010
http://www.m ext.go.jp/b_menu/shingi/ chousa/kouto u/024/siryou /04010802/00 9.pdf	高等教育の国際的な質的保証の動き	現状と課題	2003	2003

ı	ı	<b>.</b>	i i	ı
http://www.j	高等教育グローバル	考え方		
asso.go.jp/r	化の理念的展望			
yugaku/relat				
ed/kouryu/20				
15/icsFile			2015.5	2015.
s/afieldfile				5
/2015/11/18/				
201505kuroda				
kazuo.pdf				
http://www.u	グローバリゼーショ	現状と課題		
<u>-tokai.ac.jp</u>	ン・高等教育の国際			
/academics/u	化・高等教育における			
ndergraduate	国際的動向:国際関係			
/political_s	理論の枠組みからの		0.000	0000
cience_and_e	考察と日本の高等教		2009	2009
co/kiyou/ind	育への示唆			
ex/pdf/2009/				
05_sugiyama.				
<u>pdf</u>		古		
http://souke	学位の国際通用性を	高等教育圏・国際協定・国際認証		
n. shingakune	保証する3つのアプロ		001-	001=
t.com/colleg	ーチ		2017	2017
<u>e_m/2017_RCM</u>				
204_14. pdf				
https://www.	リスボン認証条約	「欧州地域の高等教育に関する資格認証条		
coe.int/t/dg		約」		
4/highereduc				
ation/recogn			2004	1997.
ition/lrc_EN				4.11
.asp#TopOfPa				
<u>ge</u>	V. 7 V. 1 V. 11	[目ば 0 ~ DI [ の 古 炊 払 才 総 問 」 と フ )		
http://www.e	ジョイント・ディグリ	「最低2つ以上の高等教育機関、あるいは1		
<u>nic-naric.ne</u>	一の認証(認定)に関	つ以上の高等教育機関とその他の学位・資格		
t/documents/	する勧告	授与機関が共同で授与する高等教育の資格」		2004.
<u>recommendati</u>			2014	6.9
on-joint-deg				0. 5
rees-2004.en				
.pdf				
https://qa4j	質の高い国境を越え	声明の中では、8項目に及ぶ「国境を越えた		
p. niad. ac. jp	た高等教育の共有:全	高等教育の原則」(Principles for		
/2014/11/06/	世界の高等教育機関	Cross-border Higher Education)が述べられ	2014.	2004
iau_statemen	を代表した声明	ている。	11.6	2001
t2004/				
	国境を越えて提供さ	2005 年に UNESCO と OECD が共同で策定		
https://qa4j				
p. niad. ac. jp	れる高等教育の質保	各国政府、高等教育機関・教育提供者、学生		
/2014/11/10/	証に関するガイドラ	団体、質保証・アクレディテーション機関、	2014.	2005
glqlycbhe/	イン	学位・資格認定機関、職能団体がそれぞれ取	11.10	
		り組むべき事項		
http://www.n	欧州高等教育圏にお	欧州地域における高等教育の質保証に関す		
iad.ac.jp/n_	ける質保証の基準と	るガイドライン		
kokusai/qa/n	ガイドライン			
o17_translat			2009	2005
ionpapers_ES				
<u>G. pdf</u>				

http://eur-1 ex.europa.eu /legal-conte nt/EN/TXT/?u ri=LEGISSUM: c11085	流動性(モビリティ) に関する欧州憲章	欧州における学生及び職業訓練生の国外滞在に関する手続き及び留意点を示した参照文書	2014	2006
https://qa4j p.niad.ac.jp /2014/11/11/ ejmp/	欧州共同修士プログ ラムの内部質保証に 関するガイドライン	EUA (欧州大学協会) による、欧州における 修士課程レベルの共同教育プログラムの自 己点検に関するガイドライン	2014. 11.11	2006
https://www. nvao.net/pag e/downloads/ ECA_principl es_for_accre ditation_pro cedures_rega rding_joint_ programmes.p	共同教育プログラム のアクレディテーション手続きに関する 原則	ECA (欧州高等教育アクレディテーション協会) による、欧州の共同教育プログラムのアクレディテーション手続き及び質保証に関する原則。	2014	2007
http://www.n iad.ac.jp/n_ kokusai/bloc k2/no17_unes co_CGP.pdf	国境を越えた教育提供におけるグッド・プラクティス規約(改訂版)	リスボン認証条約におけるグッド・プラクティスについての規約。前文・定義・規約から成っており、さらに付加文書(Explanatory Memorandum)が付随する。	2013.4	2007
https://qa4j p.niad.ac.jp /2014/11/11/ emqa-excelle nce/	エラスムス・ムンドゥ ス質保証「卓越性ハン ドブック」	欧州委員会は、2008 年から 2010 年にかけて 実施した 12 のエラスムス・ムンドゥスコー スへの訪問調査に基づき、質の高いエラスム ス・ムンドゥスコースに共通の要素を抽出 し、4 つの「卓越性の要素 (Components of Excellence)」としてまとめた。	2014. 11.11	2010
https://qaup dates.niad.a c.jp/2014/12 /26/ear/	外国の資格・学位の取扱説明書-EAR マニュアルと EAR HEI マニュアル	EAR マニュアルは、欧州域内での資格・学位の認証に明確な指針を示すため、各国で共通した認証基準や判断材料がまとめられたもの。 EAR HEI マニュアルは、ENIC-NARIC センターにいる資格評価者向けに書かれた EAR マニュアルの内容を、各国の大学をはじめとした高等教育機関向けに書き直したもの。	2014. 12.26	2012 ~ 2014
http://www.n iad.ac.jp/n_ kokusai/bloc k2/no17_brid ge_handbook2 .pdf	BRIDGE ハンドブック 一共同プログラムと 共同学位の認証	欧州 5 カ国 (エストニア、イタリア、マルタ、ポルトガル、スペイン) のエラスムス・ムンドゥスを推進する国別代表組織や、他国の資格(学位) を自国の高等教育制度と比較・評価する機関(資格認証機関) が主に連携して、資格認証の視点から共同プログラムの構築の在り方について提言をまとめた報告書。	2014.6	2012
http://www.n iad.ac.jp/n_ kokusai/bloc k2/no17_joqa rguidelines. pdf	共同学位授与におけ る優良事例ガイドラ イン	欧州高等教育アクレディテーション協会 (ECA)が主導する、共同教育プログラムの質保証と学位の認証プロジェクト(JOQAR※1)の一環として、共同教育プログラムを提供する大学間で構成するコンソーシアムのために作成したガイドライン。	2013.7	2013

http://www.n iad.ac.jp/n_ kokusai/bloc k2/no17_QFre comm.pdf	海外資格・学位認証に おける資格枠組みの 使用勧告	2013年6月にリスボン認証条約委員会が採択した、リスボン認証条約の副次的文書。海外の資格や学位を認証※1する際、資格枠組み※2の使用を推進するため策定された。	2016.7	2013
http://www.n iad.ac.jp/n_ kokusai/bloc k2/no17_joqa rframework.p	共同学位の公正な認 証に関する枠組み	欧州高等教育アクレディテーション協会 (ECA)と ENIC-NARIC 機関※の主導のもと、共同学位に対する公正な認証を促進することを目的として、認証を実践する際の具体的問題点とその対策を示したものが本枠組みである。	2013.8	2013
http://www.n iad.ac.jp/n_ kokusai/bloc k2/no17_earh eijp.pdf	EAR HEI マニュアルー 欧州資格・学位認証の 手引き(高等教育機関 向け)	EAR プロジェクトにより開発された EAR マニュアルを、高等教育機関向けに書き直したもの。2012 年に、欧州委員会から策定のための助成を受けている。	2014.8	2014
https://qaup dates.niad.a c.jp/2015/08 /07/arnvao_a greement/	ドイツとオランダの 評価機関がジョイン トディグリー課程評 価の簡素化に合意	2015年7月8日、ドイツの評価機関を統括するアクレディテーション協議会(AR)とオランダおよびフランダース地方(ベルギー)の大学評価を担うオランダ・フランダースアクレディテーション機構(NVAO)は、ジョイントディグリー課程評価に関する相互認定協定を締結した。これによって、ドイツの大学とオランダ/フランダースの大学によるジョイントディグリー課程は、AR認定評価機関かNVAOのどちらか一方の評価を受ければよくなり、多重評価による大学の負担への軽減効果が期待される。	2015. 8.7	2015. 7.8
https://qa4j p.niad.ac.jp /2015/08/07/ arnvaoagreem ent/#more-61	共同教育プログラム の評価結果の相互認 証協定(AR/NVAO)	同上の解説	2015. 8. 7	2015. 7.8
dates.niad.a	MULTRA に基づく初の 共同教育プログラム に関するアクレディ テーション結果の認 証	欧州研究分野における2つの共同教育・ショをです。 ラムに対し、ドイツのアテーショをです。 オランダ・フランダースアクレディアクレディアクレディアクレディアクレディアクレディアクレディスアクレデスと、が、MULTRA (NIAD-UE 共同教育質保証サイト) 認証である。 1. ナイメーへン大学(蘭)学究)が野の2年間の修士課程 [アクレディテーションを行った団体(質保証機関)] 2. フローニンゲン大明のの下ののいまでで、大学で、大学で、大学で、大学で、大学で、大学で、大学ののので、大学で、大学で、大学で、大学で、大学で、大学で、大学で、大学で、大学で、大学	2014. 10.20	2014.

https://qaupdates.niad.ac.jp/2015/01/13/eurace/	欧州の工学教育プログラムが評価結果の相互認証へ	欧州工学教育アクレディテーションネットワーク (ENAEE)で EUR-ACE ラベルの取扱いが認められている 13 の質保証機関(下記参照)は、2014年 11月 19日、工学教育プログラムに対するアクレディテーション結果を相互に認証する旨の協定に署名した。  EUR-ACE ラベル取扱機関: ASIIN(ドイツ)、CTI(フランス)、Engineering Council(英国)、Engineers Ireland(アイルランド)、Ordem dos Engenheiros(ポルトガル)、AEER(ロシア)、MÜDEK(トルコ)、ARACIS(ルーマニア)、QUACING(イタリア)、KAUT(ポーランド)、OAQ(スイス)、ANECA(スペイン)、FINHEEC(フィンランド)	2015. 1.13	2014.
https://qaup dates.niad.a c.jp/2017/10 /17/newespac ctn/		スペインの教育省は現在の大学の適格認定 (アクレディテーション)をプラム別から機関別に変更する制度改正案をまき入めた、 と現地紙が報じている。すでに制度導入に向けて、国内の質保証機関や大学に通知が送られている。 これまでの適格認定は大学が提供するすべてのプログラムに対して行われば、早ければ 2018/19 年から、大学の各学部・研究科・系列センターに対する内部質保証制度の評価が行われる。 適格認定の有効期限は5年間。	2017. 10.17	2017
https://qaup dates.niad.a c.jp/2017/04 /19/nvaoluxe mburg/	蘭: NVAO、ルクセンブ ルクの高等教育機関 のアセスメントを行 う	オランダ・フランダースアクレディテーション機構 (NVAO) によると、2017 年 3 月、NVAO はルクセンブルクの教育・研究省の依頼を受け、ルクセンブルクの新設私立高等教育機関のアセスメントを行うこととなった。アセスメントは 2017 年夏までに、NVAO のフランダース部門が行う。 ルクセンブルクにはアクレディテーション機関が存在せず、ルクセンブルクの高等教育機関は外国のアクレディテーション機関の評価を受けている。今回の協力は、ベネルクス3国の広範な協力枠組(高等教育資格の自動認証 等)にも沿うものである。	2017. 4.19	2017.

	ベトナム:はじめて海外質保証機関の機関別評価を受審	ハノイエ科大学、ベトナム国家大学学、ハノイエ科大学、ダナン大学工科大学、グナン大学工科大学がフランスの研究・高等教育評価高等審議合にHCERES)の機関別が示された。評価結果には3段階中の最も高い 'unconditional'(無条件)であった。有効期間は2017年6月から2022年6月までとなる。今回、評価を受けた4大学は、フランス政府とベトナム教育で連越技術者のプログラムの評価を受けた4大学は、フランプログラムである「卓越技術者のプログラムの評価をフランスの時間により、このプログラムの評価をフランスの時間があるでは、今回の機関別評価は、HCERESがベトナム教育訓練省の要請を受け実施したものである。	2017. 8.10	2017.
dates.niad.a	台湾: HEEACT が APQN との国際化共同アク レディテーションを 開始	アジア太平洋質保証ネットワーク (APQN) は、2016 年に「APQN 国際化共同アクレディテーションプロジェクト」を正式に開始した。このプロジェクトは、APQNが、アジア太平洋地域の高等教育におけるモビリティの促進に資するため、高等教育機関の国際化の進展の度合い等の状況に関する評価方法を開発し、当該分野の質保証システムの標準化を目指し推進するプロジェクトである。	2017. 9.27	2016
https://qaup dates.niad.a c.jp/2015/08 /31/mpi_prog ram_heeact/	台湾 HEEACT がマカオ の高等教育機関のプ ログラムアクレディ テーションを実施	台湾の高等教育評鑑中心基金会(HEEACT)がマカオの公立機関「Macao Polytechnic Institute (MPI)※」のプログラム・アクレディテーションを実施した。HEEACTが海外の高等教育機関に対して評価を実施するのは初めてである。	2015. 8.31	2015.
https://qaup dates.niad.a c.jp/2017/02 /03/aun-qa_i nstitutional -assessment/	ノイ校の自然科学大	ベトナム国家大学ハノイ校傘下の自然科学 大学(VNU University of Science: VNU-HUS) が第 1 回 AUN-QA(ASEAN 大学連合質保証ネットワーク)の機関別アセスメントを受審し た。 今後の受審機関として、2017年に、デ・ラ・ サール大学(フィリピン)、インドネシア大学 (インドネシア)、ベトナム国家大学ホーチミン校(ベトナム),ガジャマダ大学(インドネシア)の 4機関、2018年にマラヤ大学(マレーシア)が予定されている。	2017.	2017

https://qaupdates.niad.ac.jp/2017/01/18/cbqanlaunch/	15 機関が参加 新たな質保証ネットワークが正式に発足	中国教育部の学位・大学院教育発展センター (CDGDC)は、2016年12月20-21日の2日間、国境を越えた教育に関する国際会議を海南省の海口市で開催した。会議は海南大学との共催で行われ、中国ユネスコ委員会、教育日際協力交流司、海南省教育庁が協費した。会議の中では、12ヶ国15機関が加盟する国境を越えた高等教育質保証ネットワーク (CBQAN*)の発足総会も行われた。全体で世界約20ヶ国を含む400名以上の参加者が集まり、そこにはINQAAHE (NIAD-QE 国際連携ウェブサイト)やAPQN (NIAD-QE 国際連携ウェブサイト)といった既存の質保証ネットワークからの参加も見られた。	2017. 1.18	2016. 12.21
--	-----------------------------	---	---------------	----------------

### 1.1.2 調査結果の分析

表 1 のリストにある 45 の記事内容に基づいた分析を行ったところ、4 つのパターンに分けることができた。

### 1. 共同教育プログラムの相互認定

欧州などでよく見られる、複数の国の高等教育機関が共同で提供している教育プログラムが該当する。ある国の評価機関が認定すれば、自国の評価機関が認定したのと同じになるという仕組みである。

#### 2. 海外質保証機関による評価の容認

他国の質保証機関による評価を認めるというパターンである。例えば、ベトナムのハノイ工科大学、ベトナム国家大学ホーチミン市工科大学、ダナン大学工科大学、ハノイ土木大学は、フランスの研究・高等教育高等審議会の機関別評価を受けており、そのことがベトナム社会で容認されている。また、台湾高等教育評鑑中心基金会(HEEACT)とマレーシア資格機構(MQA)は、双方が行う評価結果について互いに信頼している。

#### 3. わが国の専門職大学院の認証評価における特例

これはすでに廃止された制度であるが、学校教育法第 109 条の特例として、専門職大学院の認証評価機関が存在しない場合に備え、学校教育法施行規則第 167 条で、「外国に主たる事務所を有する法人等で、適正な評価を行うと国際的に認められたものとして文部科学大臣が指定した団体による評価を受ける」ことが認められていた。日本という国の専門職高等教育機関が、他国からの認証評価を受け容れることを容認していたという事例である。

### 4. 分野ごと、資格ごとの相互認定

例えば、ワシントン協定に基づく、技術者教育認定の国際的相互承認を挙げることができる。わが国では、JABEE(日本技術者教育連盟)が該当する。他にも、ASEANにおける職業資格の相互容認を挙げることができる。すなわち、ASEANでは、7つの分野(看護師、建築士、医師、歯科医師、会計士、観光業)で互いの国の職業資格を認め合っている。中でも進んでいるのが観光業資格で、飲食サービス 9 件、調理 10 件、接客 5 件、家政 5 件、旅行手配 12 件、旅行代理 11 件が該当している。

以上のパターンに今後の当機構を当てはめると、当機構がパターン 2 に該当する質保証機関となる可能性があると共に、当機構の質保証実績が蓄積されれば、パターン 4 のような相互認定を進める上で一助となる可能性がある。

# 1.2 交渉等で汎用的に使用できる資料の作成

今後、質保証機関国際連携を進めようとしているわけであるが、その過程では、個別の学校において海外の学校・質保証機関との連携を図る事例の蓄積が必要である。そのプロセスにおいては、個別の学校が、わが国の高等教育に関する説明を英語で行う必要が生じる。そこで、当機構では本事業の中で、そのような説明機会において汎用的に使用できる資料(英語)を作成した1。



<sup>1</sup> 当資料は53スライドから成る PowerPoint 資料で、頁数の関係で本報告書からは割愛する。用命のある場合は当機構事務局までお問合せをいただきたい。

# 2 国際シンポジウム

# 2.1 国際シンポジウムの計画

質保証、特に、職業教育の質保証に関する国際連携動向は、一部の分野では すでに学校経営と密接に関係した関心事となっているが、わが国の人口減少、 近隣諸国の経済成長等を背景として、今後、近い将来において、

- ・個別の学校が海外の学校と連携する、
- ・教育の輸出をする (学校の海外進出)、
- ・外国人留学生を体系的に受け入れる

などの動きが出てくることが予想される。その流れを後押しするのが、質保証機関の国際連携であり、本事業では、専修学校関係者に、そのような国際連携動向を周知することを目的とした国際シンポジウムの開催を計画した。

### 2.1.1 ASQA との交流協定締結

当機構では、上記に掲げた認識の下、平成 28 年度の本事業において、本田あけみ委員(当時)と川口昭彦がオーストラリアを訪問し、NQFの先進国である同国の質保証機関や美容学校の実態や意識について調査を行った。その際、オーストラリアの政府機関である「オーストラリア技能質保証機関(ASQA、Australian Skille Quallty Agency)」を訪問し、質保証機関の国際連携について意見を交わした。その折り、ASQAと当機構の交流協定締結に向けた検討を両機関が進めることで合意した(平成 28 年度事業の中で)。

その合意を受けて、両機関の間で折衝を続けた結果、今年度中に協力覚書 (MoC、Memorandum of Cooperation) <sup>2</sup>を取り交わすことで合意し、議論を重ねた結果、平成 30 年 1 月 2 日に締結の手続きが完了した。国際シンポジウムの中では、この経緯についても説明を行い、質保証機関の連携とはどのようなことなのかを具体的に紹介する事例として取り上げることとした。

### 2.1.2 プログラムの企画

ASQA との連携交渉は順調に進み、同機関のコミッショナーの一人である Irene Ioannakis 氏が国際シンポジウムに参加することとなった。

その一方で、当機構では、平成 28 年度事業の中で、ASEAN の代表として、

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> MoC の内容は、本報告書の巻末にある参考資料を参照していただきたい・

現在最もわが国への留学生の数が増加し、かつ、わが国の専門技術教育の輸入に大きな関心を持っているという理由で、ベトナムの諸機関を訪問した。ベトナムではちょうど、2016 年 12 月に VQF(ベトナムにおける NQF)が策定され、そのフレームワークを活用した質保証への機運が高まっているところであり、その意味においてわが国の技術教育への期待感を示していた。そこで、特にその意思が感じられたハノイ大学に打診し、副学長である Nguen Van Trao氏が来日し、わが国の専門職高等教育に対する期待と題した講演をいただくことになった。

また、国際シンポジウムには専修学校の経営者が多数参加することが予想されたが、わが国の専門職高等教育において大きなインパクトを与えている「専門職大学等」の制度開始に伴い、同制度の起ち上げに中心的な役割を果たしてきた文部科学省高等教育局の塩原誠志氏にご登壇をいただき専門職大学制度について紹介する内容の講演を依頼し、快諾を得た。

さらに、専修学校として早くから質保証の重要性を認識し、積極的に第三者評価事業にも取り組んでいる学校の代表として、学校法人メイ・ウシヤマ学園(ハリウッド美容専門学校を設置)の山中祥弘理事長と、学校法人電子学園日本電子専門学校の古賀稔邦校長を招き、登壇者も合わせたパネルディスカッションを企画した。

次の2ページは、国際シンポジウムの内容について、登壇者との間で情報を 共有するために作成したプログラム(日本語、英語)である。



### QAPHE 国際シンポジウム 「専門職高等教育の質保証」

<u>日時・場所</u> 2018年1月17日 (水) 13:00~17:30 ハリウッド大学院大学 ハリウッドプラザ7F (東京都港区六本木 6-4-1)

プログラム (日英同時通訳)

13:00~13:30 開会挨拶「日本の専門職高等教育質保証:現状と今後の方向性」 川口昭彦(専門職高等教育質保証機構 代表理事)

13:30~14:10 基調講演 I 「オーストラリアにおける職業教育訓練の規制」 Irene Ioannakis(オーストラリア技能質保証機関 コミッショナー)

14:10~14:50 基調講演 II 「高等教育質保証:ヴェトナムからの期待」 Nguyen Van Trao(ハノイ大学 副学長)

14:50~15:10 オーストラリア技能質保証機関・一般社団法人専門職高等教育質保証機構 交流協定調印式

15:10~15:30 休憩

15:30~16:00 講演「専門職大学制度の発足とその質保証」 塩原誠志(文部科学省高等教育局 主任大学改革官)

16:00~17:20 パネルディスカッション (国内パネリストを交えた意見交換、会場からの質疑 応答、総括討論等)

Irene Ioannakis(オーストラリア技能質保証機関 コミッショナー)

Nguyen Van Trao (ハノイ大学 副学長)

塩原誠志 (文部科学省高等教育局 主任大学改革官)

山中祥弘 (学校法人メイ・ウシヤマ学園 ハリウッド大学院大学 理事長・学長)

古賀稔邦(学校法人電子学園 日本電子専門学校長)

ファシリテーター:川口昭彦(専門職高等教育質保証機構 代表理事)

17:20~17:30 閉会挨拶

江島夏実(専門職高等教育質保証機構 事務局長)

17:40 (約1時間) 情報交換会

### 図 1 国際シンポジウムの実施案(和文)



# QAPHE International Symposium "Quality Assurance for Professional Higher Education"

13:00-17:30, Wednesday 17th January, 2018

Venue: Hollywood Plaza 7th Floor, Hollywood Graduate University (6-4-1 Roppongi, Minato-ku, Tokyo)

Program (Simultaneous English-Japanese translation):

13:00-13:30 Opening Address "Quality assurance for Japanese professional higher education:
Now and its future direction"

Akihiko Kawaguchi, Representative Director, Institution for Accreditation and
Quality Assurance of Professional Higher Education

13:30-14:10 Keynote Speech I "The regulation of vocational education and training in Australia"
Irene Ioannakis, Commissioner, Regulatory Operations, Australian Skills Quality
Authority

14:10-14:50 Keynote Speech II "Quality assurance for higher education: Local voice from
Vietnam"
Nguyen Van Trao, Vice President, Hanoi University

14:50-15:10 Signing Ceremony between the Australian Skills Quality Authority (ASQA) and the Institution for Accreditation and Quality Assurance of Professional Higher Education (QAPHE)

15:10-15:30 Break

Date:

15:30-16:00 Speech "The inauguration of a professional and vocational university / junior college system and its quality assurance"

Seishi Shiobara, Chief University Reform Director, Higher Education Bureau, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

16:00-17:20 Panel Discussion, Reflecting on Japanese Practices and Exchange of Views on Overseas Practices, Q & A Session and Wrap-up Discussion

Panelists: Irene Ioannakid, Nguyen Van Trao, Seishi Shiobara,

Yoshihiro Yamanaka, Director and President, May Ushiyama Academy Hollywood Graduate School of Beauty Business

Toshikuni Koga, Headmaster, Japan Electronics College

Facilitator: Akihiko Kawaguchi

17:20-17:30 Closing Remarks Natsumi Ejima

17:40 (about 1 hour) Cocktail reception

### 図 2 国際シンポジウムの実施案(英文)

### 2.1.3 参加者の募集

平成 29 年 12 月中旬、全国の職業実践専門課程認定校のうち、約 700 校に対して、参加者募集のチラシ(下図)を配布し、参加者を募った。また、同様の趣旨のメールを、過去に当機構のセミナー等を受講した方々に送信した。



### 2.1.4 配付資料の作成

当日配付資料(講演者には講演内容の要旨も)は、それぞれの講演者、登壇者に作成をお願いした。国際シンポジウムということもあり、和文や英文に、英文は和文に、それぞれ翻訳し、日英見開きとなるようレイアウトして作成した。なお、冒頭に、講演者、登壇者の写真及び経歴(日英)を付けた。巻末に掲載した参考資料が当日配付資料そのものである。

# 2.1.5 質問票およびアンケートの作成

当日は内容が盛りだくさんであるため、講演の都度質疑応答を交わすことはせず、質問票を配布して記入してもらい、パネルディスカッションの折りに講演者、登壇者から回答を得ることにした。また、今後の参考とするためアンケートも作成した。



#### 平成 29 年度文部科学省委託事業 国際シンポジウム ~専門職高等教育の質保証~

#### 質問票ご協力のお願い

#### Questionnaire

本日は QAPHE「国際シンボジウム」にご参加いただき、誠にありがとうございます。 パネルディスカッションの「総括討論」の参考とさせていただため、是乗、以下の設問に対する皆様のご意見やご質問を 

Thank you very much for participating in the QAPHE International Symposium 2018 today. Please share with us your opinions regarding the following questions so that we may refer to them in the discussion during Panel Discussion." Q & A Session and Wrap-up Discussion."

We will collect this questionnaire during a break time after Signing Ceremory (3:10 pm-3:30 pm). Please note that we may introduce your opinions or questions at Panel Discussion

間 1. 基調講演の内容に関して、講演者にご意見やご質問等がございましたらご自由にお書きください。

Q1. Do you have any opinions to share or questions for the speakers with regard to the content of the

keynote speeches?	
質問等をしたい講演者の名前	
Name of the speaker	Irene Ioannakis / Nguyen Van Trao
your question/opinion is addressed to	
<質問または意見の内容 Questions or op	>inions>

間 2. 本シンボジウムのテーマに関して、総括討論で取り上げてほしいトビックや登壇者にご質問等がございましたら、 ご自由にお書きください。

Q2. Do you have any opinions to share at Panel Discussion or questions for the panelists with regard to the theme of this symposium?

ご協力ありがとうございました Thank you for your o



### 平成 29 年度文部科学省委託事業 国際シンポジウム ~専門職高等教育の質保証~

#### アンケートご協力のお願い

#### Survey

本日は QAPHE「国際シンボジウム」にご参加いただき、誠にありがたうございました。 当機構における今後のイベント実施等に向けての参考といたしたく、お手数ですが下記の設問にお答えくださいますよ うお願いいたします。

Thank you very much for attending the QAPHE International Symposium 2018. Please answer the following questions for our reference in organizing future events.

#### 間 1. ご所属先について(該当する番号に○を付けてください)

所属機関: ① 高等教育機関 ② 評価関係機関 ③ 教育関係機関 ④ 国際関係機関 ⑤ その他 戦務分野: ① 経営部門 ② 教育・研究部門 ③ 管理部門 ④ 評価部門 ⑤ 国際関係部門 ⑥ その他

Q1. About attendee (Please circle one)

| Affiliation | 1. Higher education institution | 2. QA Organization | 3. Other educational institution | 4. International organization | 5. Other | Job feld | 1. Governance | 2. Education/Research | 3. Management | 6. Other | 4. Quality Assurance | 5. International relations | 6. Other |

**関 2**. 今回のシンボジウムは、全体としていかがでしたか? (該当する番号に〇を付けてください)
① とても良かった ② 良かった ③ 普通 ④ あまり良くなかった ⑤ 良くなかった

Q2. Please summarize your satisfaction level for the symposium (*Please circle one*)
1. Excellent 2. Good 3. Fair 4. Poor 5. Very

Please go to the back page

間3. 今回のシンポジウムの内容に関して、貴方の職務等に役に立ちそうな点等がありましたか。 また、テーマに関連して、貴組織において今後計画している取組みがありましたら、お教えください。

Q3. Concerning of the symposium, are there any useful points and references that may be applicable

to your operation in the future? Does your organization plan to practice related to the theme of this symposium? If yes, please specify.

間4. 当シンポジウムの感想や、今後に期待するテーマ、当機構へのご意見・ご要望等、ご自由にご記入ください。

Q4. Please tell us what kind of themes and topics you would like to see covered in future QAPHE events. Any other requests and opinions to QAPHE are also welcome.

ご協力ありがとうございました Thank you for your kind cooperation:

# 2.2 国際シンポジウムの実施

国際シンポジウムは、「QAPHE 国際シンポジウム ~専門職高等教育の質保証」と題して、平成 30 年 1 月 17 日 ( 水) に、ハリウッドプラザ 7 階の教室にて実施した。

### 2.2.1 当日のプログラム

当日のプログラムは、図 1および図 2に示した案の通りに実施した。なお、ASQAと当機構の交流協定調印式に、次のお二方からご祝辞をいただくことになった。

在日オーストラリア大使館参事官 Scott Morris 氏 文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課長 萬谷 宏之氏

### 2.2.2 当日の様子

当日の様子を示す写真をいくつか掲載する。

Irene Ioannakis 氏の講演



Nguen Van Trao 氏の講演



交流協定調印式 川口代表 Ioannakis 氏



在日オーストラリア大使館 Morris氏



文部科学省生涯学習政策局萬谷氏 文部科学省高等教育局塩原誠志氏の講演





学校法人メイ・ウシヤマ学園山中理事長 日本電子専門学校古賀校長





### 2.2.3 パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、川口代表がファシリテーターの役割をつとめ、 まず、参加者が記述した「質問票」の内容に登壇者が回答し、それをきっかけ に登壇者が議論を交わす形で進行した。

次ページから、そのやり取りの顛末を示す。

#### ○パネリスト紹介(敬称略)

Irene Ioannakis (オーストラリア技能質保証機関コミッショナー)

Nguyen Van Trao (ハノイ大学副学長)

塩原 誠志 (文部科学省高等教育局 主任大学改革官)

山中 祥弘 (学校法人メイ・ウシヤマ学園理事長 ハリウッド大学院大学学長)

古賀 稔邦 (学校法人電子学園日本電子専門学校校長)

ゲスト 谷口 功 (独立行政法人国立高等専門学校機構理事長)

ファシリテーター 川口 昭彦 (一般社団法人専門職高等教育質保証機構代表理事)

#### ○やりとり

#### 川口:

オーストラリアとベトナムから来られたお二人には予め塩原さんの PowerPoint を送って、日本では新しいこういう制度が出来ようとしているので、是非コメントを欲しいとお願いいたしました。

もし塩原さんが答える必要があるときはお願いします。

#### Irene:

プレゼンテーションありがとうございました。とてもためになりました。

積極的に産業界との連携を図っていくと言っていらっしゃいました。

全くその通りだと思います。

オーストラリアのシステムも産業界が軸となって様々な訓練プログラム、コンピテンス単位、スキルやナレッジ教育において生かされています。産業界のニーズを上手く反映し、今まで足りなかった部分を補おうとする取り組みにお礼を申し上げます。

産業界のニーズに照らして教育を作っていくことはとても大切なことだと考えています。

### 塩原:

ご注目いただいた通り、産業界との連携を重視したというのが今回の制度のポイントです。

日本は今まで大学教育と産業界の対話が進んで来なかった国です。

例えば高等教育を受けて訓練された成果が職場において評価されるようなしくみが必ずしも明確ではなく企業側もどちらかというと仕事で必要な能力というのは入職後の On the job Training で身に付けさせるから、大学時代に学んだことというのはそれほど中身は問わないという時代がありました。

しかしながら、これからはそうはいかない、日本もそれでは立ち行かなくなっているところです。

そんななかで専門職大学が日本の大学教育全体に対しても一つのモデルを示すような新 しい糸口になっていければいいと思っています。

#### 川口:

ありがとうございました。

チャオさんお願いします。

#### Trao:

ありがとうございました。

塩原さんのとても詳細なプレゼンテーションに感謝いたします。

大きな取り組みをしてらっしゃると思います。

この教育システムが産業界においても提案型になっていけたら素晴らしいと思います。

これについて我が国でも教育システムと産業界の間で進めているところです。

新しいシステムが橋渡しとなって教育界と産業界を結べるようにと取り組んでらっしゃるのだなと思いました。

それからまた雇用可能性、21世紀の教育に着目していると思います。

二つの質問をさせていただけますか?

一つ目は、大学開設の条件もしくは学位課程の設置要件、この 2 つの申請というのは例えば場所が違ってもよろしいのでしょうか。

なぜ聞くのかというと、その2つの学校を一緒に出来るのかということを知りたいからです。

高卒 51%が進学するというお話でしたが、残りの 49%はどうなっているのでしょうか。 これが二つ目の質問です。

#### 塩原:

Traoさんから二つ質問がありましたが、二つ目の質問に先にお答えします。

50%がいわゆる学士の課程の大学ですが、その次に多いのが Non-Degree の専門学校です。約2割弱になります。その次に多いのが短期大学ですが、現在では6%程度。そしてその次が高等専門学校になります。

高等専門学校は 18 歳の人口の 1%です。少数精鋭で非常に質の高い教育を行っていますが、それなりの資源も投入しておりますので、このシステムを横に広げるのはコストがかかるということです。特に工業教育を中心とした分野になりますので、非常にコストのかかる分野であります。

非常に成果を上げているのですが、ボリュームとしては 1%であるということです。

2つの大学の条件、場所というところの質問ですが、既存の大学と専門職大学を同じ場所に作るというご質問でしょうか。

#### Trao:

新しいシステムの中で新大学の新設とカレッジから大学にアップグレードするための条件があるとおっしゃっていたかと思うのですが、なぜそういった仕組みを取っているのかを知りたいということです。

#### 塩原:

既存の専門学校(カレッジ)教育等から、新しい強みとして、よりアカデミックな基盤に 根差したものへアップグレードしていくということについてという質問ですね。

専門学校にきましては大学に次ぎ多くの学生を受け入れている高等教育機関でありますが、各種学校と言われる制度を発祥として、そこから一部、質担保されたものを専修学校専門学校という形で制度的に枠づけてきたという経緯があります。

元々、正規の学校制度ではない、さらに言えば、学位を授与するような高等教育ではありませんので、基準等の枠づけにおいても、より自由度が高いものとして作られています。 また国際的な学位の通用性などを問われることもないような中において、多様な発展をしてきましたし多様なニーズを吸収しております。

質保証の面においては、質のばらつきも時にあったりするというのが実態です。

多様な専門学校の中からも特に優れた取り組みを行っている質の高い専門学校等においては、その強みを生かしつつ更に大学教育が持っているような理論、原理等にまで遡った教育でありますとか、もしくは将来的な創造性の種になるような、より幅広い教養等を含めた知識などを身に着けさせることによってこれから特に求められるような創造的な専門職人材を養成できるような機関にしたいと思っておりまして、そのためにアップグレードするということでありまして、当然、転換によって専門職大学が作られるといった道筋を主に想定しておりますので、それの過渡期もしくは今後も既存の専門学校と新しい専門職大学が一つの学校システムの中で併設するということも大いに想定されます。

#### 川口:

ありがとうございます。

突然で申し訳ありませんが、山中さん、古賀さん何かありましたらご発言ください。

#### 古賀:

今日のお話に関係あるのかわからないんですけど、専門学校というのは海外の視点で考えるとオーストラリアでの RTO みたいな感じなのかなぁと思いながら聞いていました。

#### 山中:

ちょっと視点を変えまして、私どもの学校には11か国から100名以上の学生が来ていて産学連携もですが、卒業後の実践力ということで日本で通用することを目指してはいますが、国際通用性のある専門職教育については海外の専門職教育との連携が次のステップにおいては国際通用性のある人材の育成ということになると思います。

その点について塩原さん、いかがでしょう

#### 塩原:

日本の高等教育の中でも職業教育の国際競争力については必ずしも低くないと考えています。かつて専門学校を担当していた贔屓目があるのかもわかりませんけれど、そう私は確信をしております。

日本の職業制度は独特のものがあって、外から参入するのは非常に難しいといわれております。国内市場だけみていれば高等教育市場も生き残れた時代も長かったと思いますが、職業自体も国境を越えた活動をしなければならないと思っております。

これから18歳人口が減っていくなかにおいて、グローバルな市場、もう一つは成人教育にも目を向けていくことが今後重要なことであるということです。

その中で日本が強みを持って行く教育、分野を生かしながら様々な高等教育機関との連携の中でより発展させながら高等教育の質を高めるということが非常に重要であろうかと 思います。

#### 川口:

ありがとうございました。

今ちょうど塩原さんのお話でも大学、高専、専門学校のお話が出ました。

壇上から突然で申し訳ありませんが、谷口先生の方から何か一言いただけませんか。

#### 谷口:

全国に国立高等専門学校は51校ございます。

他所の国にはない特別な教育システムで、高専を理解することは非常に難しいです。

私は世界のどこに行っても「高専 is KOSEN」高専は何物にも代えがたい、

我が国の産業の発展、経済的な発展を支えてきたある種の集団は高専の卒業生である。

具体的に言いますと、今の日立の社長や東大などのトップレベルの先生方、

実際にロボットなんかを作ったり、具体的にいろんなことが出来るような理論の話じゃなくてモノを作ったりするトップレベルの先生方は高専を卒業されて働いておられたりします。

そういう方が非常に多いです。

私は高専の学生を Social Doctor と呼んでいます。Medical Doctor ではないけれども 社会のための社会をよくするお医者さんになるのだと思って勉強しろと言っています。 世界にも高専のようなものを作ろうということで、ベトナムと今、交渉させていただいて おります。

そのうちにベトナムに出来ると思いますし、高専のシステムを世界に広げていくということを、今、一生懸命やっているところです。

先般、タイの国会でお話しさせていただいて、これから公費留学生が毎年高専にやってくることになっております。

#### ∭□:

突然に指名させていただいて失礼いたしました。

皆さまからの質問に移ります。

日本語で書かれていますので、Trao先生にお聞きしたいと思います。

高等教育全般の質保証のお話をされていたと思いますけれども

特にベトナムの Vocational Training (職業訓練) セクターの質保証について課題があり

ましたらお伺いしたいと思います。

間違っていたら訂正いただきたいのですが、ベトナムの大学卒業生の就職率は非常に悪いのですね。

寧ろ職業教育の卒業生の方に職があるという風に伺っていますけれども、そういうことも 含めてお話いただけたらと思います。

#### Trao:

質問ありがとうございます。

課題はいろいろあります。

教育訓練省はいろいろ変えようとしています。ベトナムでいかに質保証が大事であるか認識の向上を図っています。

課題の一つにアクレディテーションがすべての学校に同じように適用されるということがあります。大学、教員養成大学、職業教育学校であろうと同じような質保証枠組みが適用されるわけです。それが問題になっています。

特に職業専門学校では問題です。教育訓練省の大臣は意志が固く、質保証にコミットしている状態にあり、どうしても当て嵌めなければならないということです。

雇用に関しては、確かに大学卒業生より技術系の職業教育学校の卒業生の方が就職率が高いということで履歴書に大卒と書かないで面接に望む学生もいるようです。

大学教育に問題があるということではなく、寧ろプライオリティの問題だと思います。 ベトナムの一部の地域では大都市から質の高い資質を持った学生を引き入れようとして います。高いサラリーを提供することで優秀な学生を大都市から、特にハノイやホーチミ ンから呼び込もうとしています。

政府としては大学が排出しようとする人材と業界が求めている人材のギャップを何とか 埋めようとしています。

例として、アカデミックプログラムを新しく打ち立てるのであれば、その中身が業界と協議をして決められたものであること、業界のフィードバックを反映したものであることが求められます。 2 年ごとにちゃんと反映されているかが求められています。

これでお答えになるでしょうか。

### 川口:

ありがとうございました。

もう一つの質問は、ベトナムに向けられたのか私どもに向けられたのか分からない質問な んですね。

チャオ先生は質保証に対する認識が、今、不可欠であるとおっしゃいましたが

「実際の教育の学生の教育の満足度は高まっているのでしょうか」

「進学先を選定する上で認証の有無が影響を及ぼしているのでしょうか」

「ベトナムの高等教育の国際社会での評価は高まっているのでしょうか」

これはベトナムだけじゃなくて我々にも言われているんじゃないかと思うんですが、如何でしょうかチャオ先生。

#### Trao:

学生の質を向上させるために大学に行くとなると、大学も質を保証することが重要である と考えます。

ベトナムの教育訓練省ですがアクレディテーションの成果を使って大学の分類をしよう としています。

例えば大学 A は First クラスなのか Second クラスなのか Third クラスなのか。

これは政府から出る予算にも反映されます。

大学は情報公開が求められるわけです。学生の満足度が非常に重視されています。

一部の大学、ハノイ大学もそうですがジレンマを抱えています。

質の高さが収入につながっているのかどうか、教育の質を高めるにはお金もかかります。 他にフォローしなければならないこともあります。 各大学は政府の新しい要件に苦しめられていますが、質こそが求められているのだという ことには同意しています。

#### 川口:

ありがとうございました。

次の質問、幸いにもIRENEへの質問は英語で書いてあります。直接お渡しします。

#### 質問 1

Regarding satisfaction of employers for VET. Is there any difference between sectors/industries?

VETに対する雇用主の満足度について、セクター間/産業間で違いはありますか?

#### 質問 9

I understand transparency is becoming more important in education. In ASQA planning to publish provide profiles externally in the future (at least a part of the profiles)?

私は、教育において透明性がますます重要になっていると理解しています。

ASQAでは、プロファイルを将来的に外部(プロファイルの少なくとも一部)に公開する計画はありますか?

#### IRENE:

1問目は職員の満足度に関して、です。

セクター間、業界間に違いがあるのかということです。

今日話した全般的な調査というのはそれぞれの業界別、セクター別の調査は行っていません。様々な情報やオーディット情報の中でここ1~2年の ASQA の取組としてはチャイルドケア、デイケア、幼稚園、保育園の関連業界とセキュリティ業界を重視してきました。様々な従業員、雇用者に対してチャイルドケアやセキュリティのサーティフィケート(オーストラリアの学校卒業証明書)を持った人々の質の審査が行われました。

全体的にですが、そういった分野で RTO の教育内容が審査され、それを基に必要に応じて措置を取り、対処しようということになりました。

これについては、もしそういった情報が必要であれば、最新の情報を提供できます。

セクター別、業界別の満足度に関して、特に雇用者からは被雇用者が入社時に能力がない という苦情も一部から出ています。

特に超短期型の研修コースについてです。ディプロマや上級ディプロマが数週間で取れてしまうような極端な例もあります。

上級ディプロマについては少なくとも数千時間が必要になると言われていますが、それを どうやって数週間で出来てしまうのか不思議な部分です。

2つ目の質問ですが、教育業界も透明性が非常に重要になっていますが ASQA もプロフィールなどを外部に出していく予定はあるかとのことですが、すでに部分的なものに関しては公表されています。 ASQA の WEB サイト (https://www.asqa.gov.au/) に包括的なリストが出ています。 RTO で何らかの措置をとった機関については情報公開されています。

プロフィールという視点においては良い指標となっているのではないかと思います。

ナショナル WEB サイト (https://training.gov.au/) にすべての RTO がそこに追加的な情報としてプロフィールに加える形で出しています。

それぞれの WEB サイトは重要な情報源となっています。

これらを見てどういったプロフィールが重要であるのかということも知っていただけると思います。

RTO はその中で何をやっているかというのは公表していませんので、その 2 つの WEB サイトを突き合わせていただければ分かっていただけるのではないかと思います。

#### 川口:

次は、財政面で質保証を受けると何か良いことがあるのかという質問です。

#### IRENE:

あります。QAと政府の財政支援には連携があります。

ASQA に登録されていない RTO は政府に資金を申請することは出来ません。

資金提供を受けていたとしても随時、政府から審査が入ります。

RTO は ASQA の審査をすべて満たした上で政府に申請します。

#### 川口:

次の質問ですが「RTOsの中には Higher Education Provider の登録を受けている機関がありますが、その意図は?」ということですが?

#### IRENE:

狙いですね。では、言い換えましょう。高等教育プロバイダで RTO として登録している機関があるが、それはなぜか?ということだと思います。

理由の一つは提供コースが大学プログラムに対する人材資源の確保に有効な場合です。例えばビジネスコースの上級ディプロマで1年勉強した後に、大学に転学するとか、大学側が複数の選択肢を用意して、学生が高等教育分野に足を踏み入れる道筋を用意する場合などです。RTOから後に、大学に行きたいとなったときに、道が残せるように。

上級ディプロマから学部教育への編入といったこともあります。

シームレスな教育を提供するという狙いの下に行っていると思います。

#### 川口:

残り 10 分になりました。これで頂いた質問は網羅したと思います。 抜けていたり、違っていたらどうぞおっしゃってください。 また質問してみたいとおっしゃる方は挙手をお願いします。

#### 古賀:

今のところについてなんですが VET セクターのグラデュエート・ディプロマはコンピテンシーベースの中身になっていると思うのですが、高等教育のグラデュエート・ディプロマはいわゆる大学のカリキュラムのようになっているのではないかと思うのですが、この違いは端的に言うとどういった違いですか?

#### IRENE:

グラデュエート・ディプロマの要件としては非常に明確に AQF で言われています。成果は同じです。ただそこまでの道のりが若干違うということです。なので、オーストラリアでは「多くの道が東京(ローマ)につながる」と言っています。

#### 川口:

ありがとうございます。山中さん何かありますか。

#### 山中:

今日は高等教育が一つのテーマになって、私も中国韓国台湾と 30 年間職業教育に携わって

海外との連携をしてきたわけですが、塩原さんが仰ったように日本の職業評価は極めて高い水準にあります。

まず日本の職業教育に注目したのは台湾で、台湾も大卒の高学歴者の失業率が高い これを解消するにはどうしたらいいかということで「職業教育の大学」と「学術大学」と の二つに分ける政策をとりました。それが非常にうまく行ったわけです。

ベトナムも高学歴者の失業者が非常に多いということでベトナム政府関係者が文科省に

行って「教育に協力して欲しい」という申し出に同行したところ、大学なら応援するということで専門職教育に対する応援の回答は得られませんでした。

海外が求めるのは専門職教育なんです。それなのに学術教育なら応援するというミスマッチが起きています。

本日お越しの日本・オーストラリア・ベトナムのように連携した職業教育が求められています。

具体的な国際通用性のある職業教育を実施していくことが大事だと思います。

専門職教育が国の活性化につながると思います。

国際連携性と質を担保する機関を国と連携してやっていただきたいと思います。

#### 川口:

ありがとうございます。

先ほど塩原さんも仰ったように日本の場合の最大の問題は産業界との連携だと思います。 オーストラリアの Qualification Framework も大変な努力をされて作ってこられたんで すね。

日本の場合はなんとなく大学などは企業の話を聞かないし、企業側も「今、こういう人材が欲しい」とかあまり発信しないんですね。

日本では偏差値というものがあって、万能のように扱われているが、偏差値は実は入口だけなんですね。

その後の大学なり学校で行われた成果である出口管理がなされていません。

今日来る前にカレッジマネジメントの「小さくても強い大学の『理由』」という小冊子を読んでいたんですけれど、今までは巨大なところが良いと思われていたんですが、だんだん小さいけど非常に強力だと言われている大学が存在します。

すべてに共通しているものは何かと言うと、ちゃんと出口管理をやっているんです。

卒業生はどこそこに行ったということを把握しています。

私が最初に「学修成果」と申し上げましたけれども、これが国際化に通ずるだろうと思います。

#### 山中:

補足で、皆さんに配った資料の中にあるんですが、ハイレベルと言われている大学の卒業 率が低いんですね。

出口管理をしっかりやれば4年間で卒業する学生の割合が高くないはずだと思います。 やはり出口管理をしっかりやるということですね。

#### 川口:

しゃべりたいことはたくさんあるんですが、ここでパネルディスカッションを終わりたいと思います。

ありがとうございました。

# 2.3 国際シンポジウムの結果

国際シンポジウムは、関係者も含めると 80 余名が参加した盛会となった。 同時に、パネルディスカッションやアンケートの結果から、専門職高等教育質 保証の国際連携推進に向けて多くの示唆を得ることができた。

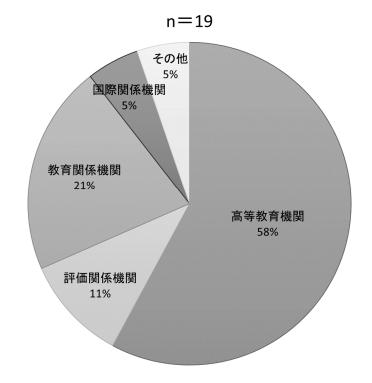
### 2.3.1 アンケートの結果

以下、問ごとに集計結果を示す。

### 問 1. ご所属先について(該当する番号に○を付けてください)

所属機関: ① 高等教育機関 ② 評価関係機関 ③ 教育関係機関

④ 国際関係機関 ⑤ その他

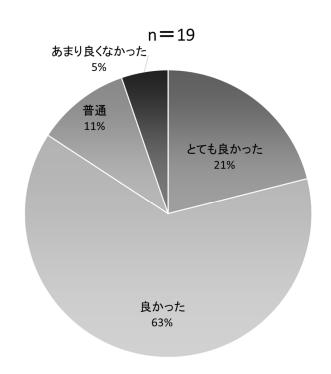


高等教育機関が約 6 割を占めているが、大学改革支援・学位授与機構等の評価関係機関の参加者もいた。

### 問 2. 今回のシンポジウムは、全体としていかがでしたか?

(該当する番号に○を付けてください)

- ① とても良かった ② 良かった ③ 普通
- ④ あまり良くなかった ⑤ 良くなかった



「とても良かった」「良かった」を合わせると 80%を超えており、全体的な評価としては高いものが得られた。

### 2.3.2 フリーアンサーの分析

問2のフリーアンサー(感想等)

- 特にパネルディスカッションがよかった。
- テーマが多岐にわたっていたが、示唆にとんだものだった。
- 最新の状況が把握できました。
- 日本の質保証が発展途上ということがわかりました。
- 今後もこういうシンポジウムを継続的にやってほしい。
- 専門学校の方の話を聞けたのも、大変有意義だった。文科省の方の話もわ かりやすかった。
- 新しい専門職高等教育機関について貴重な情報を得ることができ、有意義 でした。
- 専門学校や、専門職高等教育について学ぶ機会があまりないので、今回の シンポジウムは大変勉強になった。実際に海外での取り組み内容や課題に ついて聞く事ができて参考になりました。
- 他国の認証評価の状況を知ることができてよかったです。

- なぜ、ベトナム?
- 講演は内容が基本的な事項だった。
- このシンポジウムで何が見つかったのかがない。進行が良くない。

全体としてはポジティブな感想を抱かれたようであった。専修学校の経営者や先生方から見ると、今回のように「国際的な」事柄を、しかも質保証の観点から取り扱うセミナーやシンポジウムの機会が少なく、その意味で「新しさ」を感じていたことがうかがわれる。一方、大学等の質保証関係に携わる方から見ると、「職業教育」の質保証は「新しい」ものとして捉える方も多かったのではないか。

逆に、セミナーの内容や運営方法について、改善の必要性を感じさせる回答もあった。「なぜ、ベトナム?」は、シンポジやウムの趣旨や目的などを十分説明し切れていないことに起因する回答であった。「進行がよくない」については、時間の配分に問題はなかったので、進行のスムーズさなどについて改善の余地を感じされるものであった。

# 問 3. 今回のシンポジウムの内容に関して、貴方の職務等に役に立ちそうな点 等がありましたか。

<u>また、テーマに関連して、貴組織において今後計画している取組みが</u> ありましたら、お教えください。

- 2 か国の高等教育の質保証の枠組みが良くわかった。
- 日本電子さんの取組みが最もしっくりきました。また日本の高等教育機関の質保証の方向性がわかりました。
- 学修成果の評価につなげていきたい。
- 今のところ、専門職大学化は考えていませんが、大学として、産業界との 連携を進めたいと思っています。
- 専門職大学制度の位置づけ、教育の質保証方向性が理解できた。
- 教育の質保証に対し、制度的な仕組みの理解に役立ちました。
- 現在、海外高等教育機関との連携に関わっており、海外教育機関への自校 の質の保証という面で苦労しているので、今後この取り組みが加速的に進

んでくれるとよいと思っていますし、現状について伺えたことがとても参 考になりました。

本国際シンポジウムの成果を感じているからこそのご意見が多く、有意義さ を感じさせる回答が散見される。

専門職大学を主テーマの一つとして挙げたことも、ニーズを捉えていたようだ。

### <u>問 4. 当シンポジウムの感想や、今後に期待するテーマ、当機構へのご意見・</u> ご要望等、ご自由にご記入ください。

- 第三者評価の認証を受けた学校の取組み紹介。専修学校における学生のコンピテンシーの評価方法。
- パネル D がよかった。あと 2 時間くらいでも聞けた。
- ひきつづき、外国での VET の質保証の実例を知りたい。また、VET を修了 した学生で別の国で就職するための支援についても、諸外国の事例があれ ば聞いてみたい。
- ASQAとの連携大きな進展だと思います。更なる拡大を期待します。
- 今後の高等機関の展望
- 日本の高等教育機関の質保証がグローバルスタンダードに沿い認められるよう整備されることを期待します。
- VET / TVET から高等教育への接続と国際性
- 専門職大学設置に向け、今後の活動に期待しています。
- 学修成果の評価についての情報交換ができる場を作って頂ければありがたいです。
- 良い方々が来ていただいているが、運営進行が良くなく、全体的には低い レベルのシンポジウムに思えてしまった。もっと考えて取り組んでほしい。

問2や問3のフリーアンサーとの共通性があると感じられる。本問に固有なものとしては、VETなどの事例について知りたいという意見であろう。また、「専修学校におけるコンピテンシーの評価方法」というテーマが挙がったことも注目に値する。当機構として、質保証の進展という意味では、学修成果の把握方法の普及・標準化の必要性を特に感じる諸意見・感想であった。

# 3 美容教育の国際連携

# 3.1 基本的な考え方

わが国における少子化、人口減少を避けることはできず、それでもなお成長を続けるには、外国人も含めた労働力の確保、技術移転(輸出)などの方策に第4次産業革命をどのように絡めるのか、といった多角的な方策が必要である。教育業界も同様で、どのように国際化を図るのか、今はそのような波が押し寄せていない分野であっても、近い将来その点を回避できないときが必ずやってくる。国内労働力不足に対応して留学生を受け容れることは、経営安定のために必要ではあるが、その数には限りがあり、受け容れる教育機関も多様化する中、ある意味過当競争の時代にすでに入っているという見方もできる。真に国際化を進めるには、教育も「技術」の一つとしてとらえ、その移転を図ることの試みが必要である。

特に、美容教育の場合、外国人美容師の就労機会が与えられていない現状と、わが国美容教育の国際優位性を考えれば、特に、ASEAN 地域などに進出する戦略が功を奏すタイミングであるといえよう。そのとき、どのような方法があるか?と考えると、わが国の職業教育に関係した制度があまりに未整備であることに気づく。現状で、A国に国際進出を試みるとすれば、A国の美容教育制度を調べると共に、進出の手掛かりとなるA校との協定を結ぶとか、A団体と交流するなど、必ず、「連携」が必要である。そのとき、わが国の美容教育についてどのように説明するのか? 美容師養成施設指定規則の英訳があるわけではない。日本理容美容教育センターの教科書の英訳版もない。そのような状況では、個別の学校が対応できる範囲をはるかに超えた負担を負わなければできない。仮に、そういう説明ができたとしても、日本の美容師養成の水準は、A国においてどのような水準になるのか? 学位はどうするのか?などの制度的な部分で障害にぶつかる可能性がある。

もし日本に NQF (国家資格枠組み、National Qualification Framework) があればという議論もある。しかし残念ながらそのような議論は十数年前からあるにも関わらずまったく進展していない。必要性は多くの国民が認識しているので、やがて NQF が制度化されるかもしれないが、それは相当先のことであり、少子化や人口減少が負の影響を与える時期には到底間に合わない。

このような状況下であっても海外進出を図るにはどうしたらよいか? それは当機構のような質保証機関が国際的に連携し、学位のマッチングの判定、単

位互換に関する保証、相互認証に対する保証などの制度を、国際的信用のもと に打ち立てていくしかないと考えられる。

そのような制度はどうしたら作れるのか? それは一つ一つの分野について、わが国と A 国の教育を比較し、同一視できる点と相違点を明らかにする作業を積み重ねるしかないと考える。一口に美容専門学校と言っても、美容師養成施設として指定された学校は全国に 250 以上ある。そのうちの 1 校が単独でできる作業ではなく、意思のあるいくつかの学校がリーダーシップをとって作業を進め、その情報を共有することが必要である。

本事業では、美容分野を例にとって、地道ではあるが意義深いこの作業の端緒を切りたい。そのために、当機構が交流協定を結んだオーストラリアの制度を例として、わが国美容教育との一致性の検討を開始する。

# 3.2 連携検討のための資料作成

オーストラリアは NQF が確立した国である。そこで、本事業では、オーストラリアの美容関係の職種を取り上げ、各職種におけるレベルの規定を和訳したものと NQF に関連した事項を組み合わせた「連携検討のための資料」の作成を試みた。この資料は、美容専門学校に提供して、オーストラリアのoo職種のレベルooと、わが国の美容専門学校における教育が対応しているかどうかを判断するための材料にするという意図である。

### 3.2.1 オーストラリアの NQF

図 3 はオーストラリア NQF(以下「AQF」)のイメージである (参考までに、ヨーロッパの代表としてイングランド、ASEAN の代表としてマレーシアを加えている)。

レベル	イングランド		マレーシア		オーストラリア	
	学術 資格	職業 資格	学術 資格	職業 資格	学術 資格	職業 資格
10					博士	_
9					修士	_
8	博士	NVQ5 8 特定領域の第	博士	_	優等学士、準修 士修了証明書、 準修士ディプロマ	職業準修士修了 証明書、職業準 修士ディプロマ
7	修士	一人者 7 上級専門家	修士、大学院 サーティフィケート、 大学院ディプロマ	ı	学士	_
6	学士		学士、グラジュエート・ サーティフィケート、グラ ジュエート・ディプロマ		準学士 上級ディプロマ	上級ディプロマ
5	ディプロマ/基礎学 位	NVQ4 6 知的専門職 5 高等技術者 4 技術·専門職	上級ディプロマ	上級ディプロマ	ディプロマ	ディプロマ
4	高等教育·第1学 位	210 31 112	ディプロマ	ディプロマ	修了証明書Ⅳ	修了証明書Ⅳ
3	2+GCE・Aレベル	NVQ3	サーティフィケート	技能サーティフィ ケート3	修了証明書皿	修了証明書Ⅲ
2	4・5GCSE上級グ レード	NVQ2	_	技能サーティフィ ケート2	修了証明書Ⅱ	修了証明書Ⅱ
1	4・5GCSE初級グ レード	NVQ1	_	技能サーティフィ ケート1	修了証明書 I	修了証明書I

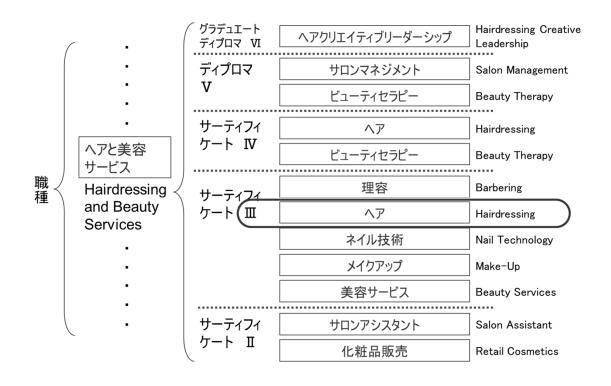
GCE·A···General Certificate of Education (GCE) Advanced Level 高卒に相当 GCSE···General Certificate of Secondary Education 中卒に相当

図 3 イングランド、マレーシア、オーストラリアの NQF イメージ

図 3 の枠で囲んだ部分は、わが国の専門学校と同等と思われる箇所である。 わが国の専修学校制度では、4年制の高度専門課程を設置することが可能で、 それはほぼ大卒(学士、図で言うとレベル 7)と同等と見ることも可能である が、AQF体系の職業資格にはレベル7自体が存在しないので、レベル2~6が 相当である。

#### オーストラリアの美容職種とレベル 3.2.2

美容と言っても幅広いが、AQFの体系の中で、わが国美容専門学校が卒業後 の職種として想定しているものを探すと、「ヘアと美容サービス(Hairdressing and Beauty Services)」がある。この職種の下位に位置づけられる職業教育プ ログラムを表すと、図 4のようになる。



「ヘアと美容サービス」に位置づけられる職業教育プログラム3 図 4

これを見ると、基本はレベル 3 であるが、その手前にレベル 2 として、「サ ロンアシスタント」、「化粧品販売」を位置づけていることがわかる。「ヘア」は レベル3とレベル4に登場するが、わが国美容師国家試験の主テーマであるへ ア技術がレベル 3 と同等なのか、レベル 4 までカバーしているのかは、AQF と わが国美容師国家試験を対象付ける重要な判断であろう。

32

<sup>3</sup> https://training.gov.au/Training/Details/SHB の記述を基に作成した。

さらに上を見ると、「セラピー」という心理学的要素が入ったものがレベル 4 とレベル 5 に位置づけられ、また、マネジメント要素が追加されるとレベル 5 に位置づけられていることが分かる。レベル 6 は、「リーダーシップ」というヒューマンスキル領域が前面に出ており、そこをクリアーすることはより実践的なレベルに近づく印象がある。

本事業では、前述の通り、美容師国家試験の重要な要素である「ヘア」に着目し、まず、そのレベル3のプログラムが、わが国美容専門学校における教育 プログラムとどれくらい整合しているかに着目することにした。

### 3.2.3 取り上げた事例

続いて、図 5 は、「ヘア」のレベル 3 プログラムを規定したホームページを 基に作成した図である。



図 5 ヘア・レベル 3 の学修ユニットを示したページの構成4

これを見ると、ヘアのレベル 3 プログラムは、21 のコアユニットと、3 つの グループから成る選択ユニットから構成されていることがわかる。

ここで、21 のコアユニットのうち、SHBHCUT001 から始まる 5 つのユニットが、「カット」に直接関わるものである。

https://training.gov.au/Training/Details/SHB30416 である。

<sup>4</sup> 図の基となったホームページの URL は

図 6 は前図の SHBHCUT001 の内容を示したページを基に作成した図である。



図 6 SHBHCUT001の内容を示したページの構成

このページには、大きく分けて、

- ・コンピテンシーの単位 (Unit Of compitency)
- ・評価の要件(Assessment requirements)
- の情報が記述されている。

このページの記述は、プログラムの最下位層にあたり、SHBHCUT001(ヘア構造のデザイン)という技術要素と評価をクリアーする条件の記述になっており、これらの内容を精査することにより、わが国の美容師養成プログラムとの整合性を見ることができる。

以上のような考え方に従い、連携を検討するための資料を作成した。この資料は相応のボリュームがあるので、本報告書では掲載を割愛し、当機構のホームページからダウンロードできるように提供している5。

<sup>5</sup> 本事業の実績を掲載した下記のページからダウンロードできる。 http://qaphe.com/mext/mext2017/intercollabo2017/intercollabo2017result/

### 3.3 今後の課題

前節で記述した資料は、次年度事業の中で、実際にいくつかの美容専門学校に提供し、ヒアリング等を行う予定である。この試みが完遂すれば、オーストラリアという一つの国、美容という一つの分野ではあるが、同様の試みのひな形として位置づけられるものができあがる。オーストラリアの NQF はヨーロッパの NQF と構造が似ており、オーストラリアとの対応関係がわかれば、ヨーロッパ諸国との対応関係も間接的にとらえることができる。アジアでいえば、韓国の NQF はオーストラリアの NQF を参照して構築されており、日韓の対応関係もより明確にできると思われる。ASEAN の中では、マレーシアの QF が最も充実しているといわれており、次の連携交渉対象として有力と考えている。今後は、同様の検討の対象とする国を増やすこと、分野を増やすこと、また、わが国でも、分野によっては業界標準的な QF があるので、各国の NQF と比較するなどのバリエーションも試みてみたい。

## 参考資料:国際シンポジウム配付資料

## 講演者、パネリスト等の略歴

## **Biography of Speekers and Panelists**



Irene Ioannakis

アイリーン・イオアナキス

### ASQA(The Australian Skills Quality Authority) Commissioner, Regulatory Operations

Dr Irene Ioannakis has extensive experience in the disciplines of vocational education and training (VET), secondary and tertiary education and human resources management. Dr Ioannakis' most recent position was Chief Executive Officer of Ioannakis and Associates. Prior to running her own consultancy business, Dr Ioannakis was employed by Chevron as the Australian Business Unit Manager - Organisational Capability and Development and, prior to this role, Dr Ioannakis was the inaugural Director of the GE Oil and Gas Skills Development Centre.

Dr Ioannakis is a former Managing Director and Executive General Manager responsible for expanding the Caterpillar Institute (now the WesTrac Institute), a registered training organisation, specialising in the heavy vehicle mechanical trade area. During this phase of her career, Dr Ioannakis was promoted to Executive General Manager – Human Resources. She also served as the Director – Safety, Education and Training at the Chamber of Minerals and Energy of Western Australia, was a member of the Training Accreditation Council in Western Australia for over 17 years, and served on the Curtin Business School of Management Advisory Board. Dr Ioannakis is currently a Fellow of the Australian Institute of Management.

#### オーストラリア技能質保証機関 規制業務担当コミッショナー

職業教育訓練(VET)、中等・高等教育、人事管理の分野で幅広い経験を積む。現職の直前は自ら設立したコンサルタント会社 イオアナキス・アンド・アソシエイツの最高経営責任者(CEO)に就任。それ以前にはシェブロン社オーストラリア事業部で組織能力・開発マネジャー、GEオイル&ガス社スキル・ディベロップメント・センター創立時のディレクターを歴任する。

また重機整備分野専門の登録教育訓練機関キャタピラー・インスティテュート(現ウェストラック・インスティテュート)においてマネージング・ディレクター、エグゼクティブ・ゼネラルマネジャーとしてその発展に尽くし、その後人事担当エグゼクティブ・ゼネラルマネジャーまで務めた。西オーストラリア州鉱物・エネルギー会議所の安全・教育・訓練ディレクターに加え、同州の職業訓練登録認可機関であるTAC(Training Accreditation Council)において委員を17年以上にわたり務めたほか、カーティン大学ビジネススクール・オブ・マネジメント諮問委員会のメンバーにも就任。現オーストラリア経営管理協会(AIM)フェロー。



グエン・ヴァン・チャオ

#### Vice President, Hanoi University

Dr Van -Trao Nguyen is an Associate Professor of Applied Linguistics and Vice Rector for Research and Research Training at Hanoi University, Vietnam. He is the Governing Board Member of Vietnam to SEAMEO RELC 2017-2020.

He has a PhD in Applied Linguistics from The University of Queensland, Australia and is currently interested in TESOL Teacher Education, Language Testing and Assessment, Language-in-Education Policy and Planning, Quality Assurance in Higher Education, and University Governance.

### ハノイ大学副学長

ベトナム、ハノイ大学副学長(研究、研究教育担当)。SEAMEO RELC(東南アジア文部閣僚機構 東南アジア地域言語教育センター)において、2017-2020年のベトナム運営委員を務める。

オーストラリア、クイーンズランド大学でPh.D(応用言語学)を取得。現在関心を持っている分野は、TESOL教師教育、語学試験・評価、言語教育政策・計画、高等教育の質保証、大学統治。



塩原 誠志 Seishi Shiobara

#### 文部科学省 高等教育局主任大学改革官

塩原誠志氏は、文部科学省高等教育局の主任大学改革官であり、同局に設置された新たな高等教育機関PTのチームリーダを務めている。

同氏は、1994年に文部省(当時)へ入省し、徳島県教育委員会教職員課長、文部科学省私学行政課課長補佐、同専修学校教育振興室長、政策研究大学院大学大学運営局長等を歴任した後、2015年7月から現職へ移り、専門職大学等の制度化のための中央教育審議会における審議のとりまとめや、関係法律の改正、設置基準の制定などに携わった。

Chief University Reform Director, Higher Education Bureau, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

Mr. Seishi Shiobara is Chief Director for University Reform in the Higher Education Bureau of Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) and serves as Team Leader of the new Higher Education Institution PT established in the Higher Education Bureau. Mr. Shiobara joined the then-Ministry of Education, Science and Culture in 1994.

He has held positions such as: Director, Educational Personnel Division, Tokushima Board of Education; Deputy Director, Private Education Institution Administration Division, MEXT; Director, Office for the Promotion of Specialized Training College Education, MEXT; and Director-General, Administration Bureau, National Graduate Institute for Policy Studies. He moved to his current post in July 2015 and has engaged in such efforts as coordination of deliberations in the Central Council for Education for the institutionalization of professional schools, amendment of relevant laws, and formulation of establishment standards.



## 川口 昭彦 Akihiko Kawaguchi

#### 一般社団法人専門職高等教育質保証機構 代表理事

川口昭彦氏は、一般社団法人 専門職高等教育質保証機構 代表理事を務めるとともに、独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 顧問・名誉教授である。

同氏は、京都大学から化学分野の理学博士を取得した(1970年)後、東京大学において30年間にわたり、生命科学の研究・教育に携わった。2000年から大学評価・学位授与機構(大学改革支援・学位授与機構改組前の組織)に教授として参画し、その後、評価研究部長、理事、特任教授を歴任した。

また、同氏は、2007年から2009年までアジア太平洋質保証ネットワーク(APQN)の副会長を務めた。現在の研究分野は生命科学と高等教育質保証である。最近は、高等教育質保証に関する多数の論文や著作を発表している。

## Representative Director of QAPHE(The Institution for Accreditation and Quality Assurance of Professional Higher Education)

Akihiko Kawaguchi is Representative Director of Institution for Accreditation and Quality Assurance of Professional Higher Education (QAPHE) as well as Executive Consultant and Professor Emeritus of the National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education (NIAD-QE).

He earned a D.Sc. degree in chemistry from Kyoto University in 1970. He started his professional career at the University of Tokyo, where he engaged in research and teaching in the field of life sciences for 30 years. He joined the National Institution for Academic Degrees and University Evaluation (NIAD-UE), the predecessor of NIAD-QE, as professor in 2000 and served as dean, vice-president and specially appointed professor.

He was vice president of the Asian Pacific Quality Network (APQN) from 2007 to 2009. His research interests are life sciences and quality assurance of higher education. Recently he published many papers and books concerning quality assurance of higher education.



Yoshihiro Yamanaka

### 学校法人メイ・ウシヤマ学園 ハリウッド大学院大学 学長

山中祥弘氏は、学校法人メイ・ウシヤマ学園(ハリウッド大学院大学、ハリウッド美容専門学校)理事長を務めるとともに、日本理容美容教育センター理事、東京都専修学校各種学校協会会長でもある。

同氏は、早稲田大学大学院商学研究科修了後、ベンチャーキャピタルである東京中小企業投資育成株式会社を経て現職に就いた。

それらの経験に基づき、教育の質保証に早くから取り組み、美容専門学校として初めて2010年に私立専門学校等評価研究機構による第三者評価を受審。その後も文部科学省「職業実践専門課程を通じた専修学校の質保証・向上」事業を受託するなど積極的に教育の質保証活動を推進している。

### President, May Ushiyama Academy, Hollywood Graduate School of Beauty Business

Yoshihiro Yamanaka serves as President of May Ushiyama Academy (Hollywood Graduate School of Beauty Business / Hollywood University of Beauty and Fashion). He is also Director of the Japan Center for Hairdressing and Beauty Education and President of the Metropolitan Tokyo Professional Institution Association.

After graduating from Waseda University's Graduate School of Commerce, Mr. Yamanaka worked at the venture capital firm Tokyo Small and Medium Business Investment & Consultation Co., Ltd. before taking up his current positions. Based on these experiences, he began working on quality assurance of education from early on and accepted third-party evaluation by the NPO Organization of Private Vocational School Accreditation in 2010—a first for a professional beauty college.

Thereafter, he has continued to actively promote quality assurance activities in education, including taking charge of a project by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology on "Quality Assurance and Improvement at Specialized Training Colleges through the Professional Post-Secondary Course."



古賀 稔邦 Toshikuni Koga

### 日本電子専門学校 校長

古賀稔邦氏は、2008年より学校法人電子学園日本電子専門学校の校長を務めている。

同氏は、日本大学を卒業後民間企業の機械エンジニアを経て、1985年より日本電子専門学校の教員、IT教育に従事した。 2004年副校長に就任、教育改善に取組むと共に、私立専門学校等評価研究機構による専門学校初の第三者評価を受審した。 桜美林大学大学院にて高等教育機関の経営管理に関する修士号を修得。主な研究テーマは、第三段階教育の質保証・IRである。日本高等教育学会会員。私立専門学校等評価研究機構第三者評価委員。

#### President Japan Electronics College

Toshikuni Koga has been President of Japan Electronics College since 2008.

After graduating from Nihon University, Mr. Koga worked as a mechanical engineer at a private-sector corporation. Since 1985, he engaged in IT education as an instructor at Japan Electronics College. In 2004, he became Deputy President and worked on educational improvement and also saw the school undertake the first third-party evaluation of a professional college by the NPO Organization of Private Vocational School Accreditation.

Mr. Koga earned a Master's degree in Higher Education Administration from the Graduate Division of J. F. Oberlin University. His main research theme is quality assurance of tertiary education and IR. He is a member of the Japanese Association of Higher Education Research. He is a third-party evaluator of the NPO Organization of Private Vocational School Accreditation.



江島 夏実 Natsumi Ejima

### 一般社団法人専門職高等教育質保証機構 事務局長

江島夏実氏は、2017年4月より一般社団法人 専門職高等教育質保証機構 事務局長を務めている。

同氏は慶應義塾大学大学院博士課程在学中、1985年に情報処理サービスを営む企業を創業し、現在に至っている。この間、 慶應義塾大学、法政大学、成蹊大学、大妻女子大学などの講師を歴任した。 同氏は2004年度文部科学省委託事業「専修学校における客観的な評価・認定の在り方に関する調査研究とその普及啓発」

同氏は2004年度文部科学省委託事業「専修学校における客観的な評価・認定の在り方に関する調査研究とその普及啓発」 に実施委員として参加したことを機に、高等教育機関の質保証に関する研究を始め、第三者評価に関わる講演や研修を多く手がけてきた。

## Executive Director of QAPHE (Institution for Accreditation and Quality Assurance of Professional Higher Education)

Natsumi Ejima has served as the Executive Director of QAPHE (Institution for Accreditation and Quality Assurance of Professional Higher Education) since April 2017.

While enrolled in a doctoral program at Keio University in 1985, Mr. Ejima established a company offering information processing services, which he continues to run today. During that time, he has held positions as an instructor at institutions including Keio University, Hosei University, Seikei University, and Otsuma Women's University.

Mr. Ejima began researching quality assurance of higher education institutions when he participated as a working member of project commissioned in fiscal 2004 by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology on "Investigation and Research into Objective Evaluation and Accreditation of Specialized Training Colleges and Public Awareness Thereof." Since then he has given many talks and training sessions related to third-party evaluation.

## 開会挨拶 「日本の専門職高等教育質保証:現状と今後の方向性」

### 川口 昭彦

一般社団法人専門職高等教育質保証機構 代表理事

#### 要旨

科学技術やグローバル化が急速に進展し、人生100年時代を迎えようとしている現代社会では、 多様なプロフェッショナル(専門職業人材)を育成することが、高等教育に求められている。このような時代にあって、世界各国は「学位・資格枠組み」や「教育の質保証」を含めた高等教育改革に 精力的に取り組んでいる。わが国では「専門職大学」制度によって、新しい高等教育の枠組みが 発足することになっている。

このような社会の動向を踏まえて、一般社団法人専門職高等教育質保証機構(QAPHE)では、国際シンポジウム「専門職高等教育の質保証」を計画した。この開会挨拶では、21世紀社会における専門職高等教育質保証の方向性を分析する。大学・短期大学では、第三者評価制度が導入されて10年以上経過し、その成果や課題を分析する。その上で、専修学校教育の質保証の方向性を考える。

参考資料: 川口昭彦(一般社団法人 専門職高等教育質保証機構編)『高等職業教育質保証の理論と実践(専門学校質保証シリーズ)』平成27年、ぎょうせい

# Opening Address "Quality assurance for Japanese professional higher education: Now and its future direction"

### Akihiko Kawaguchi

Representative Director
Institution for Accreditation and Quality Assurance of Professional Higher Education

#### **Abstract**

In today's era of rapid scientific-technological progress, globalization, and the looming 100-year lifespan, higher education needs to develop a broad spectrum of skilled professionals. To meet this need, vigorous efforts are being made in nations around the world to promote higher education reform, including improvements to degree and certification frameworks and quality assurance of education. In Japan, a new higher education framework will soon be launched with the slated introduction of a professional college system.

With this social context in mind, the Institution for Accreditation and Quality Assurance of Professional Higher Education (QAPHE) has organized today's international symposium entitled "Quality Assurance for Professional Higher Education." In my opening presentation I will discuss the directions of quality assurance for Japanese professional higher education in the 21st century. First, I will address the achievements and issues of the third-party evaluation system for universities and junior colleges, a system which has been in place for over a decade, and then consider the directions of quality assurance for specialized training college education.

Reference: Akihiko Kawaguchi (2015) "Theory and Practice of Quality Assurance for Professional Higher Education (Series of Quality Assurance for Specialized Training Colleges)" QAPHE (Ed.) Gyosei Corporation.

# 日本の専門職高等教育質保証現状と今後の方向性



### 川口昭彦

専門職高等教育質保証機構 代表理事 大学改革支援·学位授与機構 顧問·名誉教授

2018.1.17

QAPHE 国際シンポジウム

## 専門職高等教育質保証の方向性

2

- □ 21世紀社会における職業人育成のための対応
- □ 大学には質保証(評価)文化が定着している
- □ 保証すべき「質」とは?
- □専修学校質保証の方向性
- □ まとめ

# Quality Assurance For Japanese Professional Higher Education: Now and Its Future Direction



### Akihiko Kawaguchi

Representative Director, QAPHE Executive Consultant / Professor Emeritus, NIAD-QE

Jan. 17, 2018

**QAPHE International Symposium** 

# Directions of Quality Assurance (QA) for Professional Higher Education

2

- The Way Forward for Developing Professionals in the 21st century
- A Culture of QA (Evaluation) is Established and Maintained across Universities
- What are the Objectives of QA?
- Directions of Specialized Training College QA
- Summary

## 社会のパラダイム・シフト

3

- □ 知識や技術は日進月歩の進化を続け、産業の高度化が急速に進み、新しい産業・職業が次々と生まれる。一方で、今ある職業の多くが、新しい職業に入れ替わる。
- □ 情報技術(IT)や人工知能(AI)の開発によって、多くの 仕事がコンピューターに置き換えられ、人が担う仕事の 領域も変貌する。
- □ 21世紀社会の「多様化」「グローバル化」に対応できる 資質・能力を備えた人材が求められる。
- □ 専門職(職業)教育、生涯学習(リカレント教育)に対する期待が高まる。

QAPHE 18/1/17

# 高等教育の国際的な流れ

4

- □ 高等教育機関の「知の共同体」から「知の恊働・経 営体」へ
- □ 大衆化・ユニバーサル化そして流動化
- □ 国際的な高等教育機関間の競争 高等教育の国際化、グローバル化、ボーダレス化
- 教育パラダイムから学修パラダイム(「何を教えるか」)から「何ができるようになるか」)へ
- □ 諸活動の「質保証(評価)」に対する社会的要請

# Paradigm Shifts in Society

3

- Knowledge and technology are constantly evolving, and industries are rapidly advancing. A steady stream of new industries and occupations are emerging as existing jobs are replaced by new ones.
- With the development of information technology (IT) and artificial intelligence (AI), computers are replacing many jobs and transforming the nature of human work.
- Society requires workers with abilities and skills to adapt to an increasingly diverse and globalized world in the 21st century.
- These changes are creating greater expectations for professional (occupational) education and lifelong learning (recurrent education).

QAPHE 18/1/17

# International Trends in Higher Education (HE)

4

- From a "community of knowledge" to a "management entity/cooperative of knowledge."
- Trends towards mass and universal HE and increased student mobility.
- International competition among HE institutions: HE is becoming increasingly international, global, and borderless.
- A shift from an instruction paradigm (an emphasis on what to teach) to a learning paradigm (an emphasis on what students learn).
- Social demand for QA of HE activities.

## 職業人養成のための課題と対応

5

- □ 産業競争力の維持・強化、労働生産性の向上のために、 実践的な専門職業人材の育成が必要である。
- □ 大学・短期大学では、教養教育と専門教育の中で職業 教育を行うものとされ、職業実践知に基づく技能教育は、 明確には位置づけていない。
- □ 専修学校は、技能教育に強みを持ち、制度的自由度が 高いものの、質保証の面で課題がある。
- □ 自己の職業分野における高度な専門技能を身につけるとともに、変化への対応等に必要な基礎・教養、理論に裏づけられた実践力等を兼ね備えた専門職業人(プロフェショナル)の養成が重要である。

QAPHE 18/1/17

6

## 大学には質保証文化が定着している

質保証文化とは 大学評価(認証評価)の制度化 認証評価は機能している!

# Training Professionals: Issues and Solutions

5

- To maintain and promote industrial competitiveness and enhance labor productivity, HE must produce skilled, workready professionals.
- Universities and junior colleges are expected to provide professional training as part of their liberal arts and professional curricula, but there is no clear policy on skills training based on practical wisdom.
- Specialized training colleges are strong at teaching specific skills and face fewer bureaucratic regulations, but there is room for improvement in <u>quality assurance</u>.
- It is important to develop professionals equipped with specialized skills in their chosen field of work, baseline knowledge and ability to effectively respond to changes, and practical competencies grounded in theoretical understanding.

QAPHE 18/1/17

6

# A Culture of QA is Established and Maintained across Universities

What is the culture of QA?

The establishment of a university evaluation (Certified Evaluation and Accreditation) system.

The Certified Evaluation and Accreditation system is functioning well.

## 質保証文化とは

7

- □ 質保証情報を自ら価値づけ、自らの責任で次の活動を選択していくこと。
- □ 質保証結果に基づいて、諸活動の質の改善・向上 を図り、説明責任(アカウンタビリティ)を確保することが、社会的な流れとなっている。
- □「評価」の主要目的は、「質保証」である。
- □ 質保証(評価)の考え方、内容、方法などは、社会 的環境の変化とともに、「進化」しなければならない。

QAPHE 18/1/17

## 大学評価の歴史的経過

8

- □ 大学設置基準の大綱化と大学自らによる自己点 検・評価の努力義務(1991)
- □ 自己点検・評価の実施義務化、評価結果の公表義 務化、外部評価の努力義務化(1998)
- □ 大学改革支援・学位授与機構(当時、大学評価・学 位授与機構)の創設(2000)
- □ 学校教育法により認証評価(第三者評価)制度の 導入(2003)
- □ 専門職大学院の発足(2003)
- □ 専門職大学の発足(2019)

## What is the Culture of QA?

7

- The concept that institutions attach their own value to information obtained through QA actions and choose their next actions accordingly.
- The practice of using evaluation results to improve and enhance activities and ensure accountability is becoming a social trend.
- The primary objective of an evaluation is QA.
- The theory, content, processes, and procedures of QA (evaluation) must evolve in step with changing social conditions.

QAPHE 18/1/17

# History of University Evaluation

8

- The University Act was amended to relax some of its provisions and introduce an efforts obligation for universities to conduct self-assessments. (1991)
- Implementation of self-assessments and publication of the self-assessment results were made mandatory, while external evaluation was made an efforts obligation. (1998)
- □ The National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education (NIAD-QE, formerly the National Institution for Academic Degrees and University Evaluation (NIAD-UE)), was founded. (2000)
- The School Education Act was amended to introduce the Certified Evaluation and Accreditation (third-party evaluation) system. (2003)
- □ The professional graduate school system was launched. (2003)
- The professional and vocational university / junior college system is scheduled for launch. (2019)

## 認証評価

q

- □機関別認証評価
  - □ 機関全体(大学、短期大学、高等専門学校)が対象となる。
  - □ 7年ごとに評価を実施する。
  - □ 評価機関が定めた基準・方法等により評価を実施する。
- □専門分野別認証評価
  - □ 専門職大学院が対象となる。
  - □ 5年ごとに評価を実施する。
  - □ 評価機関が定めた基準・方法等により評価を実施する。
- □ 認証評価以外の分野別評価:薬学教育、リハビリテーション教育、工学教育(JABEE)、医学教育

QAPHE 18/1/17

# 認証評価の効果・影響

10

- □教育研究活動等について全般的に把握できた。
- □教育研究活動等の今後の課題を把握できた。
- □教育研究活動等の改善を促進した。
- □ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識 や技術が向上した。
- □将来計画の策定に役立った。

## Certified Evaluation and Accreditation

9

- Institutional Certified Evaluation and Accreditation
  - Applies to the entire institution (university, junior college, or college of technology).
  - Evaluation is conducted every seven years.
  - Evaluation is based on the standards and methods set by the evaluation organization.
- Certified Evaluation and Accreditation by Academic Discipline
  - Applies to professional graduate schools.
  - Evaluation is conducted every five years.
  - Evaluation is based on the standards and methods set by the evaluation organization.
- Discipline-specific evaluations other than certified evaluation and accreditation are conducted in the following fields: pharmaceutical education, rehabilitation education, engineering education (JABEE), and medical education.

QAPHE 18/1/17

## Effects and Impacts of Certified Evaluation and Accreditation

10

- Provides an understanding of the institution's overall education and research activities.
- Provides an understanding of the issues faced by the institution's education and research activities.
- Promotes improvement in the institution's education and research activities.
- Builds knowledge and skills of the institution's academic and administrative staff with regard to evaluation principles and methods.
- Provides useful data for formulating future policies and plans.

## 認証評価の課題

#### 11

- □ アカウンタビリティ(社会に成果を示す)と改善(質の向上に反映させる)という機能の両立は難しい。
- インプットとプロセス(アクション)に関する基準が、学習に 関するアウトプットの測定やアウトカムズの分析よりはる かに重要視されている。
- 最低基準の指標が、卓越性指向の基準より広く使用されている。

『進化する大学機関別認証評価 - 第1サイクルの検証と第2サイクルにおける改善- 』を参考

http://www.niad.ac.jp/n\_hyouka/jouhou/\_icsFiles/afieldfile/2013/05/22/no6\_12\_soukatsu.daigaku.pdf

QAPHE 18/1/17

## 次元の異なる質保証対象

12

	インプット	アクション	アウトプット	アウトカムズ
学生の 背 景	入学試験成 績、性別など	提供される教育 プログラム、サー ビスなど	学生の成績、卒 業率、就職率など	学生が身につけた 知識、技能、能力 など
教員の 背 景	教員組織、年 齢、学位など	教員の教育負担、 クラスサイズなど	授業回数、論文 数、研修活動など	教員の能力改善、 論文引用数など
教 育 資 源	施設設備、蔵 書数など	教育目的、学則、 管理運営体制な ど	設備の利用状況、 研修への参加状 況	学生の学修、成長、 成功など

アウトプットは、活動状況を示す指標として一定の有用性をもっているが、 外形的な数値によって示す場合が多く、その質や水準に関する情報は一般 的には含まれていない。アウトプットそれ自体では、学修成果があがったか どうか判断することは難しい。

# Issues of Certified Evaluation and Accreditation

11

- It is a challenge to balance the two goals of ensuring accountability (public disclosure of outcomes) and improving quality (using the evaluation results for improvement).
- The current practice places a much greater emphasis on standards related to input and processes (actions) than on learning output assessment and outcome analyses.
- Minimum benchmarks are used more widely than standards of excellence.

Reference: Evolving Institutional Certified Evaluation and Accreditation: Verification Report on the First Cycle (2005-2011) and Improvements for the Second Cycle (2012-2018)<a href="http://www.niad.ac.jp/n\_hyouka/jouhou/\_icsFiles/afieldfile/2013/05/22/no6\_12\_scukatsu.daigaku.pdf">http://www.niad.ac.jp/n\_hyouka/jouhou/\_icsFiles/afieldfile/2013/05/22/no6\_12\_scukatsu.daigaku.pdf</a>

QAPHE 18/1/17

## Different Dimensions of QA Targets

12					
		Input	Action	Output	Outcomes
	Student background	Entrance exam results, gender, etc.	Education programs and services provided	Student grades, graduation rate, employment rate, etc.	Knowledge, skills, abilities, etc., acquired by students
	Teacher background	Faculty organization, age, academic credentials, etc.	Burdens on teachers, class size, etc.	Number of classes, number of academic papers, teacher training, etc.	Faculty development, number of citations, etc.
	Education resources	Equipment and facilities, library holdings, etc.	Education goals, school rules, governance structure, etc.	Facility use, training participation	Student learning, growth, success, etc.

Often expressed in objective, numerical terms, output is to some extent a useful indicator for assessing an institution's performance; however, it generally does not give information about the quality and standard of what is being assessed. Output alone is not sufficient to determine the achievement of learning outcomes.

13

# 保証すべき「質」とは?

QAPHE 18/1/17

## 質保証するための視点

14

- □ 卓越性(高い水準の質)
- □関係者の満足度
- □基準に対する適合性
- □目的に対する適合性
- □機関の目標の達成度

社会が求める「教育の質保証」の最重要ポイントは、

- 当該機関における学修成果(知識、スキル、コンピテンシー)が、どのような特色があり、優れているか
- □学生の満足度

**QAPHE** 

What are the Objectives of QA?

QAPHE 18/1/17

# **QA** Perspectives

14

- Excellence (high quality standards)
- Stakeholder satisfaction
- Compliance with standards
- Consistency with goals and objectives
- Achievement of the institution's goals and objectives

Society's central concerns in quality assurance of education relate to:

- The characteristics and standard of learning outcomes (knowledge, skills, competencies) that students are expected to attain by attending the institution
- Student satisfaction

QAPHE

## 高等教育の質保証システム

15

- □ 内部質保証:第一義的に機関(組織)自身の責任である。外部評価(学校関係者評価)も含まれる。
- □ 第三者質保証:設置基準、設置認可(事前規制、最低限の水準を保証・確保)、認証評価(事後チェック、適格認定と教育研究の質の向上を促進)
- □ 内部質保証は、各機関(組織)が独自の考え方に基づいて実施しても、社会から観て理解できないこともある。内部質保証にも、ある程度共通的な基準や指標が必要である。

QAPHE 18/1/17

専修学校の質保証の方向性

16

# The QA System for HE

15

- Internal QA: IQA is the primary responsibility of the institution (organization), and the process should include an external evaluation (stakeholder evaluation).
- Third-party QA: The University Establishment Standards and the Establishment Approval System (pre-establishment regulations to ensure and guarantee minimum standards) and The Certified Evaluation and Accreditation System (post-establishment monitoring and accreditation to promote the quality enhancement of education and research)
- Internal reviews based on an institution's own unique logic may not always be understood by the outside world. Some form of uniform IQA practice guidelines or parameters is necessary.

QAPHE 18/1/17

16

# Directions of Specialized Training College QA

## 専修学校評価の歴史

#### 17

- □ 自己点検評価・結果公表の努力義務(2002)
- □ 自己評価の実施、結果公表の義務化(2007)
- □ 学校関係者評価(保護者、地域住民等の学校関係 者による評価)の努力義務(2007)
- □ 第三者評価の定義(学校評価ガイドライン[2010年 改訂])
- □ 職業実践専門課程の第三者評価試行(2014)
- □ 専修学校の第三者評価(?)

QAPHE 18/1/17

# 専修学校に求められる質保証

#### 18

- □ 養成しようとしている人材像、期待できる学修成果(知識、スキル、コンピテンシー)などを明示する。
- □ 目的・目標としている人材像や学修成果が、どの程度達成されているかを定期的に評価する。
- □ 学校の質を自ら保証する内部質保証システムを構築し、それを十分機能させることが自律的組織としての証明である。
- □ 積極的な情報提供(評価結果も含む)
- □ 第三者質保証では、その内部質保証システムが機能し、質の改善・向上が絶えず図られているかどうかを検証する。

# History of Specialized Training College QA

17

- Implementation of self-assessment and publication of the self-assessment results were made an efforts obligation. (2002)
- Implementation of self-assessment and publication of the self-assessment results were made mandatory. (2007)
- Implementation of stakeholder (e.g., parents and local residents) evaluation was made an efforts obligation. (2007)
- Third-party evaluation was defined in the revised School Evaluation Guideline (2010 edition).
- Pilot implementation of third-party evaluation for Professional Post-Secondary Courses was launched. (2014)
- Third-party evaluation for specialized training colleges. (TBA)

QAPHE 18/1/17

## Requirements of Specialized Training College QA

18

- Colleges should clearly state the desired characteristics and attributes of graduates and the expected learning outcomes (e.g., knowledge, skills, competencies) of their programs.
- The QA process should periodically assess the college's effectiveness in developing the desired characteristics and attributes in students and in achieving the expected learning outcomes.
- The proof of an institution's autonomy is the development and implementation of an effective IQA program through which the institution can ensure the quality of its education.
- Colleges should actively disclose information, including the evaluation results.
- Third-party QA should verify the effectiveness of the IQA program and whether sustained quality improvement efforts are being made.

## QAPHE の評価基準

19

評価基準は、五基準から構成され、基準ごとに基本的な観点(24項目)が設定されている。

- 基準1 目的・目標の設定および入学者選抜(5項目)
- □ 基準2 専修学校設置基準および関係法令等の適合性(8項目)
- □ 基準3 職業実践専門課程の選定要件の適合性(3 項目)
- □ 基準4 内部質保証(4項目)
- □ 基準5 学修成果(4項目)

QAPHE 16/08/18

20

## まとめ

QAPHE 国際シンポジウムの内容 教育質保証の最重要課題は学修成果

## **QAPHE Evaluation Standards**

19

The Evaluation Standards consist of five standards, each of which contains a basic evaluation viewpoint. There are 24 items in total.

- Standard 1: Goals, objectives, and enrollment selection (5 items)
- Standard 2: Compliance with Standards for the Establishment of Specialized Training Colleges and Other Regulations (8 items)
- Standard 3: Compliance with Accreditation Requirements for Professional Post-Secondary Courses (3 items)
- Standard 4: Internal Quality Assurance (4 items)
- Standard 5: Learning Outcomes (4 items)

QAPHE 18/1/17

20

# Summary

QAPHE International Symposium Program
The Key Focus of Quality Assurance: Learning
Outcome Assessment

## QAPHE 国際シンポジウムの内容

21

- 基調講演 I「オーストラリアにおける職業教育訓練の規制」 Irene Ioannakis(オーストラリア技能質保証機関 コミッショナー)
- 基調講演 II「高等教育質保証: ヴェトナムからの期待」 Nguyen Van Trao(ハノイ大学 副学長)
- □ 講演「専門職大学制度の発足とその質保証」 塩原 誠志(文部科学省高等教育局 主任大学改革官)
- □ パネルディスカッション

QAPHE 18/1/17

## 質保証の最重要課題は学修成果

22

- □ 教育 = 教授+ 学修であり、学生の学修成果(知識、スキル、コンピテンシー)について社会に明示することが重要である。
- □ 在学によって期待できる学修成果を明示する。
- □その学修成果の達成状況を定期的に分析する。
- □ その分析結果を社会に向けて発信するとともに、質の改善・向上に資することが求められる。

# QAPHE International Symposium Program

21

Keynote Speech I: "The regulation of vocational education and training in Australia"

Irene Ioannakis, Commissioner, Regulatory Operations, Australian Skills Quality Authority

Keynote Speech II: "Quality assurance for higher education: Local voice from Vietnam"

Nguyen Van Trao, Vice President, Hanoi University

- Speech: "The inauguration of a professional and vocational university / junior college system and its quality assurance"
   Seishi Shiobara, Chief University Reform Director, Higher Education Bureau, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology
- Panel discussion

QAPHE 18/1/17

# The Key Focus of Quality Assurance: Learning Outcome Assessment

22

- Education = Instruction + Learning
   It is important to publish student learning outcomes (knowledge, skills, competencies).
- Establish the learning outcomes that students are expected to attain by studying at the institution.
- Periodically assess the achievements of the expected learning outcomes.
- Publish the assessment results and use them for quality improvement and enhancement.

# Keynote Speech I "The regulation of vocational education and training in Australia"

### Irene Ioannakis

Commissioner, Regulatory Operations, Australian Skills Quality Authority

#### **Abstract**

The vocational education and training (VET) sector is crucial to the Australian economy - both for the development of the national workforce and as a major export industry.

The Australian Skills Quality Authority (ASQA) commenced operations as the national regulator for Australia's VET sector on 1 July 2011.

ASQA regulates courses and training providers to ensure nationally approved quality standards are met so that students, employers and governments have confidence in the quality of VET outcomes delivered by Australian registered training organisations (RTOs).

The face of Australia's economy and workforce is undergoing a rapid transformation. This has placed VET in a unique position to deliver the right mix of skills needed now and in the future.

### 基調講演 I 「オーストラリアにおける職業教育訓練の規制」

## アイリーン・イオアナキス

オーストラリア技能質保証機関 規制業務コミッショナー

#### 要旨

オーストラリア経済にとって職業教育訓練(VET)セクターは、国内労働力の育成という意味でも、また主要な輸出産業としても極めて重要である。

オーストラリア技能質保証機関(ASQA)は、2011年7月1日にオーストラリアのVETセクターにおける国家的な規制機関として業務を開始した。

登録職業教育訓練機関(RTOs)が提供するVETの成果の質に対する学生・雇用主・政府機関の信頼を確保するために、ASQAは教育訓練コースや機関が国家的に承認された品質基準を満たしていることを規制を通じて保証している。

オーストラリアの経済・労働力全体が目まぐるしい変化にさらされている。こうした中VETは、現在から将来にわたり求められる適切な構成の技能を提供すべき独自の立場に置かれている。





# Australia's vocational education and training (VET) system

- VET provides formal training nationally for people across most jobs in the economy with the exception of those requiring university qualifications (including skilled paraprofessional occupations)
- VET covers adult workers seeking to upgrade skills, school leavers entering tertiary study (except for university) and some technical and vocational education and training aimed at senior secondary school students.





### オーストラリアの職業教育訓練(VET) 制度

- VET は、大学資格を必要とする職業(技能準専門職を含む)を除 き、経済における大部分の職業に就く人に対して全国的に正式な 教育訓練を提供する制度。
- VETの対応範囲は、技能向上を目指す成人労働者、高等教育(大学を除く)に入学する義務教育卒業者、後期中等教育の学生に向けた技術・職業教育訓練の一部である。

## Purpose of VET regulation

- Ensure learners get quality training and assessment
- Ensure employers get skilled workers
- Protect Australia's international reputation for high quality education and training.



### Size of the Australian VET market

- Approximately 4 million students engage in the VET system each year
- Approximately 4,000 registered training organisations (RTOs)
- 54% of employers use the VET system
- RTOs can be public institutions and private providers.



#### VET規制の目的

- 学習者に質の高い訓練および評価を保証すること
- 雇用主に対し、技能労働者を確実に提供すること
- 質の高い教育訓練に関するオーストラリアの国際的評判を維持すること



#### オーストラリアのVET市場規模

- 毎年、VET制度により教育を受ける学生は約400万人
- 登録された職業教育訓練機関(RTOs)は約4,000
- 雇用主の54% がVET制度を利用
- RTOsには公立機関、民間機関の両方がある

#### VET framework in Australia



	School	VET	- Framework
10			Doctoral Degree
9			Masters Degree
8		Graduate Diploma Graduate Certificate	Graduate Diploma Graduate Certificate Bachelor Honours Degree
7			Bachelor Degree
6		Advanced Diploma	Associate Degree Advanced Diploma
5		Diploma	Diploma
4		Certificate IV	
3	Senior	Certificate III	
2	Secondary	Certificate II	
1	Certificates	Certificate I	



# Employers' satisfaction with VET system

- 82% of employers were satisfied that nationally recognised training (which is not part of an apprenticeship or traineeship) provides employees with the skills they require for the job
- 77% of employers were satisfied that apprentices and trainees are obtaining skills they require from training
- 75% of employers were satisfied that vocational qualifications provide employees with the skills they require for the job.

Source: NCVER Employers' use and views of the VET system 2017



#### オーストラリアのVET 枠組(教育資格枠組)



	学 校	VET	- Framework
10			博士
9			修士
8		グラデュエート・ディプロマ (準修士レベル) グラデュエート・サーティフィケート (準修士レベル)	グラデュエート・ディプロマ グラデュエート・サーティフィケート 優等学士
7			学士
6		上級ディプロマ	<b>準学士</b> 上級ディプロマ
5		ディプロマ	ディプロマ
4		サーティフィケート4	
3	高等学校	サーティフィケート3	
2	中等学校	サーティフィケート2	
1	サーティフィケート	サーティフィケート1	



#### VET制度に対する雇用主の満足度

- 82% の雇用主が、国が認定した教育訓練(実習制度や訓練制度 の一部ではない)によって被雇用者は仕事に必要な技能を身に 付けていると満足を示す。
- 77%の雇用主が、教育訓練によって実習生や訓練生が必要な技能を習得していると満足を示す。
- 75% **の雇用主が、職業資格によって被雇用者は仕事に必要な** 技能を身に付けていると満足を示す。

出典: NCVER Employers' use and views of the VET system 2017



#### The Australia Skills Quality Authority (ASQA)

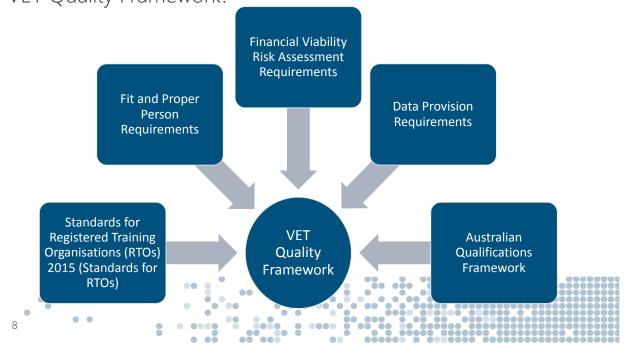
ASQA was established by the Australian Government on 1 July 2011. ASQA seeks to ensure the VET sector's quality is maintained through the effective regulation of:

- RTOs (providers that deliver VET qualifications and courses)
- providers that deliver VET courses to overseas students
- accredited VET courses
- certain providers that deliver English Language Intensive Courses to Overseas Students (ELICOS).



# Regulation of VET

ASQA' s powers are set out in the *National Vocational Education* and *Training Regulator Act 2011* (the Act), which prescribes the VET Quality Framework.



#### オーストラリア技能質保証機関(ASQA)

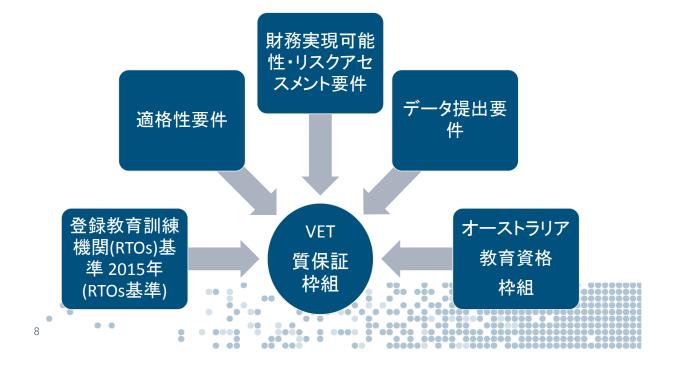
ASQAは2011年7月1日にオーストラリア政府によって設立された機関。ASQAは、以下に対する効果的な規制を通じてVETセクターの質を維持することを目指している。:

- 登録された教育訓練機関(RTOs)(VET資格およびコースを提供する機関)
- 留学生にVETコースを提供する機関
- 認定されたVETコース
- 留学生のための英語集中コース (ELICOS)を提供する一部の機関

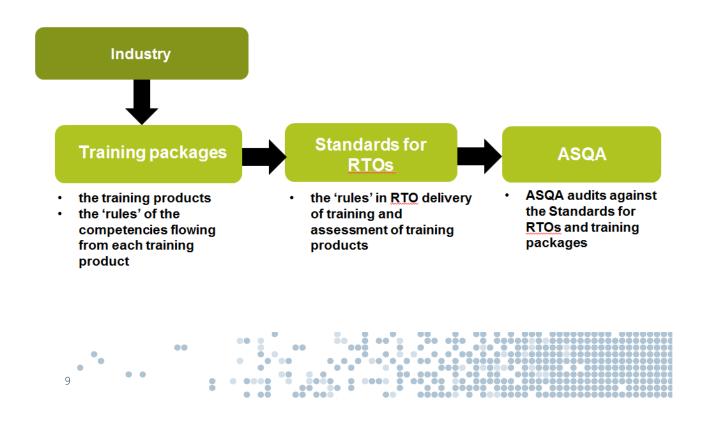


#### VETの規制

ASQAの権限は国家職業教育訓練規制機関法(2011年制定)(NVR法)に明記され、同法はVET 質保証枠組を規定している。



#### Industry engagement



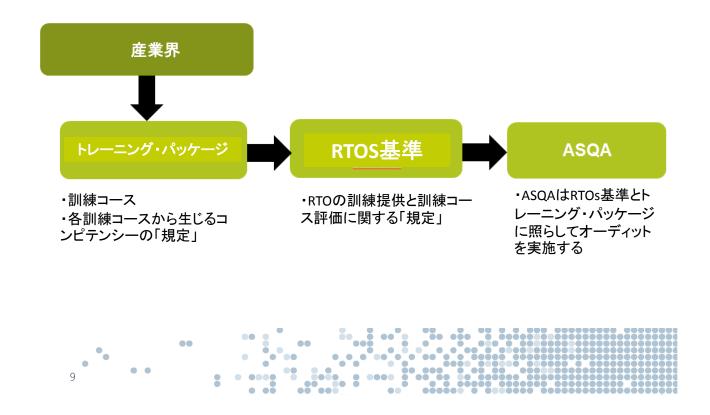
#### The Standards for RTOs

Learners, employers and industry have confidence in the integrity, currency and value of certification documents issued by RTOs, through high-quality training and assessment practices that:

- meet the requirements of the training packages and VET accredited courses
- are responsive to industry and learner needs
- are delivered by appropriately qualified trainers and assessors with the right support services, facilities and equipment.



#### 産業界との連携



#### RTOs基準

RTOsが提供する質の高い教育訓練と評価方法が以下を満たしていることにより、学習者、雇用主、産業界はRTOsが発行する修了証書の完全性、通用性、価値を信頼している。:

- トレーニング・パッケージとVET認定コースの要件を満たしている
- 産業界と学習者のニーズに対応している
- 適切な資格を持った教育者と評価者が、適切な支援サービス、施設、設備を用いて提供している



### ASQA' s processes

#### ASQA:

- registers new organisations entering the market
- re-registers existing providers
- approves applications to add a new course/s to the provider' s registration
- accredits national VET courses (outside of training packages)

ASQA has processed almost 27,000 applications since it was established.



# Registration of training providers

- Organisations and individuals are able to be approved as a RTO
  - only RTOs can deliver nationally recognised training
  - RTOs are only able to deliver nationally recognised training products that are approved on their 'scope of registration'
- RTOs can also apply to have training products added to or removed from their scope of registration at any time
- All current and past RTOs are listed on the 'National Register' at <a href="www.training.gov.au">www.training.gov.au</a>

#### ASQAのプロセス

#### ASQAは:

- VET市場に参入する新しい教育訓練機関の登録を行う
- 既存の機関の再登録を行う
- 機関の登録内容への新しいコースの追加申請を承認する
- 国家的なVETコース(トレーニング・パッケージ以外)を認定する

ASQAは設立以来、約27,000件の申請書を処理している



#### 職業教育訓練機関の登録

- RTOとして認可される機関および個人
  - 。 国が認定した教育訓練を行えるのは RTOs のみ
  - 。 RTOsは「登録範囲」に認可された国が認定した訓練コースだけを提供することができる
- RTOsはいつでも、「登録範囲」における訓練コースの追加または 削除を申請することができる
- 現在および過去のすべてのRTOsはホームページ

   www.training.gov.au
   'National Register' (全国登録簿)に記載されている

#### Registration process

- To apply for initial registration as a RTO, an application must be submitted, including which training products the applicant wants to deliver. The initial registration process includes:
  - financial viability test
  - o fit and proper persons test for owner/manager
  - full on-site audit of all standards and all training products
     all resources must be in place for all courses before registration can be granted
- Renewal of registration process is similar, except financial viability test and on-site audit are not always undertaken.

13

#### Monitoring provider compliance

- RTOs may be audited at any time. Common audit reasons are:
  - initial registration audit
  - post-initial audit (12-24 months after registration)
  - renewal of registration audit
  - compliance audit
- Different audit types examine different aspects of the Standards for RTOs and the RTO's scope of registration, depending on the purpose of the audit
- Audits are conducted by either ASQA staff or by contracted auditors.

#### 登録プロセス

- RTOとして初めて登録されるには、提供したい訓練コースを記載した申請書を提出しなければならない。初回の登録プロセスは以下の通り:
  - 。 財務実現可能性審査
  - 。 運営者/管理者の適格性審査
  - 。 すべての基準およびすべての訓練コースに対する現地オー ディットの完全実施-登録が許可される前に、全コースについ てすべての資源が揃っていなければならない
- 登録更新プロセスは以上と同様だが、財務実現可能性審査と現 地オーディットは必ず実施するわけではない。



#### 教育訓練機関コンプライアンスの監視

- RTOsはいつでもオーディットを受ける可能性がある。オーディットの 一般的な理由は以下の通り:
  - 。 初回の登録オーディット
  - 登録後オーディット(登録後12-24カ月後)
  - 。 登録更新のオーディット
  - 。 コンプライアンス・オーディット
- 目的に応じて、各種オーディットでは点検するRTOs基準やRTO登録範囲内の側面が異なる。
- オーディットは ASQA職員または委託契約の監査員が実施する。

# ASQA' s regulatory activity: 2016-17

Activity	Number
Applications received	5995
Complaints	2180
Audit activity	1632
Application-based audits	713
Non-application based audits	919



# ASQA' s regulatory approach

- ASQA' s principal tool to assess quality training is through site audits
- Where providers do not meet the required Standards for RTOs, ASQA can take regulatory action including:
  - applying sanctions (including suspension or cancellation of registration), or
  - enforcement action such as giving infringement notices, taking court action.

#### ASQA**の規制活動**: 2016-17年

活動	件数
受領申請書	5995
不服申し立て	2180
オーディット活動	1632
申請に基づくオーディット	713
申請以外のオーディット	919



# ASQAの規制アプローチ

- 質の高い教育訓練を評価するためにASQAが使う主要ツールは、 現地オーディットである
- 求められるRTOs基準を教育訓練機関が満たしていない場合、 ASQA は以下のような規制活動を行う:
  - 制裁措置の実施(登録の停止または取り消しを含む)、または
  - 侵害の通知、訴訟の提起といった強制措置

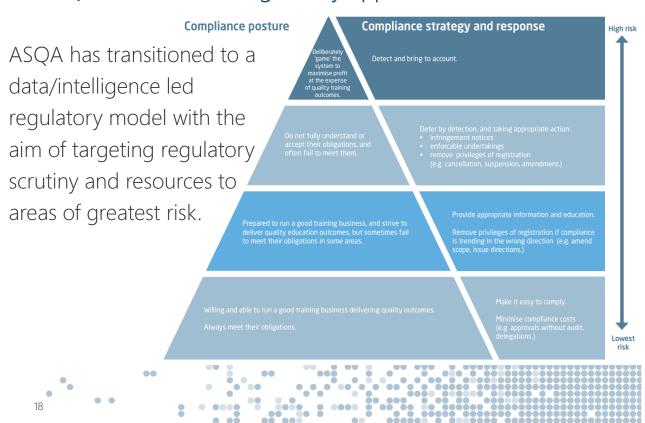
# ASQA's regulatory decisions: 2016-17

Activity	Number
Cancellations	125
Suspensions	56
Written directions	98
Infringement notices, civil penalties & criminal prosecutions	33*

<sup>\*</sup>Of these, 24 infringement notices related to one provider.



# ASQA' s risk-based regulatory approach



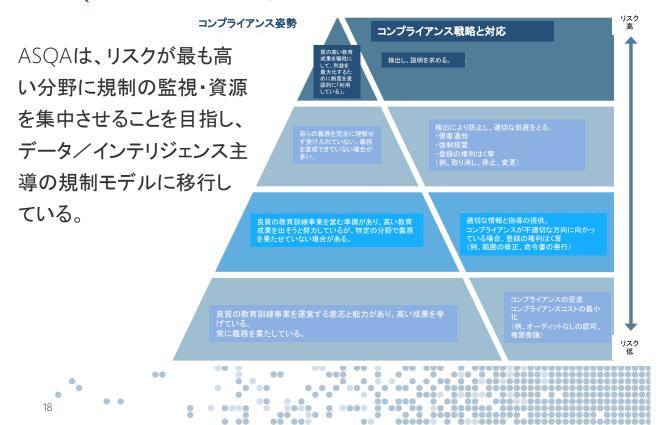
### ASQA**の規制関連の決定**: 2016-17年

活動	件数
取り消し	125
停止	56
命令書	98
侵害通知、民事罰、刑事訴追	33*

\*このうち24の侵害通知は一つの機関に対して発行されたもの



# ASQAのリスクに基づく規制アプローチ



# Risk-based regulation

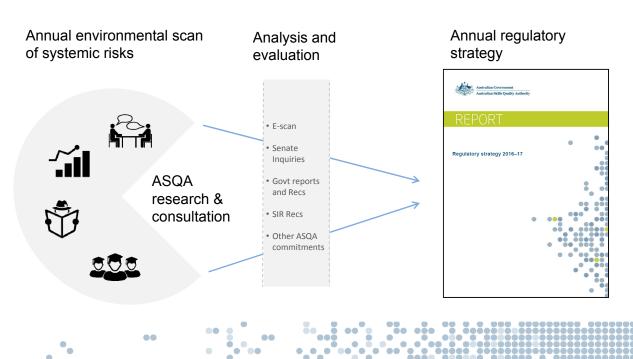
The elements of this model include:

- an intelligence framework to capture and evaluate information
- environmental scanning to inform where and how ASQA should apply greater scrutiny in its regulation
- provider risk rating and provider profiling to assess providers' compliance posture
- strategic industry reviews to better address significant and systemic risks in the VET sector.



# ASQA' s Regulatory Risk Framework

Systemic risk



#### リスクに基づく規制

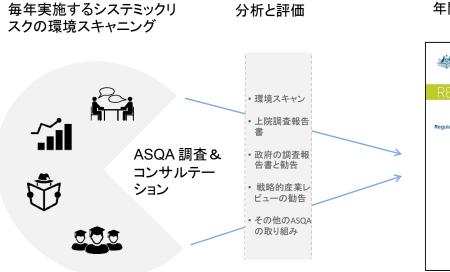
このモデルは以下の要素から成り立つ

- 情報を取得し評価するためのインテリジェンス枠組
- ASQA が規制において監視を強化すべき領域と手法を知らせる
  環境スキャニング
- 訓練機関のコンプライアンス姿勢を評価するための機関リスク格付けと機関プロフィール
- VETセクターにおける重大なシステミックリスクに的確に対処する ための戦略的な業界レビュー



#### ASQA規制のためのリスク評価枠組

システミックリスク

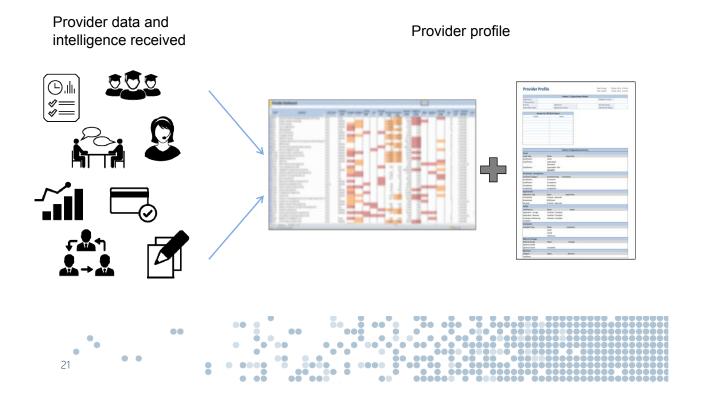


#### 年間規制戦略



# ASQA' s Regulatory Risk Framework

Provider risk identification



# Future challenges

- Balancing Australia's need for skills and economic growth with support for quality oversight
- Investment into systems and data to support risk-based regulation
- Getting the skills mix right in qualification designs the balance between industry and educators
- Encouraging compliance options and strategies.

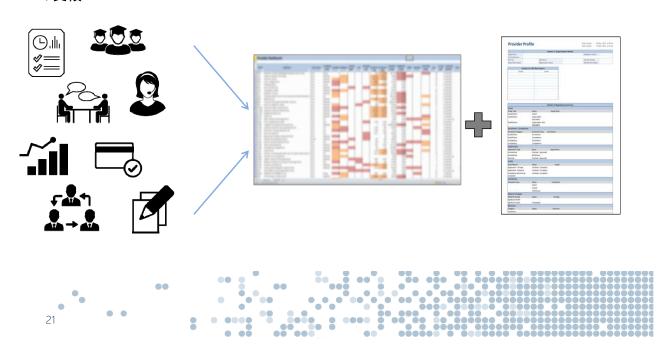


#### ASQA規制のためのリスク評価枠組

教育訓練機関リスクの特定

機関のデータおよび情報 の受領

機関プロフィール



#### 今後の課題

- 技能と経済成長に対するオーストラリアのニーズと、質の高い監視体制支援を両立させること
- リスクに基づく規制を支援するための制度と データへの投資
- 資格設計における技能の適切な構成を目指す-産業界と教育者のバランスをとる
- コンプライアンスの促進 オプションと戦略



### ASQA' s Regulatory Strategy 17-18: Target areas

1. Australia's international education sector

With the recent gowth in Commonwealth Register of Institutions and Courses Students (CRICOS) provider registrations for onshore delivery, the Australian Government has forecasted continued growth in international education

2. Capability of trainers and assessors

A significant issue previously identified in ASQA's Regulatory Strategy 2016-17 as a critical concern for the VET is RTO trainer and assessor capability.



#### Thank you

- Visit the ASQA website—asqa.gov.au
- Send an email—enquiries@asqa.gov.au
- Subscribe to the ASQA Update
- Follow ASQA on Twitter @asqagovau



# ASQA**の規制戦略**17-18年: ターゲット分野

#### 1. オーストラ リアの国際 教育セクター

留学生向け教育機関・コースの政府登録制度(CRICOS) の機関による国内での教育提供に関する登録が最近増加しているため、オーストラリア政府は国際教育分野の成長が今後も続くと予測している。

# 2. 教育者および評価者の能力

ASQA規制戦略2016-17年においてVETの重大事項として 認識された重要課題は、RTOの教育者および評価者の 能力である。



#### ありがとうございました

- ASQA ウェブサイト—asqa.gov.au
- Eメール—enquiries@asqa.gov.au
- ASQA最新情報の提供(登録制)
- Twitter での情報提供@asqagovau



# Keynote Speech II "Quality assurance for higher education: Local voice from Vietnam"

#### **Nguyen Van Trao**

Vice President, Hanoi University

#### **Abstract**

In this paper we highlight the Vietnamese government's full awareness of and commitment to quality assurance (QA) in higher education in Vietnam, which has led to great efforts for setting up the QA machanisms with a strong emphasis placed on a standard-based accreditation system. We then outline institutional and program accreditation.

The research presented in this paper is a qualitative case study based on policy document analysis, which examines a corpus of policy texts, statements and commentary. The findings reveal that, besides the achievements, higher education QA in Vietnam has resulted in some sginificant concerns, such as the matter of independence of the accrediting bodies, the national framework for QA practice, and the accreditation standards set.

### 基調講演Ⅱ「高等教育質保証:ヴェトナムからの期待」

#### グエン・ヴァン・チャオ

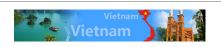
ハノイ大学 副学長

#### 要旨

本発表では、高等教育の質保証に対するベトナム政府の十分な認識と取り組みについて取り上げる。政府は、評価基準を用いたアクレディテーション(認証評価)・システムを特に重視し、質保証制度の整備に力を入れてきた。次いで、教育機関およびプログラムのアクレディテーションについて概要を述べる。

本発表における研究は、政策文書、発表資料、解説など関連資料の分析検討に基づく定性的事例研究である。研究結果によると、ベトナムの高等教育質保証は成果を上げているものの、認証評価機関の独立性、質保証を実践するための国の枠組み、認証評価基準など、大きな課題を抱えている。







# Who are We?

#### • A/Prof. Van-Trao, NGUYEN

Vice President (Graduate Studies & Research)
Dean | Department of Postgraduate Studies |
Hanoi University | Hanoi | VIETNAM |
Room 208 Building A |
Phone +84 4 385 47558 | Mob +84 916861197 |
Email traonv@hanu.edu.vn | lantrao99@gmail.com |
Journal of Foreign Language Studies Editor |

#### ∘ Thu Huong, PHAM

Director of Vietnam Japan Collaboration Center
Head of Translation and Interpretation Division, Japanese
Language Department
Hanoi University | Hanoi | VIETNAM |
Room 304 Building B |

Tel: +84024-3232.3133

Website: http://jvcc.hanu.edu.vn/

#### 高等教育の質保証:ベトナムからの期待

専門職(職業)高等教育の国際協調に関するシンポジウム

(2018年1月17日)

1





# スピーカー紹介

○ A/Prof. Van-Trao, NGUYEN(ヴァン・チャオ、グエン)

ベトナム ハノイ大学

副学長(大学院&研究)

大学院研究部長

A棟 208号室

電話: +84 4 385 47558 | 携帯: +84 916861197 |

Email traonv@hanu.edu.vn | lantrao99@gmail.com |

『Journal of Foreign Language Studies』誌編集者|

◦ Thu Huong, PHAM(トゥー・ホウオン、ファム)

ハノイ大学 ベトナム・日本協力センター(Vietnam Japan

Collaboration Center) 理事長

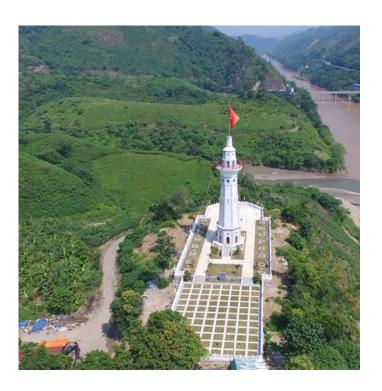
ハノイ大学 日本語学部 通訳翻訳学科 学科長

B棟 304号室

電話: +84024-3232.3133

ウェブサイト: http://jvcc.hanu.edu.vn/

2



#### **Quality Assurance for HE in VN**

- QA is a planned and systematic review process of an institution/program to determine whether or not acceptable standards of education, scholarship, and infrastructure are being met, maintained and enhanced.
- QA is "a natural value added which need to be constantly nurtured and developed" (Prof. Nantana Gajaseni (Executive Director, AUN).
- There are models/approaches to QA in HE and Professional/Technical Education. The three popular models are Quality Accreditation, Quality Assessment and Quality Audits.

3

# The National Quality Assurance Framework for VN

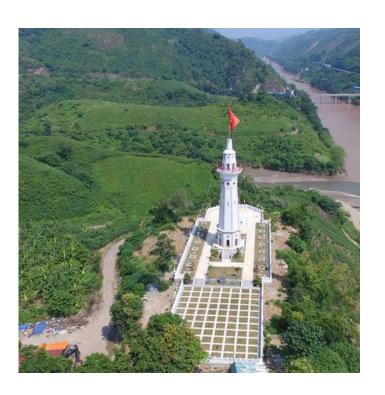
- VN Education Quality Management Agency (VQA) (formerly The General Department of Education Testing and Accreditation (GDETA) (established in 2003), a unit of Ministry of Education and Training (MoET), is the competent authority in VN for the licensing, accreditation and quality assurance of providers and academic programs. QA aims to safeguard the quality of vocational/professional and higher education within an internal and external framework of accountability on a national level.
- VQA provides guidance to educational institutions that embark on the processes of Internal and External Quality Assurance in order to enhance the learning outcomes provided through their educational programs.





www.shutterstock.com · 37464795

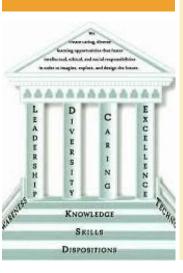




#### ベトナムにおける高等教育の質保証

- ・質保証とは、教育そのものや、教育・学術の成果、施設設備が適正基準を満たしているか、水準が維持されているか、水準が継続的に高められているか判断するため、教育機関や教育プログラムに対して実施される計画的・体系的な審査である。
- 質保証とは「常に育み高めることが必要な、未開拓の付加価値である」。(ASEAN大学連合前事務局長 ナンタナ・ガジャセニ教授)
- 高等教育および専門職・技術教育における質保証には、複数のモデルやアプローチがある。なかでも、アクレディテーション(認証評価)、アセスメント(評価)、監査の3つが一般的モデルである。





#### ベトナムにおける国の教育質保証 の枠組み

- 。 品質管理局(DQA: Department of Quality Administration、前身はGDETA: 教育試験・アクレディテーション局、2003年設立)は、教育提供機関及び教育プログラムに対するライセンスの供与、アクレディテーション(認証評価)、質保証を所管する、ベトナム教育訓練省の一部門である。質保証は、内部質保証・外部質保証の責任の枠内で、職業・専門職教育および高等教育の質を国レベルで保証しようとするものである。
- 。品質管理局(DQA)は、内部質保証・外部 質保証に取り組み始める教育機関に対して、 その教育プログラムによる学習成果を向上 させるため、アドバイスを提供している。

4

### QA for HE in VN

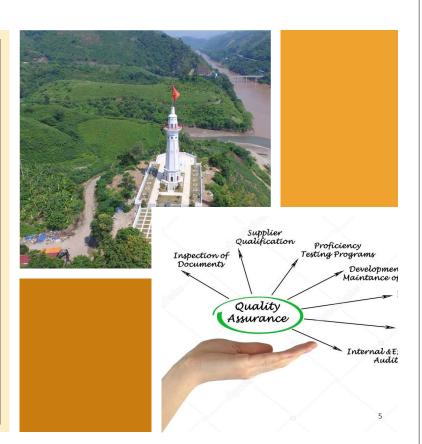
#### Internal Quality Assurance, IQA

Each HE institution in VN issues policies and mechanisms to ensure that the institution/program to meets the objectives aa well as stated standards of excellence applied for HE institutions in general or specific disciplines in particular.

#### External Quality Assurance, EQA)

Activities of all external bodies (perhaps, an accrediting agency) assessing the performance of an institution/program to ensure that the internal quality management system of the educational institution

- is compliant with stated standards and regulations;
- fit for purpose according to courses and service users; and
- implemented with effectiveness, comprehensiveness and sustainability.



# Approaches to QA

# Access Quality Scale Student Satisfaction



#### Quality Accreditation (Institutional and Program level):

focuses on the national standards external to the HE institution and an assessment of the institution in terms of those standards

#### Quality Assessment (Institutional and Program level):

A diagnostic review and evaluation of teaching, learning, and outcomes based on a detailed examination of curricula, structure, and effectiveness of the institution or program to determine if the institution or program meets generally accepted standards of excellence.

#### • Quality Audit:

focus on an HE institution's own standards and goals and its success in meeting them

#### → Quality Accreditation has been adopted as a model of/approach to QA

Accreditation refers to a process of self-study and external quality review designed to determine whether or not an HE institution has met or exceeded national published standards for accreditation and is achieving its **stated** mission, goals and mission.

#### ベトナム高等教育の質保証

#### 。内部質保証(IQA)

高等教育機関はそれぞれ、自校の教育方針 や教育システムを公表し、自校の制度やプロ グラムが目的に適っていること、高等教育機 関全般または特定分野の高等教育機関に適 用される規定の水準を満たしていることを保 証する。

#### ∘ 外部質保証(EQA)

認定機関など全ての外部組織が行う、教育機関/教育プログラムを評価する活動。当該教育機関の内部質管理システムが、以下であることを保証するための活動である。

- ∘ 規定の基準と規則に準拠している。
- 。履修課程およびサービス利用者の目 的にかなっている。
- 有効性、包括性、持続性をもって実施されている。



#### 質保証の取り組み

# 学習効果 教育の質 規模 学生 満足度



#### アクレディテーション(認証評価)(教育機関、プログラム):

高等教育機関の外部で定められた国家基準に基づく高 等教育機関の評価に重点を置く。

#### アセスメント(評価)(教育機関、プログラム):

教育機関または教育課程のカリキュラム、構成、有効性の詳細な検証に基づき、教育、学習、成果を分析的に審査・評価し、当該教育機関または教育プログラムが一般に認められた基準を満たしているか判断する。

#### 。監査:

それぞれの高等教育機関について、各校が独自の基準と目標を持ち、その実現に成功しているかに重点を置く。

→ アクレディテーションは質保証のひとつのモデル/取り組みとして採用されてきた

アクレディテーション(認証評価)とは、高等教育機関が国が定める基準 を満たしている、または上回っているかどうか、教育機関が定める使命 や目的を達成しているかどうか判断するための、自己評価および外部 (第三者)評価のプロセスである。

#### **Quality Accreditation (1)**

- From legal perspective, QA (Institutional and Program level) is well documented in Education Law (ED) (2005) and Higher Education Law (HED) (2012) and Bill on Amending, Supplementing a number of articles of the ED and HE Law (to be passed in mid-2018) as well as other legal documents on accreditation: e.g., decrees by VN government and circulars by MoET.
- VQA is responsible for policy making and instructing HE institutions to implement accreditation activities.
- HE accreditation in VN categorised into 3 levels: macro/national level (VQA and MoET), meso level (accreditation agencies) and micro level (HE institutions)
- From state management, MoET implements institutional accreditation (on national level), encourages HE institutions to have their programs to be accredited by international accrediting agencies. MoET supports the connection with international accreditation bodies.





7

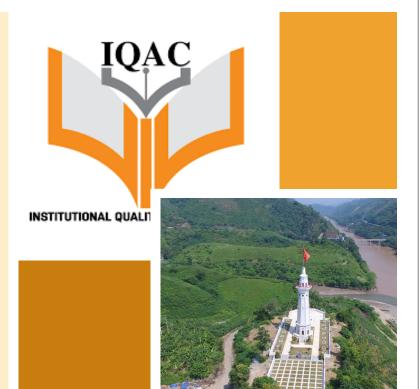
# **Quality Accreditation (2)**

 Institutional Level: a process of review and assessment of quality of an HE institution as a whole that results in a decision about whether or not to accredit the institution

(The national published standards for accreditation is adopted — Guideline # 1237/KTKĐCLGD-KĐĐH)

 Program Level: a process of selfstudy and external quality review used to scrutinize academic programs for quality assurance and quality improvement

(The national published standards for accreditation is adopted - Circular 04/2016/TT-BGDDT dated 14/3/2016)



# アクレディテーション (1)

- 教育機関、プログラムの質保証は、2005年教育法、 2012年高等教育法、両法の修正・補足条項に関する 法案(2018年中頃に成立予定)、およびその他の認証 評価に関する法律文書(政府政令、教育訓練省通知 など)に定められている。
- 品質管理局(DQA)は、教育政策の策定をその任務とし、高等教育機関に命じてアクレディテーションを実施させる責任を負っている。
- ベトナムにおける高等教育アクレディテーションは、国レベル(DQA、教育訓練省)、中間レベル(評価機関)、ミクロ・レベル(高等教育機関)の3つのレベルに分類される。
- 教育訓練省は、国レベルで教育機関のアクレディテーショを実施するとともに、高等教育機関に対して、教育プログラムについて国際評価機関の認証を取得するよう促している。教育訓練省は国際評価機関との連携をサポートしている。





7

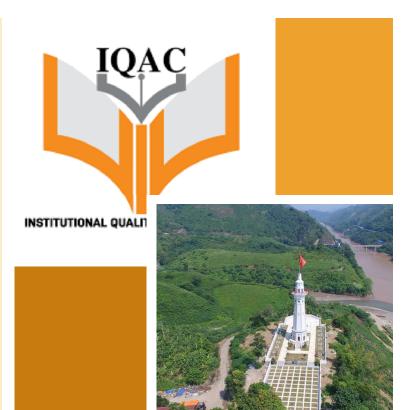
# アクレディテーション (2)

教育機関: 高等教育機関の質を 検討・評価するプロセスであり、ア クレディテーションの結果、教育機 関の適格・不適格が決定される。

(国が定める評価基準が採用されている)

- がイト・ライン #1237/KTKÐCLGD-KÐÐH)
- 教育プログラム:質の保証と向上を目的として、教育プログラムの審査に用いられる自己評価プロセスや外部(第三者)評価プロセス

(国が定める評価基準が採用されて いる-通知 04/2016/TT-BGDÐT、2016 年3月14日付け)



### **Quality Accreditation (3)**

- Quality Accreditation Process: self-evaluation → registration for external assessment → external assessment by accrediting agencies → Decision released (a decision resulting from the external review to accredit or deny accreditation, or some intermediate status such as candidacy for accreditation or probation)
- VN National Accreditation: VN MoET established 4 external professional accrediting bodies/agencies, known as CEA; namely,
  - VNU-CEA (4/11/2014)
  - VNU-HCM CEA (4/11/2014)
  - CEA-AVU&C (7/1/2016)
  - CEA-UD (2/2/2016)
- International Accreditation:
  - HCERES [Haut Conseil de l'Evaluation de la Recherche et de l'Enseignement Supérieur]
  - AUN-QA (ASEAN),
  - ABET (USA), AACSB
  - CTI (France)





# **Institutional Accreditation**

- Assess the performance of a tertiary institution as a whole with a focus on its mission, stated purpose, strategies, governance, leadership, relevance as well as its resources
- After a three-year trial (started in 2005 with the participation of 20 HEIs) and with the feedback and discussions from workshops and conferences, the 10/53 set of standards was revised to the 10/61 set (10 standards and 61 criteria) in Nov. 2007 and these have since undergone minor revision involving several of the criteria in 2012. The name of ten standards was kept the same; meanwhile, a couple of criteria were reviewed and eight criteria were added (MoET, 2007). Currently, all Viet Nam's universities are using the 10/61 set for their accreditation exercise.
- From 2018 onwards: The 25/111 Accreditation Set includes 25 standards, 111 criteria is to be emoployed with a 7-point rating scale for its quality assessment (Circular No 12/2017/TT-BGDDT dated 19/5/2017).

# アクレディテーション(3)

- アクレディテーションのプロセス: 自己評価 → 外部(第三者)評価の申請登録→認証評価機関による外部評価 → 評価結果の発表(外部評価により、適格・不適格の判断が下されたり、適格認定候補や仮認定などの経過措置が取られたりする)
- べトナム政府のアクレディテーション機関:ベトナム教育訓練省は、認証評価を専門に行う第三者機関を以下の4機関設立した。これらは教育アクレディテーションセンター(CEA)と称される。(カッコ内は設立年月日)
  - ∘ ベトナム国家大学(VNU)CEA (2014年11月4日)
  - ベトナム国家大学ホーチミン校(VNU-HCM)CEA (2014年11月4日)
  - ベトナム大学・短期大学協会(AVU&C)CEA(2016年1月7日)
  - ダナン大学(UD)CEA(2016年2月2日)
- 。国際評価機関:
  - HCERES(フランス研究・高等教育評価高等審議会)
  - ∘ AUN-QA(AUN: ASEAN大学連合)
  - ABET [工学教育プログラム認定機関](米国)、AACSB [経営学教育の認証評価機関]
  - 。CTI [技師資格委員会](フランス)





# 教育機関のアクレディテーション

- ○高等教育機関について、その使命、定められた目的、戦略、統治、リーダーシップ、 妥当性、経営資源に重点を置き、その教育機関の業績を評価する。
- 。アクレディテーションは高等教育機関20校の参加を得て2005年に開始。3年の試行期間を経て、学会や協議会で議論とフィードバックが行われた後、2007年11月、機関別評価の評価基準が、それまでの10基準、53指標から、10基準、61指標へと改訂された。それ以降、2012年に指標が一部改訂されるなど、マイナーな改訂が行われている。基準の10項目に変更はないが、その下に設けられている指標のいくつかは見直され、8つの指標が新たに追加された(教育訓練省、2007年)。現在、ベトナムの全ての大学は、認証評価において10基準、61指標から成る評価基準を用いている。
- 2018年以降: 教育機関のアクレディテーションについては、25基準と、その下に設けられた111の指標から成る評価基準が使用される。質の評価は7点満点の評価尺度で行われる(2017年5月19日付通知 No.12/2017/TT-BGDÐT)。

10

#### The current 10/61 set of accreditation standards

The ten standards and number of criteria are summarised below:

- (1) Standard 1: Missions and objectives of the university (two criteria).
- (2) Standard 2: Organisation and management (seven criteria).
- (3) Standard 3: Training programmes (six criteria).
- (4) Standard 4: Training activities (seven criteria).
- (5) Standard 5: Managerial staff, lecturers and staff (eight criteria).
- (6) Standard 6: Learners (nine criteria).
- (7) Standard 7: Scientific research and technology development (seven criteria).
- (8) Standard 8: International cooperation (three criteria).
- (9) Standard 9: Library, learning equipment and other facilities (nine criteria).
- $_{\circ}$  (10) Standard 10: Finance and financial management (three criteria) (MOET, 2007).

(Guideline No 1237/KTKĐCLGD-KĐĐH 3/8/2016); applied till 12/2017),

11

#### **Institutional Accreditation Stats in Brief**

- Over 90% HEIs completed their self-assessment
- 71/235 HEIs received external assessment (accouting over 32%); 46 of which accredited
- 4 institutions: Hanoi Uni. of Science and Technology (UST), UST (VNU-TP HCM), UST Danang and University of Civil Engineering) accredited by HCERES [Haut Conseil de l'Evaluation de la Recherche et de l'Enseignement Supérieur]: assessing 6 domains, 17 standards, 29 criteria
- 2 HEIs granted accreditation by AUN

(MoET statistics released in academic year 2016-2017, VN has **235** tertiary institutions (65 private) (with over 1,7 mil students) and 428 vocational colleges (85 private) (http://dantri.com.vn/giao-duc-khuyen-hoc/vi-sao-phai-dau-tu-12-nghin-ty-dong-dao-tao-9000-tien-si-20171110073900278.htm);



#### 機関別アクレディテーション現行基準(10基準、61指標)

教育訓練省により2007年に改訂され、10基準、61指標となった現行の機関別評価基準は 以下のとおり。( )内の数字は当該基準に係る指標の数

- ∘(1)大学の使命・目的(2)
- ∘(2)組織・管理(7)
- ∘(3)カリキュラム・教育プログラム(6)
- ∘ (4) 教育活動 (7)
- ∘ (5) 管理職員・教員・事務職員などの人的資源 (8)
- 。(6) 学生(9).
- ∘ (7) 学術研究・技術開発 (7)
- ∘ (8) 国際連携 (3).
- ∘ (9) 図書館、学習機器、その他の施設・設備 (9).
- ∘(10) 財務管理 (3) (MOET, 2007)

(ガイドラインNo. 1237/KTKDCLGD-KDDH 2016年8月3日); 2017年12月までに適用)

#### 機関別アクレディテーションの統計データ

- 。高等教育機関の90%超が自己評価を完了
- 。高等教育機関235校中、外部(第三者)評価を受けたのは71校(32%超)。そのうち46校が適格認定された
- ベトナムの4大学(UST:ハノイエ科大学、VNU-TP HCM:ベトナム国家大学ホーチミン市校工科大学、UST Danang:ダナン大学工科大学、土木大学)がHCERES(フランスの研究・高等教育評価高等審議会)の適格認定を取得。HCERESは6領域、17基準、29指標で評価
- 。高等教育機関2校がAUNにより適格認定された

(2016-2017年度に発表のベトナム教育訓練省統計によると、ベトナムには、高等教育機関が235校[65校は私立、学生数170万人超]、専門学校が428校[85校は私立]がある) (http://dantri.com.vn/giao-duc-khuyen-hoc/vi-sao-phai-dau-tu-12-nghin-ty-dong-dao-tao-9000-tien-si-20171110073900278.htm);



#### **Program Accreditation**

- 1 set of standards is implemented for all higher education programmes (with 11 standards and 50 criteria) (Circular 04/2016/TT-BGDDT dated 14/3/2016)
- The other 4 sets of standards are for specific programmes, including:
  - primary school teacher training programmes (with 7 standards and 37 criteria),
  - high school teacher training programmes (with 7 standards and 40 criteria),
  - vocational teacher training programmes (with 7 standards and 40 criteria) and
  - nursing programmes (with 8 standards and 42 criteria).
- Similar to institution accreditation, a program only receives the accreditation certificate if it satisfies at least 80 per cent of all criteria.



# **Program Accreditation Stats in Brief**

- 95 programs accredited (88 by international accrediting bodies: e.g., ABET, CTI, AUN-QA, HCERES) and 7 academic programs by Vietnamese accrediting agencies.
- None of programs in Japanese Language Studies have been accredited.





#### プログラムのアクレディテーション

- 全ての高等教育プログラムについて、11基準、 50指標から成る評価基準で評価が行われる (2016年3月14日付通知 04/2016/TT-BGDÐT)
- 。以下の教育プログラムについては、別の4 つの評価基準が適用される:
  - ∘ 小学校教員養成プログラム(7基準、37指標)
  - 高校教員養成プログラム(7基準、40指標)
  - 専門学校教員養成プログラム(7基準、40指標)
  - ∘ 看護師養成プログラム(8基準、42指標)
- 教育機関のアクレディテーションと同様、プログラムの場合も、適格認定を受けるには全ての指標の最低80%を満たさなければならない。



### プログラムのアクレディテーションに関する 統計データ

- ○95のプログラムが適格と認定:88プログ ラムが、ABET、CTI、AUN-QA、 HCERESなど国際認証評価機関により 適格認定、7プログラムがベトナムの認 証評価機関により適格認定されている。
- 日本語教育プログラムでは、これまでに適格認定を受けているプログラムはない。







### Achievement (1)

- HE institutions' awareness of the importance of the development and utilization of effective mechanisms for QA and improvement has been raised.
- Leaders, managers, lecturers, administrators, managerial staff, technicians and students have become familiar with and now focused increased attention on QA and accreditation as critical factors to ensuring quality improvement and relevance; seen QA as a critical solution/strategy to institutional growth and development.



### Achievement (2)

- The legal frameworks for Vietnam's higher education accreditation are sufficient: laws, decrees, MoET circulars, regulations, guidelines, and other legal documents;
- Available human resources for HE quality assurance: 700 personnel completed training courses on higher education accreditation; 240 of whom granted accreditor's certificates.



### 成果(1)

- ・ 高等教育の質保証には効果的なメカニズムの開発と活用が重要であるとの認識が、高等教育機関のあいだで高まってきた。
- 指導者層、企業経営者、教員、行政官、管理職、技術者、学生などのあいだで、高等教育の質保証に対する認識が広まり、アクレディテーションは教育の質の向上と有効性を確保するための不可欠な要素として重視されるようになってきた。質保証は、教育機関の成長と発展に不可欠な戦略や方策とみなされている。

15



## 成果(2)

- ・ベトナムの高等教育アクレディテーションの 法的枠組みは、法律、政令、教育訓練省の 通知、規則、ガイドライン、その他の法律文 書などで十分に整備されている。
- ・高等教育質保証に充当できる人材:700人が高等教育アクレディテーションの研修コースを修了。そのうち240人が評価者の資格認定を受けている。



### Achievement (3)

- Each institution has QA Council in place (institutional and faculty level) to implement strategic tasks and detailed plans in quality assurance pre- and postassessment in order to achieve quality culture;
- AQ units have been established in almost all institutions to specialize in assessment and QA exercises towards continuous quality improvement in crucial areas of teaching learning, research and service provision.

17

### Challenge (1)

- Full independence for the national quality assurance organization and accrediting agencies is challenged:
  - Accreditation standards and criteria; assessment methods, procedures prescribed by MoET. Circular 12/2017/TT-BGDDT released in May, 2017 is another piece of evidence showing that MoET controls almost every activity of the national quality assurance organization and accrediting agencies.
  - The issuance of accreditors' lisence by MoET.
  - The national quality assurance organization and accrediting agencies and their director are designated by the Minister of MoET.
- There is a shortage of staff working in HE accreditation system in Vietnam.









### 成果(3)

- 各教育機関が質保証委員会(QA Council) を設置し(学校、学部レベル)、教育の質向 上を実現するため、評価の前後に戦略課 題や詳細プランを実施している。
- ・ほぼ全ての教育機関で、教育、学習、研究、 サービス提供など非常に重要な分野におけ る質のたゆまぬ改善に向けて、評価と質保 証を専門に担当する部署が設置されてきて いる。

17

### 課題(1)

- ・国の質保証制度や認証評価機関の完全な独立 性が問われている:
  - 評価基準(基準、指標)、評価方法、評価手続きは教育訓練省により規定されている。2017年5月に公布された通知 12/2017/TT-BGDÐTも、国の質保証制度や評価機関のほぼ全ての業務を教育訓練省が所管することを示す文書である。
  - ・評価者のライセンスは教育訓練省が発行。
  - 国の質保証制度および評価機関、ならびにそのトップは、教育訓練相が指定・任命。
- ベトナムの高等教育アクレディテーション・システムは人員不足である。







### Challenge (2)

- The accreditation system in VN is overloaded given the scope of responsibilities and its limited human resources: VN has 235 HE institutions; more than 200 professional colleges and thousands of academic programs; but only 4 centres for accreditation; mostly established recently.
- Reliability in assessment among the 4 accreditation agencies is a concern.





10

### Challenge (3)

- At almost all institutions, the unit in charge of assessment and quality assurance are not able to fulfil their functions:
  - Staffs are not professional: are not experts in the field of educational assessment and measurement
  - Staffs in charge of many other tasks
  - → low efficiency





### 課題(2)

- ・業務範囲が幅広く、人材が限られていることから、ベトナムのアクレディテーション・システムには過剰な負担がかかっている。ベトナムには、高等教育機関が235校、専門学校は200校以上あり、数千もの教育プログラムが運営されているが、認証評価機関はわずか4機関で、その多くが最近設立されたものである。
- ・この4つの評価機関間の評価の信頼性が懸念される。





19

### 課題(3)

- ・ほぼ全ての教育機関で、評価と質保 証を担当する部署が、その機能を果 たすことができない
  - ・職員は専門職でも、教育評価・測定の分野の専門家でもない
  - ・ 職員が他に多くの仕事を抱えている
  - →低効率





### Challenge (4)

- Many legal documents on Program Accreditation (PA) issued by MoET (e.g., 2008, 2013 and 2016),
- However, PA seems to have been generally left "undone" because many institutions have been still busy with institutional accreditation.





21

### Challenge (5)

- Since the inception of accreditation, a system of legal documents on HE accreditation have been issued seemingly consecutively
  - 2007 (65/2007/OĐ-BGDĐT).
    - 2008 (29/2008/QĐ-BGDĐT),
  - 2012 (37/12/TT-BGDĐT; 60&61& 62/2012/TT-BGDĐT),
  - 2013 (18/2013/TT-BGDĐT; 38/2013/TT-BGDĐT),
  - 2016 (04/2016/TT-BGDĐT),
  - 2017 (12/2017/TT-BGDĐT).
- Accordingly, the requirements on standards and criteria, procedures, cycles for institutional/program accreditation are revised, amended, added → "un-stability" of the accreditation system → (re)training of staff working in the field of assessment and accreditation



### 課題(4)

- 教育訓練省により、プログラム・アクレディテーションに関する法律文書が多数公布されている(2008年、2013年、2016年など)。
- しかし、多くの教育機関がいまだに 機関の適格認定に追われているため、プログラムの認証評価はほぼ 「手つかず」の状態にある。





21

### 課題(5)

- アクレディテーションの開始以降、高等教育アクレディテーションに関する法律文書がほぼ毎年のように公布されてきた。
  - 2007年 (65/2007/OÐ-BGDÐT),
  - 2008年 (29/2008/QĐ-BGDĐT),
  - 2012年 (37/12/TT-BGDÐT; 60&61 & 62/2012/TT-BGDÐT),
  - 2013年 (18/2013/TT-BGDÐT; 38/2013/TT-BGDÐT),
  - 2016年 (04/2016/TT-BGDÐT),
  - 2017年 (12/2017/TT-BGDÐT).
- これに伴い、教育機関/プログラムのアクレディテーションに必要な基準、指標、手続き、サイクルなどの要件が改訂、修正、追加される → アクレディテーション・システムは「朝令暮改」→認証・評価に従事する職員の(再)研修



### まとめ

- 就学前教育から高等教育まで、全ての教育 レベルの全ての教育機関にアクレディテー ションが義務付けられている。
- ・ベトナムにおけるアクレディテーションのプロセスは諸外国と同様。教育機関による自己評価、外部(第三者)機関の評価を申請登録、評価機関による第三者評価、評価結果の承認などを経る。
- 認証評価業務は中央管理されている。 VAQ(教育訓練省)が高等教育機関と評価 機関を監督・モニタリングし、アクレディ テーション・プログラムの実施を命じる。







### **End Notes**

- Accreditation is compulsory for all educational institutions and at all levels of education and training (from pre-school to higher education).
- The accreditation procedure of Viet Nam is similar to that of other countries, including: self-assessment by educational institutions; registration for external assessment; external assessment by accrediting agencies; and recognition of accreditation outcomes.
- Management of accreditation activities is centralised. VQA (MoET) supervises, monitors and instructs higher education institutions and accrediting agencies to conduct accreditation programs.







#### References

- Nguyen Ngoc Quyen (26 Oct., 2017). Kiểm định chất lượng giáo dục: Nhìn từ góc độ kỹ thuật. *Tia Sang. Retrieved frm* <a href="http://tiasang.com.vn/-giao-duc/Kiem-dinh-chat-luong-giao-duc-Nhin-tu-goc-do-ky-thuat-10998">http://tiasang.com.vn/-giao-duc/Kiem-dinh-chat-luong-giao-duc-Nhin-tu-goc-do-ky-thuat-10998</a>.
- Huu Cuong Nguyen (2017). Phân biệt 3 mô hình đảm bảo chất lượng giáo dục đại học: Kiểm định chất lượng, đánh giá chất lượng và kiểm toán chất lượng. *Tạp chí Khoa học ĐHQGHN: Nghiên cứu Giáo dục*, 33(1), 91-96.
- Ministry of Education and Training (MOET) (2007), *Decision No. 65/2007/QD-BGDDT Promulgating Regulations on Standards for Accreditation of Universities*, MOET, Hanoi: Vietnam.
- Huu Cuong Nguyen, Colin Evers, Stephen Marshall, (2017). Accreditation of Viet Nam's higher education: Achievements and challenges after a dozen years of development. *Quality Assurance in Education*, 25(4), 475-488, <a href="https://doi.org/10.1108/QAE-11-2016-0075">https://doi.org/10.1108/QAE-11-2016-0075</a>
   Permanent link to this document: <a href="https://doi.org/10.1108/QAE-11-2016-0075">https://doi.org/10.1108/QAE-11-2016-0075</a>

#### 参考文献:

- Nguyen Ngoc Quyen (26 Oct., 2017). Kiểm định chất lượng giáo dục: Nhìn từ góc độ kỹ thuật. *Tia Sang*.
   <u>Retrieved frm http://tiasang.com.vn/-giao-duc/Kiem-dinh-chat-luong-giao-duc-Nhin-tu-goc-do-ky-thuat-10998</u>.
- Huu Cuong Nguyen (2017). Phân biệt 3 mô hình đảm bảo chất lượng giáo dục đại học: Kiểm định chất lượng, đánh giá chất lượng và kiểm toán chất lượng. *Tạp chí Khoa học ĐHQGHN: Nghiên cứu Giáo dục*, 33(1), 91-96.
- Ministry of Education and Training (MOET) (2007), *Decision No. 65/2007/QD-BGDDT Promulgating Regulations on Standards for Accreditation of Universities*, MOET, Hanoi: Vietnam.
- Huu Cuong Nguyen, Colin Evers, Stephen Marshall, (2017). Accreditation of Viet Nam's higher education: Achievements and challenges after a dozen years of development. *Quality Assurance in Education*, 25(4), 475-488, <a href="https://doi.org/10.1108/QAE-11-2016-0075">https://doi.org/10.1108/QAE-11-2016-0075</a>
   Permanent link to this document: <a href="https://doi.org/10.1108/QAE-11-2016-0075">https://doi.org/10.1108/QAE-11-2016-0075</a>

# **Memorandum of Cooperation**

協力覚書

# Memorandum of Cooperation

### Parties to the Memorandum

### **Australian Skills Quality Authority**

ABN 72 581 678 650

Level 6, 595 Collins Street, Melbourne

Victoria, 3000 Australia

AND

### Institution for Accreditation and Quality Assurance of Professional Higher Education

North Tower Annex Roppongi Hills

6-2-33 Roppongi, Minato-ku

Tokyo 106-0032, Japan





**Australian Government** 

**Australian Skills Quality Authority** 

### **Table of Contents**

Agency Roles and Responsibilities	3
Objectives	4
Information Sharing and Collaboration	5
Confidentiality and Privacy Considerations	5
Memorandum Contact Officers	5
Review, Variation and Termination	6
No Legal Effect	6
Signatories	7

### Agency Roles and Responsibilities

#### **Australian Skills Quality Authority (ASQA)**

- 1. ASQA is the national regulator for Australia's vocational education and training (VET) sector, administering legislation including, but not limited to the Education Services for Overseas Students Act 2000 (ESOS Act) and the National Vocational Education and Training Regulator Act 2011 (NVR Act), to ensure that NVR registered training organisations (NVR RTOs) comply with the national VET Quality Framework.
- 2. ASQA's objectives are to:
  - Provide for national consistency in the regulation of vocational education and training (VET);
  - · Regulate VET using:
    - o a standards based quality framework; and
    - risk assessments, where appropriate;
  - Protect and enhance:
    - o quality, flexibility and innovation in VET; and
    - Australia's reputation for VET nationally and internationally;
  - Provide a regulatory framework that encourages and promotes a VET system that is appropriate to meet Australia's social and economic needs for a highly educated and skilled population;
  - Protect students undertaking, or proposing to undertake, Australian VET by ensuring the provision of quality VET; and
  - Facilitate access to accurate information relating to the quality of VET.
- 3. ASQA's jurisdiction covers NVR RTOs in the Australian Capital Territory, Northern Territory, New South Wales, Queensland, South Australia and Tasmania that have referred VET regulatory powers to the Commonwealth. For the states that have determined not to refer VET regulatory power to the Commonwealth, Victoria and Western Australia, ASQA's jurisdiction covers all NVR RTOs delivering qualifications to domestic students in at least one referring State or Territory and all NVR RTOs delivering qualifications to overseas students. Unless the contrary intention appears in the NVR Act, ASQA's jurisdiction also extends to acts, omissions, matters and things done outside Australia in relation to all or part of a VET course or a VET qualification.
- As part of the Australian VET system, ASQA regulates training providers offering beauty, hairdressing, and associated courses.
- 5. Two functions of ASQA specified in the NVR Act are to:
  - Cooperate with regulatory authorities of other countries that have responsibility relating to the quality or regulation of VET for all, or part, of the country; and
  - Develop relationships with its counterparts in other countries.

## Institution for Accreditation and Quality Assurance of Professional Higher Education (QAPHE)

- 6. In Japan, universities (including graduate schools), professional graduate schools, junior colleges and colleges of technology are required to undergo certified evaluation and accreditation on a regular basis in accordance with the School Education Act.
- 7. QAPHE was created as the Institution for Beauty Business Evaluation on February 18th, 2011. It was initially certified by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) as an evaluation and accreditation organization for professional graduate schools in the beauty business field on July 31, 2012. In the academic year 2012, the institution carried out certified evaluation and accreditation for the Hollywood Graduate School of Beauty Business (Beauty Business Course, Beauty Business School) and published its results on April 5, 2013.
- 8. As the organisation evolved, its name was changed to the Institution for Accreditation and Quality Assurance of Professional Higher Education on September 24th, 2014, with the aim of conducting a third-party evaluation of professional training colleges. The evaluation trial in the professional beauty field was conducted as part of a MEXT project for the academic year 2014 aimed to identify issues and challenges to be addressed prior to the full implementation of third-party evaluations. Based on the experience of the trial evaluation, QAPHE has started the full implementation of evaluation and accreditation of professional training colleges.
- 9. QAPHE pursues goals such as the following, to:
  - Contribute to the development of professional higher education through the
    evaluation of educational institutions involved in the practice of education and
    research at the level of professional higher education, in response to the greater
    sophistication, diversity, and internationalization of professional higher education;
  - Facilitate improvement in the quality of evaluated institutions through the feedback of evaluation results; and
  - Contribute to the development and internationalisation of professional higher education through the broad disclosure of evaluation results to society.

### **Objectives**

- 10. This Memorandum of Cooperation (MOC) expresses the commitment of ASQA and QAPHE to establish a collaborative relationship for cooperation and information exchange to support and assist each other in performing their respective roles in Australia and Japan.

  Implementation of the MOC will contribute to:
  - Mutual awareness and understanding of training providers operating in both jurisdictions;
  - Enhancing regulation and quality assurance of providers operating in both jurisdictions;

- Improving the quality of VET in both jurisdictions; and
- The exchange of ideas and non-confidential operational information to enable staff from the two parties to support and learn from each other.

### Information Sharing and Collaboration

- 11. Both parties aim to establish a collaborative relationship and share information and advice to enhance understanding about regulation and quality assurance approaches. This information may take the form of non-confidential policy documents and operational practices. This may include, but is not limited to:
  - Sharing of approaches to and capabilities in the quality assurance of VET to broaden and enhance awareness in Australia and Japan;
  - Sharing of good practice in regulation and quality assurance of providers;
  - · Research on regulatory and quality assurance related issues of mutual interest;
  - The provision of developmental opportunities, if appropriate, for staff of both parties;
     and
  - Any other mutually agreed projects and activities for the benefit of both parties.

### Confidentiality and Privacy Considerations

- 12. For the avoidance of doubt, this MOC does not require either party to disclose information where such disclosure may:
  - Be in breach of their respective legislative privacy principles;
  - Give rise to liability for defamation;
  - Give rise to liability for breach of confidence;
  - · Give rise to civil liability for any other reason; or
  - Would otherwise be unlawful.

#### **Memorandum Contact Officers**

- 13. The Chief Commissioner of ASQA and the Representative Director of QAPHE will have the ultimate responsibility for managing the implementation of the terms of this MOC and overseeing any subsequent reviews of the effectiveness of its implementation. This responsibility may be delegated to relevant members of the agencies' staff in relation to particular areas of cooperation.
- Day to day liaison on issues that are the subject of this MOC will be between the General Manager, Regulatory Strategy, Governance and Corporate, of ASQA and the Representative Director of QAPHE.
- 15. In the first instance the parties will liaise on the implementation of this MOC through their respective representatives:

#### **ASQA**

Name:

Liz Stafford

Position:

General Manager, Regulatory Strategy, Governance and Corporate

Address

Level 6, 595 Collins Street, Melbourne VIC 3000

Contact:

liz.stafford@asqa.gov.au

#### **QAPHE**

Name:

Akihiko Kawaguchi, Ph.D.

Position:

Representative Director

Address:

North Tower Annex Roppongi Hills, 6-2-33 Roppongi, Minato-ku, Tokyo

106-0032, Japan

Contact:

chombi@niad.ac.jp

### Review, Variation and Termination

- 16. This MOC will come into effect on the date of signing by both parties' representatives and will continue for three years. It may be extended on the mutual agreement of both parties.
- 17. This MOC may be varied at any time by mutual agreement of both parties in writing.
- 18. Each party may bring this MOC to an end by giving a minimum of three months' written notice to the other.

### No Legal Effect

- 19. This MOC is not intended to create legal relations between the parties, is of no binding legal effect, and is not enforceable in any court or tribunal. This MOC does not give either party the authority to act on behalf of or otherwise bind the other party. Any ambiguity or uncertainty arising out of this MOC is to be resolved in a way that is consistent with the relevant legislation or any other laws.
- 20. Each party will cover its own costs in implementing the terms of the MOC.

### **Signatories**

21. SIGNED for and on behalf of

**ASQA** 

By Prof Michael Lavarch AO

Deputy Chief Commissioner and Commissioner, Risk Intelligence and Regulatory Support

Date: January 2, 2018

SIGNED for and on behalf of

**QAPHE** 

apiliko Kawagnchi

By Akihiko Kawaguchi, Ph.D.

Representative Director

Date: December 11, 2017

#### 協力覚書

覚書当事者

#### オーストラリア技能質保証機関(Australian Skills Quality Authority)

ABN 72 581 678 650 Level 6, 595 Collins Street, Melbourne Victoria, 3000 Australia

および

# 専門職高等教育質保証機構(Institution for Accreditation and Quality Assurance of Professional Higher Education)

〒106-0032 日本国東京都港区六本木6-2-33 六本木ヒルズノースタワーアネックス

### 目 次

機関の役割および責務	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3
目的	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	4
情報共有および協調関係	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	4
守秘義務およびプライバシー	・に	つ	<b>ζ</b> λ	て	のき	考	慮	事	項					•	•	•	•	•	•	•	5
覚書の連絡責任者	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	5
再検討、変更および終了	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	6
法的効力なし	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	6
署名者	•	•	•	•	•	•	•		•			•		•						•	6

#### 機関の役割および責務

#### オーストラリア技能質保証機関(以下「ASQA」という)

- 1. ASQAは、「留学生のための教育サービス法(2000年制定)」(以下「ESOS法」という) および「国家職業教育訓練規制機関法(2011年制定)」(以下「NVR法」という)などを 含む法令を管理し、NVR法に従い登録された職業教育訓練機関(以下「NVR RTOs」という)が国の職業教育訓練(以下「VET」という)質保証枠組に準拠していることを保証する ための、オーストラリアVETセクターの国家的な規制機関である。
- 2. ASQAの目的は以下の通りである。
  - 職業教育訓練(VET)の規制における国家的な一貫性を定める。
  - ・ 以下を活用してVETを監督する。
    - 基準に基づく質保証枠組;および
    - ○リスク評価(該当する場合)
  - 以下を保護および改善する。
    - VETの質、柔軟性および革新性;および
    - VETに関するオーストラリアの国家的および国際的評判
  - 高等教育を受けた熟練の人材に対するオーストラリアの社会経済的需要を満たすのに適したVET制度を推進・促進する規制枠組を提供する。
  - 質の高いVETを確実に提供することで、オーストラリアのVETを受講している、または受講を予定している学生を保護する。
  - VETの質に関する正確な情報へのアクセスを改善する。
- 3. ASQAの管轄権は、連邦にVET規制権を付与しているオーストラリア首都特別地域、北部準州、ニューサウスウェールズ州、クイーンズランド州、南オーストラリア州、タスマニア州に存在するNVR RTOsに及ぶ。連邦にVET規制権を付与しないことを決定した州であるビクトリア州と西オーストラリア州については、権限付与している少なくとも一つの州または地域にいる国内の学生に資格を授与するすべてのNVR RTOsおよび留学生に資格を授与するすべてのNVR RTOsにASQAの管轄権が及ぶ。NVR法において別異の意図が明らかでない限り、ASQAの管轄権はVETコースまたはVET資格のすべてまたは一部に関連してオーストラリア国外で実施される作為、不作為、事項および事柄にも及ぶ。
- 4. ASQAは、オーストラリアVET制度の一環として、美容、理髪関連のコースを提供する教育 訓練機関を監督する。
- 5. NVR法で規定されたASQAの二つの機能は以下の通りである。
  - 国のすべてまたは一部のVETの質または規制に関連する責任を担う他国の規制機関と協力する。
  - 他国の類似機関と関係を構築する。

#### 専門職高等教育質保証機構(以下「QAPHE」という)

- 6. 日本では、大学(大学院を含む)、専門職大学院、短期大学、高等専門学校は、学校教育法 に基づいて定期的に認証評価を受審することを義務づけられている。
- 7. QAPHEは2011年2月18日にビューティビジネス評価機構として設立された。当初は2012年7月31日に文部科学省(以下「MEXT」という)によってビューティビジネス分野の専門職大学院認証評価機関として認証された。同機構は2012学年度にハリウッド大学院大学(ビューティビジネス研究科ビューティビジネス専攻)の認証評価を実施し、2013年4月5日にその評価結果を公表した。
- 8. 同機構は、その発展に伴い、専門学校の第三者評価を実施することを目的として2014年9月 24日に専門職高等教育質保証機構(QAPHE)と改名された。第三者評価の実施に先立ち対応すべき問題および課題を特定することを目的とした2014学年度のMEXTプロジェクトの一環として、職業実践専門課程の美容分野における試行的評価が実施された。この試行的評価の実績を踏まえ、QAPHEは専門学校第三者評価の実施を開始した。
- 9. QAPHEは以下のような目的を掲げている。
  - 専門職高等教育の高度化、多様化、国際化に対応して、専門職高等教育の教育研究実践に 係る教育機関の評価を行なうことによって、専門職高等教育の発展に貢献する。
  - 評価の成果を被評価機関にフィードバックし、その質の向上に努める。
  - 評価の成果を広く社会に情報開示し、専門職高等教育の発展と国際化に貢献する。

#### 目的

10. 本協力覚書(以下「MOC」という)は、ASQAおよびQAPHEがオーストラリアおよび日本においてそれぞれの役割を果たす上で相互に支援するために、協力および情報交換のための協調関係を構築する両者の公約を表明するものである。

MOCの実施は以下に貢献する。

- ・ 両管轄区で運営する教育訓練機関についての相互の認識および理解。
- 両管轄区で運営する教育訓練機関の規制および質保証の強化。
- 両管轄区におけるVETの質の向上。
- 両当事者の職員が相互に支援し学ぶための意見および非機密運営情報の交換。

#### 情報共有および協調関係

11. 両当事者は、規制および質保証の方法について理解を深めるために、協調関係を構築し情報 および助言を共有することを目指している。こうした情報は、非機密の方針文書および実践 方法という形をとる。これには以下などが含まれる。

- オーストラリアおよび日本において意識を広め向上させるためのVETの質保証に関する方法および能力の共有。
- 教育訓練機関の規制および質保証における優良事例の共有。
- 相互の利益となる規制および質保証関連問題の研究。
- 適切な場合、両当事者の職員に向けた育成機会の提供。
- 両当事者のためになる相互に合意したその他の企画および活動。

#### 守秘義務およびプライバシーについての考慮事項

- 12. 疑義を避けるために、本MOCは情報の開示によって以下のいずれかが生じかねない場合に 各当事者に対し開示を要求しないものとする。
  - 各々の法的なプライバシー原則に違反する場合。
  - 名誉棄損の責任が生じる場合。
  - 秘密保持違反の責任が生じる場合。
  - その他の理由による民事責任が生じる場合。
  - ・ その他の不法行為。

#### 覚書の連絡責任者

- 13. ASQAチーフコミッショナーおよびQAPHE代表理事は、本MOC条項の実施を管理し、その 実施の効果に関する事後の検討を監督する最終的な責任を負うものとする。特定の協力分野 については、この責任を両機関職員内の当該メンバーに委譲することができる。
- 14. 本MOCの主題である問題に関する日常の連絡は、ASQA規制戦略・ガバナンス・コーポレート担当ゼネラルマネジャーおよびQAPHE代表理事の間で行う。
- 15. 最初に、両当事者はそれぞれ以下の代表者を通じて本MOC実施について連絡を取る。

#### **ASQA**

氏 名: リズ・スタッフォード

役 職: 規制戦略・ガバナンス・コーポレート担当ゼネラルマネジャー

住 所: Level 6, 595 Collins Street, Melbourne VIC 3000

連絡先: liz.stafford@asqa.gov.au

#### **QAPHE**

氏 名: 川口昭彦 役 職: 代表理事

住 所: 〒106-0032東京都港区六本木6-2-33六本木ヒルズノースタワーアネックス

連絡先: chombi@niad.ac.jp

#### 再検討、変更および終了

- 16. 本MOCは両当事者の代表が署名した日に発効し、3年間存続する。本MOCは両当事者の合意によって延長することができる。
- 17. 本MOCは両当事者の書面による合意によっていつでも変更することができる。
- 18. 各当事者は、他方当事者に対し、3カ月の予告期間をもった書面通知により、本MOCを終了することができる。

#### 法的効力なし

- 19. 本MOCは両当事者間の法的関係の形成を意図しておらず、法的拘束力を持たず、いかなる裁判所または審判所においても法的強制力を持たない。本MOCはいずれの当事者に対しても、他方当事者に代わり行動する、またはその他の形で他方当事者を拘束する権限を与えるものではない。本MOCによって生じる不明瞭さまたは不明確さは、関連する法令またはその他の法に則る形で解決されるものとする。
- 20. 各当事者はMOC条項を実施するための自らの費用を負担するものとする。

#### 署名者

21.

ASQAを代表して署名

QAPHEを代表して署名

マイケル・ラバーチ教授AO (オーストラリア勲章オフィサー) チーフコミッショナー代理 兼リスク・インテリジェンス・ 規制支援コミッショナー 日付: 川口昭彦博士 代表理事 日付:

#### 講演「専門職大学制度の発足とその質保証」

#### 塩原 誠志

文部科学省高等教育局 主任大学改革官

#### 要旨

- 大学制度の中に位置付きつつ、実践的な職業教育に重点を置いた新たな枠組みとして、2019 年度から専門職大学等が制度化される。専門職大学等は、既存の大学等にはない独自の基準により、産業界等と密接に連携した実践的かつ創造的な職業教育を行うこととされており、専門職大学院と同様、分野別認証評価の受審も義務付けられる。
- 日本の大学等の質保証は、大学等自身による内部質保証と、それらを担保するための設置基準、設置認可、認証評価、情報公表等の制度により枠付けられているが、
- ・2000年代以降、「事前規制から事後チェック」への改革の流れの中、大学等の量的規模の拡大が進む一方、その教育水準・内容に対しては様々な指摘がなされているほか、
- ・ 当該改革の目玉として導入された認証評価制度(2003年~)に関しても、その成果に関しては 未だ十分とは言えない面も多く、現在見直しの検討が進められている。
- 以上を踏まえつつ、専門職大学等の質保証について、その実質化に向けた今後の課題について概述するとともに、職能・産業団体との連携による分野別質保証の取組への期待等について意見表明する。

#### **Speech**

# "The inauguration of a professional and vocational university / junior college system and its quality assurance"

#### Seishi Shiobara

Chief University Reform Director, Higher Education Bureau, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

#### Abstract

- The institutionalization of professional and vocational universities (PVU) / junior college (PVJC) is scheduled for launch in fiscal
  2019 as a new framework focusing on practical professional education within the university system. Under criteria different
  from those of conventional universities, PVU and PVJC will be tasked to provide practical, creative vocational education in close
  cooperation with industry. These institutions will also be subject to an evaluation of academic disciplines similar to professional
  graduate schools.
- Quality assurance of Japanese universities and colleges has been maintained by the schools' self-evaluations and the systems to
  guarantee them, such as the university establishment standards, establishment approval, evaluation and accreditation by
  certified organizations, and information disclosure; but
- the reform to shift "from prior regulations to ex post checks" after the 2000s has triggered a quantitative expansion of universities and other institutions, and various suggestions have been made on their educational standards and contents; and
- the results of the certified evaluation and accreditation system introduced in 2003 as a pillar of educational reform remain inadequate in many aspects, leading the authorities to consider reexamining the system.
- Based on these circumstances, the lecture will provide an overview of the issues involved in achieving a more substantial quality
  assurance system for PVU and PVIC, and offer an opinion on the expectations for collaborative efforts with professional and
  industrial organizations in the evaluation of academic disciplines.

# 講演「専門職大学制度の発足とその質保証」

- 1. 専門職大学・専門職短期大学の制度化
- 2. 日本における大学の質保証の仕組み
- 3. 専門職大学等の質保証に向けた課題

1. 専門職大学・専門職短期大学の制度化

"Quality Guarantee of Higher Professional Education"

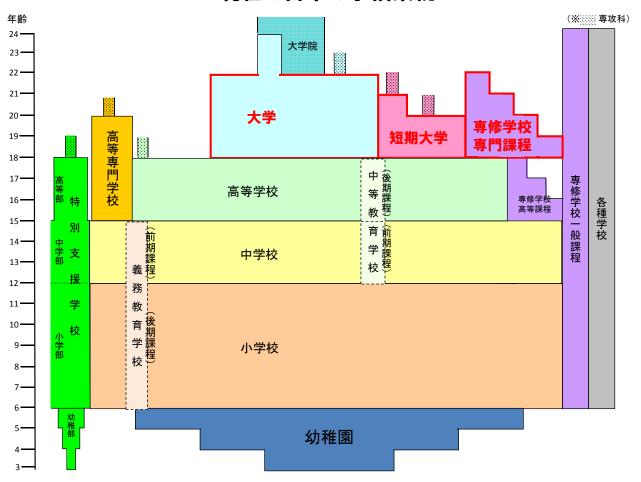
### Speech

"The inauguration of a professional and vocational university / junior college system and its quality assurance"

- Institutionalization of professional and vocational universities (PVU) and professional and vocational junior colleges (PVJC)
- 2. Universities' quality assurance system in Japan
- 3. Issues of quality assurance for PVU and PVJC

1. Institutionalization of PVU and PVJC

### 現在の日本の学校系統



### 大学の設置者別学校数・学生数(20016年5月1日現在[速報])

#### <学校数>

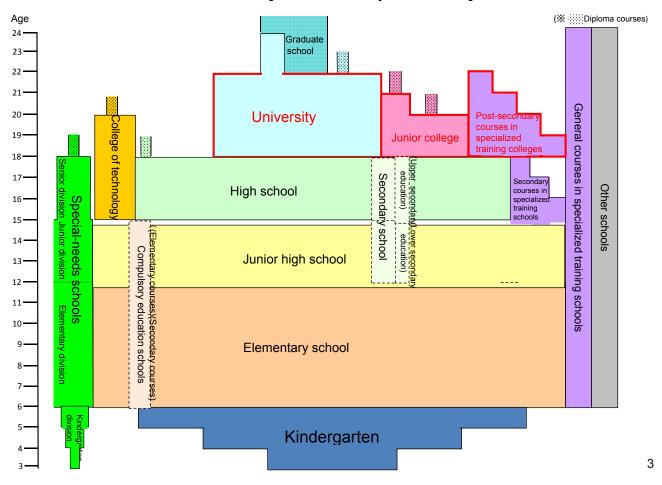
	計	国立	公立	私立
大学【学部】	756 (※1)	82	88	586
短期大学	337	_	17	320
高等専門学校	57	51	3	3
専門学校	2,823(%2)	9	185	2,629

※1 このほか、大学院大学が24校(国立4校、公立2校、私立18校) ※2 専門学校のうち、902校が職業実践専門課程に認定(2016年2月現在)

#### <学生数>

	āl	国立	公立	私立
大学 【学部】	2,582,884	441,921	133,756	2,007,207
大学院	250,893	151,713	16,091	83,089
短期大学【本科】	119,729	_	6,499	113,230
高等専門学校【本科】 (うち4・5学年)	54,358 (21,018)	48,630 (18,836)	3,556 (1,351)	2,172 (831)
専門学校	588,719	369	24,755	563,595

### School System in Japan Today



### Numbers of Schools and Students per Operator Type (as of May 1, 2016 [provisional])

#### <Number of schools>

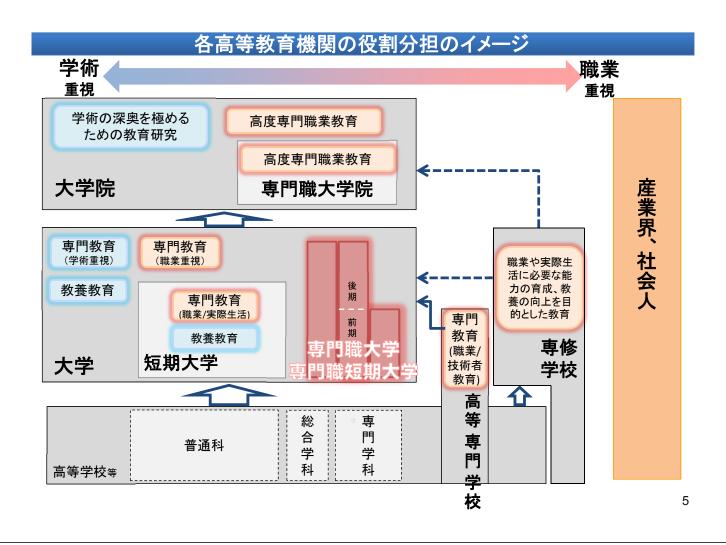
	Total	National	Public	Private
University [undergraduate]	756 (*1)	82	88	586
Junior college	337	_	17	320
College of technology	57	51	3	3
Professional training college	2,823(*2)	9	185	2,629

\*1 Does not include 24 graduate universities (national: 4, public: 2, private: 18).
\*2 Among professional training colleges, 902 have been certified as a professional post-secondary course (as of Feb 2016).

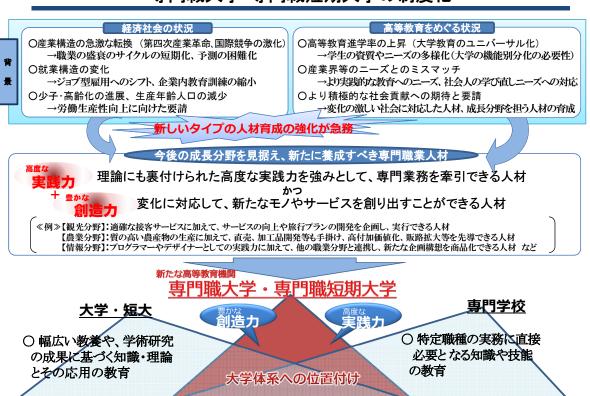
#### <Number of students>

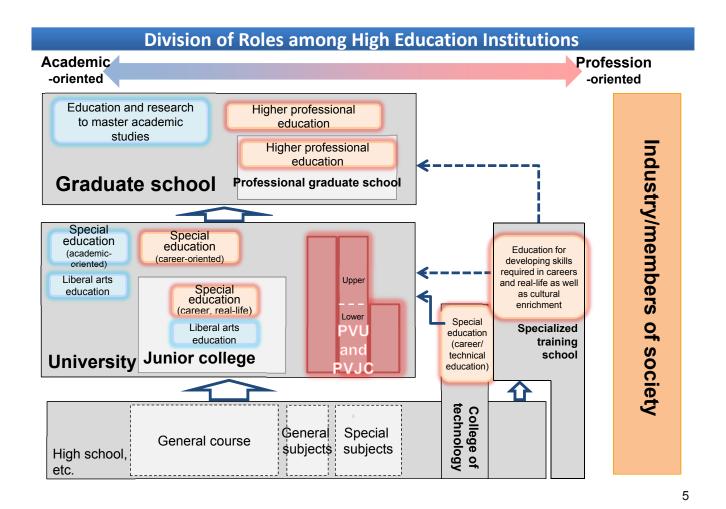
	Total	National	Public	Private
University [undergraduate]	2,582,884	441,921	133,756	2,007,207
Graduate school	250,893	151,713	16,091	83,089
Junior college [regular]	119,729	_	6,499	113,230
College of technology [regular] (junior and senior students)	54,358 (21,018)	48,630 (18,836)	3,556 (1,351)	2,172 (831)
Professional training college	588,719	369	24,755	563,595

Source: School basic survey

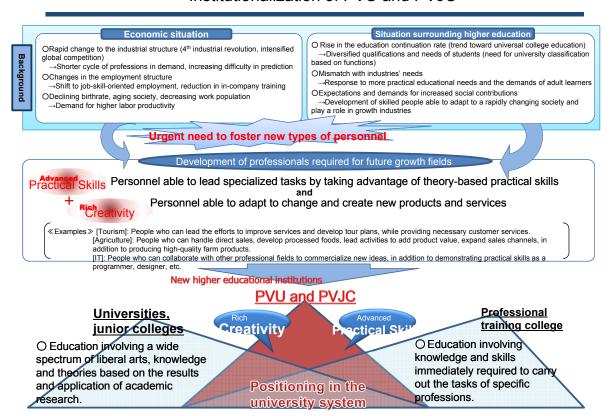


#### 専門職大学・専門職短期大学の制度化





#### Institutionalization of PVU and PVJC



#### 新たな高等教育機関 専門職大学・専門職短期大学

○幅広い教養や、学術研究 の成果に基づく知識・理論

大学・短大

創造力

実践力

専門学校

○特定職種の実務に直接 必要となる知識や技能の 教育

とその応用の教育 大学体系への位置付け

独自の基準の設定

国際通用性の担保

高等教育としての質保証

実践的な職業教育にふさわしい 教育条件の整備

度

【教育内容 】

- 「実践力」と「創造力」を育む教育課程
- 産業界等と連携した教育課程の開発・編成・実施
- 実習等の強化(卒業単位の概ね1/3以上、長期の企業内実習等)

【教 員] ・ 実務家教員を積極的に任用(必要専任教員数の4割以上)

※専任実務家教員の必要数の半数以上は、研究能力を併せ有する実務家教員

【学生受入】

- 社会人、専門高校卒業生など多様な学生の受入れ
  - ※ 社会人も学びやすい柔軟な履修形態
  - ※ 短期の学修成果の積み上げによる学位取得等も促進

【修業年限】

- ・4年(大学相当)、2年又は3年(短期大学相当)
  - ※ 4年制の課程については、前期・後期の区分制の導入も可

【学 位】

- ・4年制修了者には、「学士(専門職)」を授与
- ・ 2・3年制修了者、4年制の前期修了者には、「短期大学士(専門職)」を授与

【学部等設置】

大学・短期大学における「専門職学部・学科」も制度化

7

#### 学校教育法の一部を改正する法律の概要【「専門職大学」等の制度化について】

H29.5.31公布(平成29年法律第41号)

#### 趣旨•背景

「第四次産業革命」の進展と国際 競争の激化に伴い、産業構造が急 速に転換する中、優れた専門技能等 をもって、新たな価値を創造するこ

今後の成長分野を見据え、新たに養成すべき専門職業人材 理論にも裏付けられた高度な実践力を強みとして、専門業務を牽引できる人材

(m[観光分野]:適確な接客サービスに加えて、サービスの向上や旅行ブランの開発を企画し、実行できる人材 【農業分野]:質の高い農産物の生産に加えて、直流・加工品開発等も手掛け、高付加価値化、販路拡大等を先導できる人材 【情報分野]:プログラマーやデザイナーとしての実践力に加えて、他の職業分野と連携し、新たな企画構想を商品化できる人材 など

高等専門職業教育の新たな 枠組みにより、社会の変化 に対応しつつ、人材養成の 強化を図る。

大学制度の中に位置付けられ、専門職業人の養成を目的とする新たな高等教育機関として、「専門職大学」及び「専門職短期大学」の制度を設ける。 → 設置基準(省令)等により具体的な制度を設計 [\*印] 《法制度の概要》

#### 1. 目的等

ができる専門職業人材の養成が急務。

- 深く専門の学芸を教授研究し、<u>専門職を担うための実践的かつ応用的な能力を育成・展開することを目的</u>とする。 <u>①機関の目的</u>
  - \* 実習等の強化(卒業単位の概ね1/3以上。長期の企業内実習等) \* 実務家教員の積極的任用(必要専任教員数の概ね4割以上)
- ②学位の授与 課程修了者には、文部科学大臣が定める学位を授与する。
  - → \*「学士(専門職)」又は「短期大学士(専門職)」を授与

#### 2. 社会のニーズへの即応

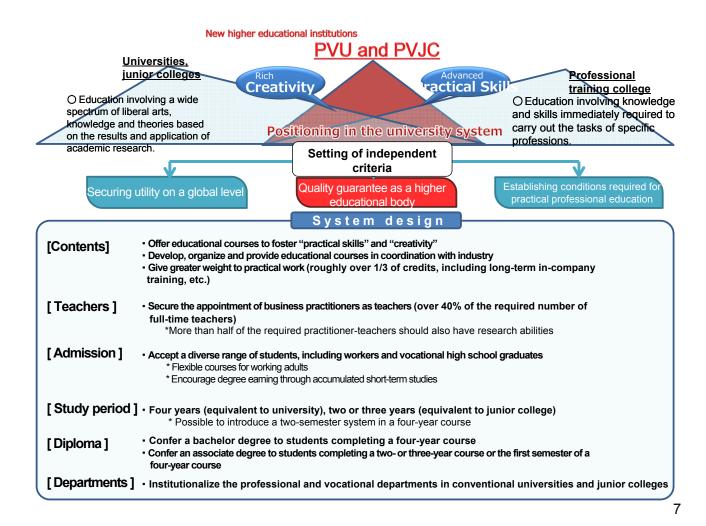
- ①産業界等との連携 専門職大学等は、文部科学大臣の定めるところにより、専門性が求められる職業に関連する事業を行う 者等の協力を得て、教育課程を編成・実施し、及び教員の資質向上を図る。
  - → \* 産業界等と連携した教育課程の開発・編成・実施のための体制整備(「教育課程連携協議会」)
- ②認証評価における分野別評価 専門職大学等の認証評価においては、専門分野の特性に応じた評価を受ける。
  - → \* 産業界等と連携した認証評価の体制整備

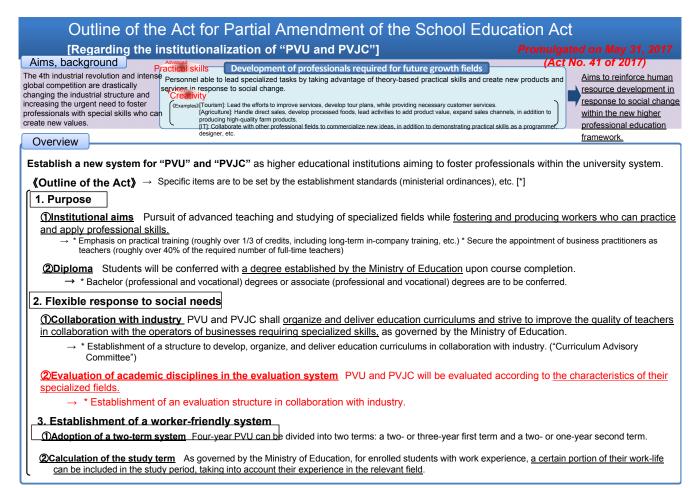
#### 3. 社会人が学びやすい仕組み

- ①前期・後期の課程区分 専門職大学(4年制)の課程は、前期(2年又は3年)及び後期(2年又は1年)に区分できる。
- 実務の経験を有する者が入学する場合には、文部科学大臣の定めにより、当該実務経験を通じた能力の修得 ②修業年限の通算 を勘案して、一定期間を修業年限に通算できる。

施行期日

平成31年4月1日



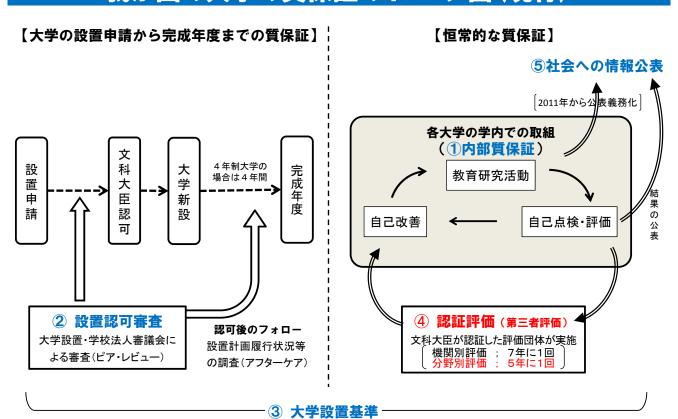


Enforcement date

### 2. 日本における大学の質保証の仕組み

9

### 我が国の大学の質保証のイメージ図(現行)

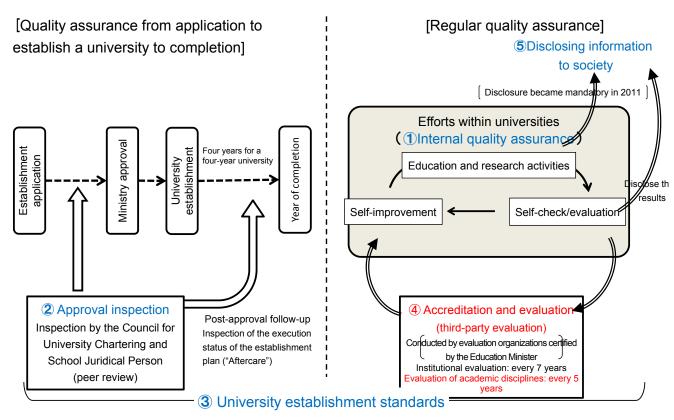


教育課程, 教員数・教員資格, 校地・校舎面積などの最低基準を定める(教育研究水準を確保)

### Universities' Quality Assurance System in Japan

9

### **Image of University Quality Assurance in Japan (Present)**



Set the minimum required level of education curriculums, number and qualifications of teachers, total area of the premise, buildings, etc. (aimed at securing education and research standards).

### 2003年の質保証に関する制度改正の概要

#### 【規制改革の動き】

- 〇総合規制改革会議「規制改革の推進に関する第1次答申」(2001年12月)
  - 高等教育における自由な競争環境の整備
    - ・大学・学部の設置規制の準則化(審査基準をあらかじめ法令上明確化)と届出制の導入
    - ・大学・学部の設置等に係る認可に対する抑制方針の見直し
    - ・第三者による継続的な評価制度の導入

#### 【中央教育審議会の提言】

〇「大学の質の保証に係る新たなシステムの構築について」(2002年8月答申)

「国**の事前規制である設置認可を弾力化**し、大学が自らの判断で社会の変化等に対応して多様で特色のある教育研究活動を展開 できるようにする。それとともに、**大学設置後の状況について当該大学以外の第三者が客観的な立場から継続的に評価を行う** 体制を整備する。これらのことにより、大学の自主性・自律性を踏まえつつ、大学の教育研究活動の質の維持向上を図り、その一層 の活性化が可能となるような新たなシステムを構築することとする。」

#### ○設置認可の在り方の見直し

- ・設置認可の対象の見直し(届出制の導入)
- 抑制方針の撤廃

(医師、歯科医師等の養成分野は除く)

寒杏其準の見直」。

(審査基準をあらかじめ法令上明確化)

#### ○第三者評価制度の導入

- ・国の認証を受けた評価機関が大学を定 期的に評価
- 評価結果を公表 (自己点検・評価の公表を義務化 (2004年))

### ○法令違反状態の大学に対する是正措置

・段階的な是正措置の導入

(閉鎖命令の前に改善勧告や変更命令等の是正措置 を導入)

①設置認可の見直し (2003年度審査(2004年度開設)より適用)

〇届出制度の導入 (学校教育法の改正)

○抑制方針の撤廃 (審議会内規の廃止)

〇設置審査の準則化 (省令(大学設置基準等)及び告示の改正・制定)

②認証評価制度の導入 (2004年度より適用) (学校教育法の改正)

<u>③法令違反状態の大学に対する段階的是正措置の導入</u> (2003年度より適用) (学校教育法の改正)

11

### 大学等の認証評価について【現行制度①】

大学、短期大学、高等専門学校は、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価(認証評価)を受ける こととする制度が導入されている(2004年4月施行)

#### ①大学等の総合的な状況の評価(機関別認証評価)

- ・7年以内ごとに、大学等の教育研究、組織運営及び施設設備の総合的な状況についての評価を実施。
- ・大学等は、複数の認証評価機関の中から機関を選択。各認証評価機関の定める評価基準に従い評価を実施。

#### 【各認証評価機関の評価基準の項目】

#### <大学基準協会> 10の基準の下に、45項目の「点 検・評価項目」を設定

- 1 理念・目的
- 2 教育研究組織
- 3 教員·教員組織
- 4 教育内容•方法•成果
- 5 学生の受け入れ
- 6 学生支援
- 7 教育研究等環境
- 8 社会連携・社会貢献
- 9 管理運営・財務
- 10 内部質保証

#### <大学改革支援·学位授与機構> 10の基準の下に、81項目の「基本的 な観点」を設定

- 1 大学の目的
- 2 教育研究組織
- 3 教員及び教育支援者
- 4 学生の受入
- 5 教育内容及び方法
- 6 学習成果
- 7 施設・設備及び学生支援
- 8 教育の内部質保証システム
- 9 財務基盤及び管理運営
- 10 教育情報等の公表

#### <日本高等教育評価機構>

4の基準の下に、22項目の「基準項目」を 設定。基準項目ごとに「評価の視点」(51項 目)を設定。

- 1 使命・目的等
- 2 学修と教授
- 3 経営・管理と財務
- 4 自己点検·評価

### <短期大学基準協会>

4の基準の下に、12の「テーマ」を設定。テ の下に「区分」を29区分設定し、区分ごとに「自 己点検・評価のための観点 (72観点)を設定。

- 1 建学の精神と教育の効果
- 2 教育課程と学生支援
- 3 教育資源と財的資源
- 4 リーダーシップとガバナンス

#### 【評価の手順】(大学基準協会の例)

申請書類·評価 教育研究評価 書類の受理 (書面調査及び実地調査) 評価結果(委員 会案)の送付

意見の申立て (任意)

評価報告書 の確定

適合の 場合 社会への公表 文部科学省等へ提供

評価結果に対する 異議申立て(任意)

### Outline of the Quality Assurance System Revisions in 2003

### [Move toward regulatory reform]

OCouncil for Regulatory Reform -- "First Report Regarding the Promotion of Regulatory Reform" (Dec 2001)

Establishment of an environment to facilitate free competition in higher education

- · Regulations for establishing universities and faculties (clear legal statement on the screening criteria) and introduction of a notification
  - · Review of restrictive control policies on the establishment of universities and faculties
  - · Introduction of a continuous accreditation system by third-party bodies

[Proposal by the Central Council for Education]

O "Regarding the establishment of a new university quality assurance system" (submitted in Aug 2002)

"By enhancing the flexibility of the government's pre-establishment approval, allow universities to respond to social changes and pursue more diversified education and research activities, and establish a system to have third-party bodies conduct continuous, objective evaluations of the universities' activities. With these features in mind, a new system should be established to improve the quality of university education and research activities while respecting their independence and autonomy.

O Review of the establishment approval method

- Review of the establishment approval targets (introduction of an application
- · Abolition of restrictive policies (excluding the fields pertaining to doctor/dentist training)
- · Review of the screening criteria (clear legal statement of the screening criteria)

OIntroduction of a third-party evaluation O Introduction of correction system

- Regular evaluation of universities by government-certified evaluation bodies
- Disclosure of the evaluation results (obliged disclosure of the self-inspection/evaluation results (2004))
- universities violating the laws and regulations
- · Gradual introduction of correction measures (take corrective measures, e.g., improvement recommendation and change orders, before issuing a closure order)

①Review of establishment approval (applied from screenings in FY2003 (for schools established in FY2004))

#### Ointroduction of a notification system (Amendment of the School Education Act)

OAbolition of restrictive policies (abolition of the Council's internal regulations)

OCreation of establishment screening regulations (revision/formulation of ministerial ordinances (on university establishment criteria) and announcement)

②Introduction of an evaluation accreditation system (applied from FY2004) (Amendment of the School Education Act)

③Introduction of gradual corrective measures for universities violating the regulations (applied from FY2003) (Amendment of the School Education Act)

### University and College Evaluation and Accreditation [Current System 1]

A system requiring universities, junior colleges and colleges of technology to be evaluated by organizations certified by the Ministry of Education (certified evaluation and accreditation) (effective April 2004)

#### (Devaluation of the Overall Status of Universities and Colleges (Evaluation of Institutions)

- · Evaluation of the universities' overall status of education and research, organizational operation, and facilities and equipment is conducted
- every 7 years or less.

  Universities are allowed to choose from several evaluation and accreditation organizations, and the evaluations are conducted according to the criteria set by each organization

#### [Evaluation criteria of some organizations]

<Japan University Accreditation</p> Association>

Total of 45 check and evaluation items under 10 criteria

- 1. Mission and Purpose
- 2. Education and Research Organization
- 3. Faculty and Faculty Organization
- 4. Educational Content, Methods, and Outcome
- 5. Enrollment
- 6. Student Support
- 7. Education and Research Environment
- 8. Social Cooperation and Contribution
- 9. Administration and Finance 10. Internal Quality Assurance

<National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education>

Total of 81 "viewpoints" under 10 standards

- 1. Mission of the University
- 2. Teaching and Research Structure
- 3. Academic Staff and Teaching Support Staff
- 4. Student Admissions
- 5. Academic Programs
- 6. Learning Outcomes
- 7. Facilities and Student Support
- 8. Internal Quality Assurance System of Teaching and Learning
- 9. Finance and Management
- 10. Public Information on Teaching and Learning

<Japan Institution for Higher Education</p>

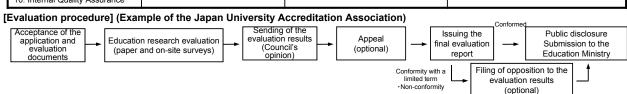
Total of 22 points under 4 standards, with each point evaluated according to the evaluation perspective (total 51)

- 1. Mission and Objectives, etc.
- 2. Learning and Teaching
- 3. Management, Administration and Finance
- 4. Self-Inspection and Evaluation

<Japan Association for College</p> Accreditation:

Total of 12 themes set under 4 standards with 29 points under the themes and further divided into 72 points for selfcheck and evaluation

- 1. Mission and Educational Effectiveness
- 2. Curriculum and Student Support Services
- 3. Educational Resources and Financial Resources
- 4. Leadership and Governance



12

### 大学等の認証評価について【現行制度②】

#### ②専門職大学院の評価(分野別認証評価)

- ・5年以内ごと、分野ごとに、専門職大学院の教育課程、教員組織その他教育研究活動の状況についての評価を実施。
- ・大学等は、専門職大学院の課程に係る分野の認証評価機関による評価を受審。各認証評価機関の定める評価基準に基づき評価を実施。

分野	認証評価機関
	公益財団法人日弁連法務研究財団
   法科大学院 	独立行政法人 大学改革支援·学位授与機構
	公益財団法人大学基準協会
経営(経営管理、 技術経営、ファイナ ンス、経営情報)	一般社団法人ABEST21
経営(経営管理、 会計、技術経営、 ファイナンス)	公益財団法人大学基準協会
会計	特定非営利法人 国際会計教育協会
知的財産	一般社団法人ABEST21
, AIRTH/座	公益財団法人大学基準協会
助産	一般財団法人日本助産評価機構
臨床心理	公益財団法人 日本臨床心理士資格認定協会

分野	認証評価機関
公衆衛生	公益財団法人大学基準協会
社会福祉	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟
教員養成(教職大学 院、学校教育)	一般社団法人教員養成評価機構
公共政策	公益財団法人大学基準協会
情報、創造技術、 組込技術、原子力	一般財団法人 日本技術者教育認定機構(JABEE)
ファッション・ ビジネス	公益財団法人 日本高等教育評価機構
ビューティビジネス	一般社団法人 専門職高等教育質保証機構
環境∙造園	公益財団法人日本造園学会
デジタル・ コンテンツ	公益財団法人大学基準協会
グローバル・ コミュニケーション	公益財団法人大学基準協会

### 認証評価制度の改善に向けた課題

#### ≪背景•課題≫

- 大学の質保証については、2004年に第三者評価制度である認証評価制度が導入され、現在2巡目の評価が 実施されているところ、現行の認証評価制度に対しては、以下のような指摘がなされている。
  - ・法令適合性等の外形的な評価項目等が多く、必ずしも教育研究活動の質的改善が中心となっていない
  - · 評価結果を教育研究活動の改善に活かす仕組みが十分ではない
  - ·社会一般における認証評価の認知度が十分ではない

### 中央教育審議会大学分科会大学教育部会を中心に認証評価制度の改善に向け検討

- ≪2016年3月18日≫中央教育審議会大学分科会「認証評価制度の充実に向けて(審議まとめ)」をとりまとめ
  - ⇒ 審議まとめを踏まえ、所要の省令改正(2016年3月31日公布、2018年4月1日施行)
- 【省令改正事項】 学校教育法第百十条第二項に規定する基準を適用するに際して必要な細目を定める省令の一部を改正する省令の一部改正 〇大学評価基準、評価方法の充実
  - ※大学評価基準において定めるべき事項に、<u>3つの方針\*に関すること</u>及び<u>内部質保証に関すること(重点評価項目)</u>を追加する。 \*卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)
  - ※評価方法含めるべき事項に、高等学校、地方公共団体、民間企業等の関係者からの意見聴取を追加する。

#### 〇設置計画履行状況等調査(AC)との連携

- ※ 認証評価機関はACの結果を踏まえた文部科学大臣の意見において「<u>是正意見」「改善意見」が付された大学</u>に対する 評価を行うに当たっては、<u>当該意見に対して講じた措置を把握</u>するものとする。
- ○認証評価機関の自己点検・評価の義務化
  - ※ 認証評価機関は、大学評価基準、評価方法、評価の実施状況及び組織運営の状況について<u>自ら点検評価を行い、</u> その結果を公表するものとする。

さらに、現在、高等教育の将来構想に関する中央教育審議会の審議の中で、認証評価制度についても、 国立大学法人評価との関係整理、機関別評価と分野別評価との関係整理等による効率化などの見直しを検討中 14

### University and College Evaluation and Accreditation [Current System2]

#### ② Evaluation of professional graduate schools (evaluation of academic disciplines)

- Evaluation of academic disciplines offered by the schools' curriculums, faculty organization, and education and research activities is conducted every 5 years or less.
- Universities have their professional graduate school courses evaluated by organizations specializing in the relevant fields, and the evaluations are conducted according to the criteria set by each organization.

Academic discipline	Accreditation organization		
	Japan Law Foundation		
Law school	National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education		
	Japan University Accreditation Association		
Business (business administration, technology management, finance, management information)	ABEST21		
Business (business administration, accounting, technology management, finance)	Japan University Accreditation Association		
Accounting	Japanese Institute of International Accounting Education		
Intellectual property	ABEST21		
Intellectual property	Japan University Accreditation Association		
Midwifery	Japan Institute of Midwifery Evaluation		
Clinical psychology	Foundation of the Japanese Certification Board for Clinical Psychologies		

Academic discipline	Accreditation organization
Public health	Japan University Accreditation Association
Social welfare	Japanese Association for Social Work Education
Teacher training (graduate schools of teacher education, school education)	The Institute for the Evaluation of Teacher Education
Public policy	Japan University Accreditation Association
Information, creative technology, embedding technology, nuclear energy	JABEE
Fashion, business	Japan Institution for Higher Education Evaluation
Beauty business	Institution for Accreditation and Quality Assurance of Professional Higher Education
Environment, landscape gardening	Japanese Institute of Landscape Architecture
Digital contents	Japanese University Accreditation Association
Global communication	Japanese University Accreditation Association

### Challenges in Improving the Evaluation and Accreditation System

### ≪Background and issues≫

- O The Certified Evaluation and Accreditation System was introduced in 2004 to entrust quality assurance of universities to third-party bodies, who are now conducting the second round of evaluations. However, the following issues regarding to the evaluation and accreditation system have emerged.
  - Many evaluation items are mere formalities or checks of legal compliance, and do not necessarily lead to quality improvements in education and research activities.
  - There is no effective mechanism to reflect the evaluation results in improving the universities' education and research activities.
  - The evaluation and accreditation system has yet to be widely recognized in society.

The University Education Panel of the Central Council for Education's University Subdivision is leading the efforts to improve the Certified Evaluation and Accreditation System.

<<March 18, 2016>> The Central Council for Education's University Subdivision compiled the report titled "Enhancement of the Certified Evaluation and Accreditation System (discussion summary)."

⇒ The ministerial ordinance was revised based on the report. (Promulgation: Mar 31, 2016; Enforcement: Apr 1, 2018)

#### [Revised items of the ministerial ordinance]

Partial Revision of the Ministerial Ordinance for Partial Revision of the Ordinance Stipulating Detailed Terms in Applying the Standards Prescribed in Paragraph 2, Article 110 of the School Education Act

### $\ensuremath{\mathsf{O}}$ Improvements in university evaluation standards and methods

XAddition of items regarding the three policies\* and internal quality assurance (priority evaluation item) to the items required in the university evaluation standards.

\* Diploma policy, curriculum policy, admission policy

\*Addition of the <u>opinions of high schools, local public organizations and private companies</u> to the items required for the evaluation methods. **OCoordination with the survey on the status of implementing the establishment plan (AC)** 

※ In evaluating universities that have received <u>suggestions for correction or improvement</u> from the Education Minister based on the AC result, the certified evaluation and accreditation organization must <u>recognize the measures taken in response to the suggestions</u>.

#### OObligation of the certified evaluation and accreditation organizations to conduct self-inspections/evaluations

X Certified evaluation and accreditation organizations must conduct self-inspections/evaluations of the university evaluation standards, evaluation methods, progress of implementation and organizational operation, and disclose the results.

### 機関別評価と分野別評価に係る基準等に関する細目

\*細日省会:学校教育法第110条第2項に規定する基準を適用するに際して必要な細目を定める省会

	・神口ロド・ルステスターのシャン・マーストの大人との子で起これを受けていたというない。			
	機関別認証評価	分野別認証評価		
評価内容	≪大学評価基準に定める事項≫(細目省令第1条第2項) ①教育研究上の基本組織 ②教員組織 ③教育課程 ④施設及び設備 ⑤事務組織 ⑥卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針並びに入学者の受入れに関する方針 ⑥教育研究活動等の状況に係る情報の公表 ⑦教育研究活動等の改善を継続的に行う仕組み【重点的に評価】 ⑧子の他教育研究活動等に関すること	<ul> <li>≪大学評価基準に定める事項≫(細目省令第1条第3項)</li> <li>①教員組織</li> <li>②教育課程(教育課程連携協議会に関することを含む)</li> <li>③施設及び設備</li> <li>④学習の成果(進路に関することを含む)</li> </ul> ④その他教育研究活動に関すること		
	《実地調査》(細目省令第1条 ○ 自己点検・評価の分析	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
評価方法等	《関係者からの意見聴取》(細目省令第1条第2項第4号) ○ 評価の実施に当たり高等学校、地方公共団体、 <u>民間企業</u> その他の関係者からの意見聴取	《関係者からの意見聴取》(細目省令第1条第3項第2号) ○ 評価の実施に当たり、 <u>関連職業団体関係者等</u> 及び高等学校、 地方公共団体その他の関係者の意見聴取 ○ 大学評価基準の制定・変更に当たり、関連職業団体関係者等 の意見聴取		
寺		《評価後の対応》(細目省令第3条第2項) ○ 認証評価の後、次の認証評価を受ける前に、教育課程又は教員 組織に重要な変更があったときは、必要に応じ、公表した評価の 結果に当該事項を付記する等の措置を講ずるよう努力		
評	《認証評価の業務に従事する者》(細目省令第2条第1項第 ○ 大学の教員及びそれ以外の者であって大学の教育	1号) 印究活動等に関し識見を有するものの認証評価の業務への従事		
評価体制		○ 当該専門職大学等の分野に関し実務の経験を有する者の認証 評価の業務への従事		
		15		

### 3. 専門職大学等の質保証に向けた課題

### Detailed Items of the Evaluation Standards for Institutions and Academic Disciplines

\* Ordinance on Details: Ministerial Ordinance Stipulating the Necessary Details in Applying the Standards Prescribed in Paragraph 2, Article 110 of the School Education Act

	tne s	Standards Prescribed in Paragraph 2, Article 110 of the School Education Act
	Certified Evaluation of Institutions	Certified Evaluation of Academic Disciplines
Evaluation contents	≪Items to include in the university evaluation standards» (Ordinance on Details, Article 1, Paragraph 2)  ①Basic organization of education and research ②Faculty ③Curriculum ④Facilities and equipment  ⑤Administration ⑥Policies on graduation certification, curriculum configuration and provision, and student admission ⑥Disclosure of information on the status of education, research activities, etc. ⑦Mechanism for continuously improving education, research activities, etc. [priority evaluation items] ⑧Finance ⑨Other matters related to education and research activities	≪Items to include in the university evaluation standards≫ (Ordinance on Details, Article 1, Paragraph 3)  ①Faculty ②Curriculum (including matters of the Curriculum Advisory Committee) ③Facilities and equipment ④Education results (including matters related to courses after graduation)  ④Other matters related to education and research activities
Evaluation methods, etc.		Details, Article 1, Paragraph 1, Item 4)  //evaluations and on-site surveys   《Opinions of relevant people》(Ordinance on Details, Article 1, Paragraph 3, Item 4)  O Opinions of relevant professional organizations, high schools, local public organizations, and other relevant people for conducting evaluations  O Opinions of relevant professional organizations for setting or revising the university evaluation standards  «Actions after evaluation》(Ordinance on Details, Article 3, Paragraph 2)  O For major curriculum or faculty changes made after the certified evaluation and before the next evaluation, the evaluation organization must make efforts to add a supplementary note, etc. in the published evaluation results.
Evaluation structure	≪People engaged in certified evaluation and accreditatio O Assignment of faculty members or others with insights into uni	

# 3. Issues of Quality Assurance for PVU and PVJC

「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について(答申)」(平成28年5月中央教育審議会)-抜粋-

第一部 社会・経済の変化に伴う人材需要に即応した質の高い専門職業人養成のための新たな 高等教育機関の制度化について

### 第Ⅳ章 新たな高等教育機関の制度設計等

- 2. 基本的視点等を踏まえた制度設計の在り方
- (2)具体的設計
- ④高等教育機関としての質保証と国際的な通用性の担保、実践的な職業教育に相応しい教育条件の整備 (質保証の仕組み)
  - 我が国の高等教育については、平成10年代後半以降、「事前規制から事後チェックへ」の流れの中で、設置審査の準則化や設置認可における量的抑制の原則撤廃、設置認可手続の見直し(届出設置制度の導入)、認証評価制度の導入、法科大学院\*¹をはじめとした専門職大学院の創設などが進められ、大学の量的規模は拡大したが、その教育の水準と内容に関しては、大学等の内外から様々な指摘がなされている。
  - 新たな高等教育機関は、国内的・国際的通用性の確保の観点からも、適切な質保証の仕組みを整えることが必要である。実践的な職業教育に最適化した大学教育を行う機関として、その学校設置認可は、新しい基準の下、適切な審査体制により実施されるものとすると同時に、大学体系に位置付くとともに、産業界と連携して教育を行う機関として、情報公表や評価についても、相当の水準を求める必要がある。これらを踏まえ、新たな機関に関する質保証の仕組みについては、次のようにすることが適当である。
  - \*1 法科大学院は、設置審査の準則化の原則に即し、当初74校が設置認可されたが、法科大学院全体の司法試験合格率や 法曹の活動の場の拡がりなどが、制度創設当初に期待されていた状況と異なるものとなったことによる志願者の減少などにより、 現在までに32校が募集停止を表明(うち3校は既に廃止)している。入学定員についても、平成19年のピーク時の5,825人か ら、平成28年度には2,724人にまで減少している。国においては、法科大学院への公的支援の見直しによる法科大学院間の メリハリのある予算配分の実施を通じて、大学の自主的な組織見直しや、教育の質の向上のための取組を促している。

17

### 第Ⅳ章 新たな高等教育機関の制度設計等

- 2. 基本的視点等を踏まえた制度設計の在り方
- (2)具体的設計
- ④高等教育機関としての質保証と国際的な通用性の担保、実践的な職業教育に相応しい教育条件の整備 (質保証の仕組み)

:

- ・ 質の高い実践的な職業教育を担う機関として相応しい設置基準等を制定する。認可庁は国とし、大学設置・ 学校法人審議会に新たな審査会を設けて審査を実施する。新たな機関が、一段低い高等教育機関と見られる ようなことにならないよう、教員や教育内容(企業内実習等を含む。)などの質が十分に確保されたものを認可 する観点から、的確な審査体制を整える。
- ・ 設置認可審査に際しては、設置構想全体が社会的ニーズ等を反映し、学生確保・人材需要の見通し等の面からも、十分現実性が認められるものであることを確認する。
- ・ 教育研究活動等の状況に関しては、現行の大学・短期大学が実施しているものと同等、又はそれ以上に充実した情報公表を義務付ける。
- ・ 大学・短期大学と同様、自己点検・評価、認証評価機関による評価を義務付ける。認証評価に関しては、分野 別質保証の観点からの評価を採り入れること、新たな機関のみを設置する場合は機関別評価と分野別評価を 一体的に行ったり、新たな機関を併設する場合は、機関別評価は大学全体として行い、新たな機関については 分野別評価を中心に行ったりして効率化を図ること等を含め、効果的な評価の導入を図る。
- ・ 情報公表及び評価に当たっては、産業界等をはじめとしたステークホルダーに対し、各機関の教育の質や学生の学修成果を分かりやすく明示していくものとする。そのため、できる限り客観的な指標を採り入れた仕組みを導入する。

"Educational diversity and quality assurance designed to bring forth the abilities and potential of individuals, and to realize a society in which all members can take part in resolving problems (report)"

(The Central Council for Education, May 2016) -excerpt-

Part 1. Institutionalization of a new type of higher educational institution for fostering high-quality professionals able to cope with society's demand for human resources arising from social and economic changes

Chapter IV. System Design of a New Type of Higher Educational Institution, etc.

#### 2. Basic views on system design

- (2) Specific design
  - Quality assurance of higher educational institutions guarantees their global strength and establishes the educational conditions desirable for practical professional education.

(Quality assurance mechanism)

- OAs Japan's higher education shifts "from prior regulations to ex post checks," various measures have been taken since the early 2000's, including the formulation of establishment screening rules, elimination (in principle) of quantitative restrictions on establishment approval, review of the establishment approval procedure (introduction of an establishment application system), introduction of a certified evaluation and accreditation system, and establishment of law schools and other professional graduate schools. \*1 These measures have accelerated the quantitative expansion of universities, leading to various suggestions being made by universities and external parties as to the level and contents of their education.
- O The creation of an appropriate quality assurance system for a new type of higher educational institution is crucial for maintaining their domestic and international strength. For schools to provide optimized university education as practical professional training, establishment approval must be conducted according to a new standard under an appropriate screening structure. It is also important to incorporate these new institutions into the existing university system. Since schools provide education in collaboration with industry, they are also required to maintain a high degree of information disclosure and evaluation. Under these circumstances, the quality assurance mechanism for a new type of educational institution shall be as follows.
  - \*1 Among the 74 established law schools approved by the establishment screening rules, 32 have already suspended the acceptance of applicants (including three that have ceased taking applicants altogether) because of the declining number of applicants, due partly to the gap between initial expectations and the actual bar exam passing rate of law school students as a whole and the difficulty of pursuing a career in the legal profession. The enrollment limit peaked in 2007 at 5,825, before falling to 2,724 in 2016. The government has encouraged institutions to reexamine their organization and improve the quality of education offered, and has reconsidered its assistance to law schools by differentiating the budgetary funds dispersed among institutions.

Chapter IV. System Design of a New Type of Higher Educational Institution, etc.

### 2. Basic views on system design

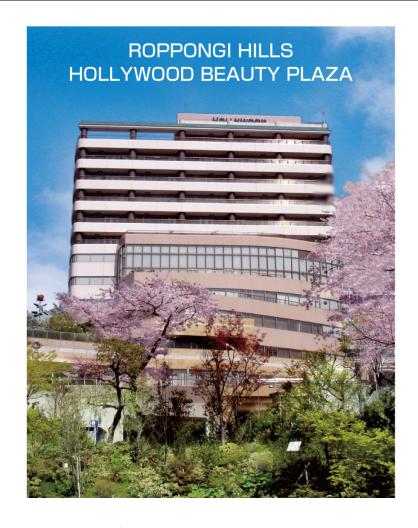
- (2) Specific design
- Quality assurance of higher educational institutions guarantees their global strength and establishes the educational conditions desirable for practical professional education.

(Quality assurance mechanism)

- •Formulate the appropriate standards for educational institutions that provide high-quality, practical professional training. The central government oversees establishment approval through a new screening board set up under the Council for University Chartering and School Juridical Person to assess applications. The screening structure must be appropriately organized to ensure that approval is given to schools with high levels of faculty and educational contents (including in-company training), and that the schools are not considered inferior to conventional higher educational facilities.
- Examine school establishment plans to confirm that they reflect societal needs and are fully feasible in terms of securing a sufficiently large student body and a promising outlook for their demand.
- Oblige the schools to disclose the same or higher levels of information on their education and research activities as conventional universities and junior colleges.
- •Oblige universities and junior colleges to conduct self-inspections/evaluations as well as undergo evaluations by certified evaluation and accreditation organizations. Certified evaluation and accreditation of academic disciplines must be conducted from the perspective of quality assurance. An effective evaluation system must also be introduced; e.g. when establishing a new school, evaluations of institutions and academic disciplines are conducted together; when an existing university establishes a new school, the entire university undergoes an institutional evaluation, while the newly established school is evaluated for its academic disciplines.
- •When disclosing information or conducting an evaluation, the institution's educational quality or students' study outcomes must be shown clearly to industry and other stakeholders. To that end, the standards of the evaluation method should be as objective as possible.

<del>18</del>

17



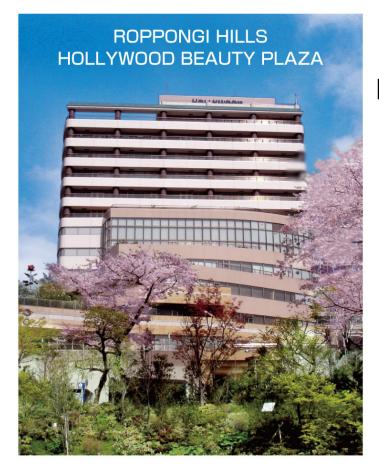
### 専門職高等教育の質保証

QAPHE国際シンポジウム 2018年1月17日



学校法人 メイ・ウシヤマ学園 ハリウッド大学院大学・ハリウッド美容専門学校 理事長・学長 山中 祥弘

20180117QAPHE国際シンポジウム



## Quality Assurance of Professional Higher Education

QAPHE International Symposium January 17, 2018



### Yoshihiro Yamanaka

Director and President

May Ushiyama Academy
Hollywood Graduate School of Beauty Business /

Hollywood University of Beauty and Fashion

### 学校法人 メイ・ウシヤマ学園 ハリウッド大学院大学・ハリウッド美容専門学校

1922年 米国ロスアンゼルス開業

1925年 東京銀座に本社移転

(戦時中長野県諏訪市疎開)

1950年 戦後東京六本木再開

2003年 東京六本木ヒルズ新校舎

2006年 高度専門課程開設

2008年 ハリウッド大学院大学開学

2014年 職業実践専門課程認定

ハリウッドグループ



### 第三者評価実績

### ハリウッド美容専門学校

2010年 私立専門学校等評価研究機構 2015年 専門職高等教育質保証機構

### ハリウッド大学院大学

2012年 ビューティビジネス評価機構

2014年 日本高等教育評価機構

2017年 専門職高等教育質保証機構



20180117QAPHE国際シンポジウム

2

# May Ushiyama Academy Hollywood Graduate School of Beauty Business / Hollywood University of Beauty and Fashion

1922 Opened in Los Angeles

1925 Head office moved to Ginza, Tokyo

(Evacuated to Suwa, Nagano Prefecture during WWII)

1950 Reopened in Roppongi, Tokyo after the war

2002 Nove building in Donnandi Hilla

2003 New building in Roppongi Hills

2006 Established advanced vocational course

2008 Hollywood Graduate School opened

2014 Professional Post-Secondary Course accredited

Hollywood Group



Third-Party Evaluations

Hollywood University of Beauty and Fashion

2010 NPO Organization of Private Vocational

School Accreditation

2015 Institution for Accreditation and Quality

Assurance of Professional Higher Education

Hollywood Graduate School of Beauty Business

2012 Institution for Beauty Business Evaluation

2014 Japan Institution for Higher Education Evaluation

2017 Institution for Accreditation and Quality

Assurance of Professional Higher Education



20180117QAPHE国際シンポジウム

### ビューティビジネスの生涯キャリア教育 職業教育と能力開発

職業教育の制度

職業能力の開発

学来长上

職業教育 キャリアデベロップメント Career Development				
チャレ	ノンジ	再チャ	レンジ	
キャリアゲット Career Get	キャリアアップ キャリアリフレッシュ キャリアチェン Career Up Career Refresh Career Char			
就職力	職能力	復職力	転職力	
求職者	在職者	休職者	転職者	
高大卒業者	就業者への生涯教育		他業就業者	
同八千未日	社	L会人教育		

職業能力 キャリアパワー Career Power				
<b>人間</b> ヒューマ	人間魅力 ビューマンパワー		<b>能力</b> スパワー	
人格力 ②	容姿力	経営力 🤄	技能力	
人間を磨く	美しく輝く	進化に挑戦	技能を磨く	
愛情·勇気·智恵	愛情・勇気・智恵 明るく・楽しく・美しく		革新·正確·安心	
志の高さ	第一印象	組織能力	専門能力	
社会人と な人格と につけま	容姿を身	プロとし <sup>*</sup> 経営と技 つけます		



20180117QAPHE国際シンポジウム

4

# Lifelong Career Education Vocational Training & Ability Development

### Vocational Training System

Career Development					
Challenge		Re-challenge			
Get Career	Advance Career	Advance Career Refresh Career Change Care			
Employability	Professional ability	Ability to return to work	Ability to change career		
Job seekers	Employed persons	Persons in temporary retirement	Persons changing career		
High school/ college	Lifelong e for the e	education mployed	Persons employed in a different industry		
graduates	Education	of working ac	dults		

### Development of Professional Ability

Vocational Training Career Power					
Human	Human Power ⊗ Business Power				
Personality ©	Appearance	Business skill 🤄	Technical skill		
Polish character	Be radiant	Pursue advancement	Hone technical skills		
Love, courage, knowledge	Bright, fun, beautiful	Theory, practice, results	Innovation,exact, reliable		
Height of aspirations	First impression	Organizational ability	Specialist capability		
	character and working adult	and techr	e business nical skills professional		



### ビューティビジネス 企業階層別·成長段階別の能力開発

レベル	能力階層	経営力	営業力	技能力	接客力	能力 成長段階
4	経営者					成熟期
3	店長					低成長期
2	中堅					安定成長期
1	新人					高度成長期
J	大学院	修士課程 経営·営業	高度	専門課程	専門課程 技能·接客	専門学校



20180117QAPHE国際シンポジウム

6

# Ability Development by Company Hierarchy and Growth Stage

Level	Ability Hierarchy	Management skills	Sales skills	Technical skills	Customer skills	Ability Hierarchy
4	Proprietor					Maturity
3	Shop manager					Slow growth
2	Middling					Stable growth
1	Fresh recruit					Rapid growth
Gra	duat school	Master's program Management / s		Sp cialized program	ecialized program Technical skills / customer skills	Professional school



20180117QAPHE国際シンポジウム

### 8

### 付加価値教育 → 教育の生産性向上 ← 教育投資概念

教育投資 → 教育生産性= 成果 = ⇒ 学修成果 P 投資 学修期間 T × 学修労力 E × 学修費用 C

Р	成果	学修成果 PROFIT	投資効果 質保証向上 アフターケアー	生涯賃金 職業能力の市場性 回収期間 社会評価 資格 免許 国際評価 自己啓発 生涯学修 転職機会
Т	期間	学修期間 TIME	学修時間 学修年限 単位認定	学識経験による弾力化 学年制の撤廃 習熟度評価(飛級) 単位認定の国内・国際基準化と互換性
E	労力	学修労力 ENERGIE	カリキュラム 教師 施設・設備	学習体系の合理化・重複削減・理論と実践 教育力・コーチングカ 評価能力・自己啓発力 教育インフラ・IT・e ラーニング・インターン施設
С	費用	学修費用 COST	授業料 親の投資 公的投資	コース授業科から単位授業科へ 親の学費は子への貸与(義務教育以上) 奨学金制度の多様性(成功報酬回収等)



20180117QAPHE国際シンポジウム

Added-value education → Increased educational productivity ← Educational investment concept

Educational  $\Rightarrow$  Educational = Effect =  $\Rightarrow$  Learning profit P Learning time T×Learning energy E×Learning costs C

Р	Profit	Learning PROFIT	Investment effect Higher QA Aftercare	Lifetime earnings, marketability of vocational skills, payback period Social reputation, qualifications, licenses, international reputation Self-development, life-long learning, career change opportunities
Т	Time	Learning time	Investment effect Higher QA Aftercare	Greater flexibility from learning and experience Elimination of year levels, achievement evaluation (skipping) Domestic/international standardization of credit recognition and transferability
Е	Energy	Learning energy ENERGIE	Investment effect Higher QA Aftercare	Improvement of learning system, elimination of redundancy, theory and practice Ability to educate, coaching ability, evaluation ability, self-development ability Educational infrastructure, IT, e-learning, intern facilities
С	Cost	Learning costs COST	Investment effect Higher QA Aftercare	From course-based tuition to credit-based tuition Parents' school expenses loaned to children (compulsory education and above) Diversity of scholarship system (payback of contingency fees, etc.)



### 米大学のROIと大学4年間のコスト

80 万ドル 100 60 0

98.53(23.77) 1 ハービーマッド大学(カリフォルコ

90.14(22.16)

80.97(23.33)

チューセッツ州) 79.85(22.45)

64.61(22.7)

39 テキサスA&M大学(テキサス州) 61.98(8.32)

1180 オッター -ベイン大学(オハイオ州) 0.11(16.82)

(注) ペイスケール調べ。4年制大学を卒業した人のその後20年間の累計報酬 から大学4年間のコストを差し引き、高卒で働き始めた人の24年間の累 計報酬を比較した。大学のコストには学費、寮費、書籍代は含むが交通 書、医療保険は含まず。カッコ内は大学4年間のコスト

### 米大学のROIと大学4年間のコスト 79.85(22.45)

### 3500 ASIAN REVIEW

電子版

ンは大きい

20180117QAPHE国際シンポジウム

生涯賃金から見た大学進学 費やしたお金の利回り(男性) 16 14 12 10 8 6 4 2 米 カナダ 英国 平O平E 均E均U 21 力 (資料) OECD 玉

フォーカス 今までの教育内容 観光素で必要となる英語 事法、刑法 「えた大学をどうつくる |ン・ショック後でさえ15 実践的な職業訓練を見一高く、求人倍率はリーマ 資格で能力「見える化」 界門校で実践力鍛える 度、独仏に ヒン

20180117QAPHE国際シンポジウム

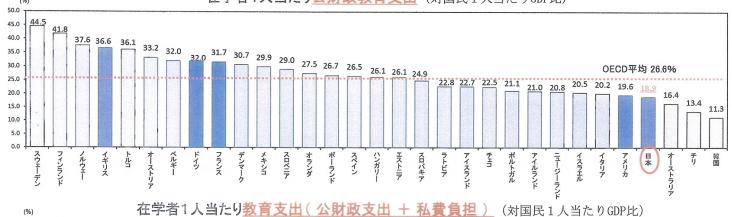
1

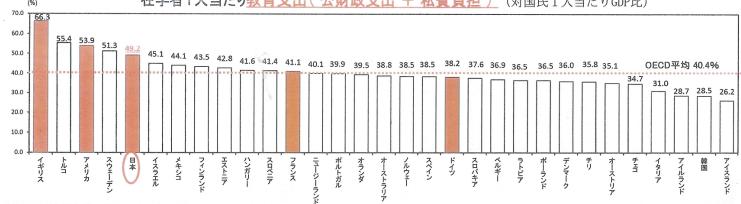
学生集め狙い施設充実競う

0

### 教育支出の国際比較<高等教育段階>(2013年)

在学者1人当たり公財政教育支出 (対国民1人当たりGDP比)





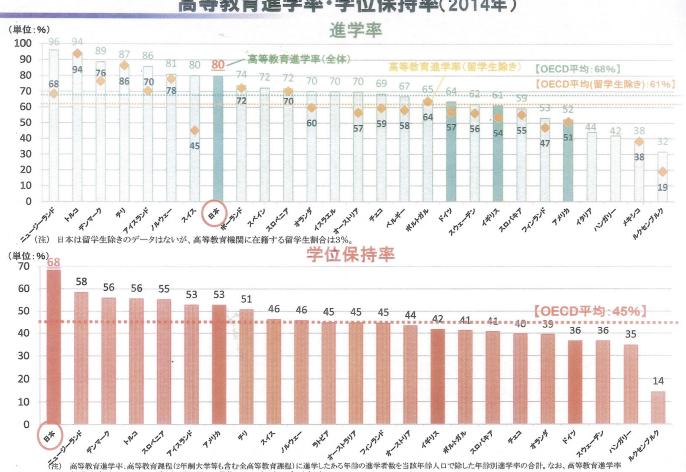
(注1) 上記は何れも高等教育段階における国公私立教育機関への年間支出の合計である。 (注2) OECD平均の値は、計数が取れず算出下能である国を除いた加盟国の平均値。 (出典) Education at a Glance 2016(OECD)

20180117QAPHE国際シンボジウム

2

31

### 高等教育進学率·学位保持率(2014年)



高等教育進学率:高等教育課程(2年制大学等も含む全高等教育課程)に進学したある年齢の進学者数を当該年齢人口で除した年齢別進学率の合計。なお、高等教育進学率 (留学生除き)については、データのある国のみ掲載している(日本はデータなし)

学位保持率(初回卒業率):高等教育課程(2年制大学等も含む全高等教育課程)の初回卒業率

(出典) Education at a Glance 2016(OECD)

32 2018

### 教育再生実行会議について

21世紀の日本にふさわしい教育体制を構築し、教育の再生を実行に移していくため、内閣の最重要課題の一つとして教育改革を推進する必要があります。このため、平成25年1月から「教育再生実行会議」を開催しています。

#### ● 教育再生実行会議 これまでの審議状況

平成25年 1月15日	教育再生実行会議の開催について閣議決定
平成25年 2月26日	第一次提言 いじめの問題等への対応について
平成25年 4月15日	第二次提言 教育委員会制度等の在り方について
平成25年 5月28日	第三次提言 これからの大学教育等の在り方について
平成25年10月31日	第四次提言 高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について
平成26年 7月 3日	第五次提言 今後の学制等の在り方について
平成26年 9月17日	3つの分科会の開催を中心とした集中的な議論
平成27年 3月 4日	第六次提言「学び続ける」社会、全員参加型社会、地方創生を実現する教育の在り方について
平成27年 5月14日	第七次提言 これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育、教師の在り方について
平成27年 7月 8日	第八次提言 教育立国実現のための教育投資・教育財源の在り方について

#### ■ 教育再生実行会議構成員 (O座長 ○副座長)



より詳しく知りたい方は こちらをご参照ください

- ください
- 教育再生実行会議「教育立国実現のための教育投資・教育財源の在り方について(第8次提言)」
  - 本文:http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaisei/pdf/dai8\_1.pdf 参考資料:http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaisei/pdf/dai8\_sankou.pdf
- ●教育再生実行会議のこれまでの歩み http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusalsei/

### 教育には「投資」が必要です!

~ 「教育立国実現のための教育投資・教育財源の在り方について」(教育再生実行会議第八次提言)の概要~

教育投資は 「コスト」ではなく、 「未来への先行投資」と 考えるべきです。 子供たちが主役の 教育再生で 誰もが大きな「夢」を 紡いでいくことができる 社会をつくります。



内閣官房 教育再生実行会議担当室

### 日本の教育にかかるお金、誰が負担するの?

#### 提言のポイント 我が国の成長に向けた教育投資の必要性

- 教育再生実行会議の提言の実現をはじめ、「教育再生」の実現には財政的裏付けが必要。
- ●世界的に見ても、教育は公財政で支えられている。
- 世界教育フォーラム2015(\*)で採択された「仁川宣言」では、次のことがうたわれている。

(金) 2015年5月19日から22日までの間、韓国の仁川において、ユネスコ (国際連合教育科学文化規則) を中心に、ユニセフ (国際連合党量基金)、世界銀行等が共同で開催。世界160か回以上から教育関係の環境、研究者、民間団体等が参加。

「[二]||宣言~2030年に向けた教育:すべての人々への、包括的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する~」(仮駅・抜粋)

国の状況に応じて教育。の公共支出を増加させ、GDPの少なくとも4-6%または総公共支出の少なくとも15-20%を効果的に措置することを国際及び地域基準として遵守することを決定した。(\*)

(中国) 日本工术人工服务委员会会立 (中日37日) 配面資料

3の平均は5.6%)、日本の一般政府総支出(総公共支出)全体に占める公財政教育支出の割合は9.1%(OECD類類間の平均は12.9 (Math. OECD, 知識を引きる数質1 (2014年)

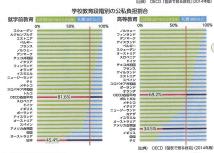
公財政教育支出の対GDP比の国際比較

#### 日本の教育投資は

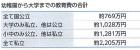
日本は公財政教育支出(国や地方公共団体が 負担する教育への支出)の対GDP(国内総 生産)比が小さく、特に幼稚園や大学では国 際的に見て私費負担の割合が高い。







子供1人にかかる幼稚園から 大学までの教育費は、 約1000万円 (大学のみ私立、他は公立の場合)



※効果圏は3年保育を想定。(国公江) は妙陽県一高等学院は公正、大学は国立の数値。 ※効果圏〜1高等学化:学校教育賞、学校治食賞、学校外教育賞の合計。 大学:投資非得学校教村全人学特新付金を除く。)と答字賞、選外活施収、選学費の合言 (出典) 幼媛陽〜高等学校は文郎科学省(平成24年数子供の学習費調査報告書)に基づ でいなに 教育費を払うのは 大変だな。 国家戦略として、教育投資を「未来への先行投資」と位置付け、その充実を図ることが必要。

#### 【教育投資の充実がもたらす効果】

- 教育の革新が一人一人の生産性向上、ひいては日本創生・経済再生を支える。
- 少子化の克服には子供の教育費負担の軽減が有効。
- 家庭の経済状況などで進学の機会や学力の格差が生じない、公平・公正な社会を実現。
- 教育投資は将来の経済成長や社会保障・社会治安等の歳出削減に貢献。

#### 教育にお金がかかり過ぎることが、

夫婦にたずねた理想的な子供の数は2.42人なのに、 実際の出生数は1.96人。その理由で最も多いのは、 「子育てや教育にお金がかかりすぎる」こと。

アメリカでは、質の高い幼児教育の費用対効果は

就学前教育の効果 (アメリカ・ペリー就学前計画(\*\*)による検証結果)

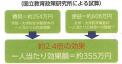
20%



(出典) 田立社会保障・人口問題研究所 (第14回出生動の脳本調査 結婚と出産に関する全国調査 (2010)

高等教育への公的教育投資は、投資額の約2.4倍の便益を もたらす効果があるとの試算も。

#### 高等教育の効果 (国立教育政策研究所による試算)



(※) 税収億加額・失業による進失税収抑制額、失業給付卸制額、犯罪費用抑制額を減算 (出典) 又部科学省金託納査「教育投資が社会開係資本に与える影響に関する請査研究 = ※除会研設官(2010)を移に関す者指数履研を折って減算(2012時を提供)



報用収貨にありた。 将来の社会保障者が 削減されたりと、 社会全体にメリットが あるんだね。

ミレス・ビルグ (出典) Heckman and Masterov (2007) "The Productivity Argument for Investing in Young Children"

- 一紙字削計機」とは、1960年代のアメリカ・ミンガン州において、候所得能 リカ系アメリカ人3歳児で、学校教育上の「リスクが高い」と判定された子供 像に、一部に質の高い効児教育を提供し、その他約40年にわたり連絡調隆を実

教育は、それを受けた個人だけでなく、社会全体に利益をもたらす「未来への先行投資」です。 ------



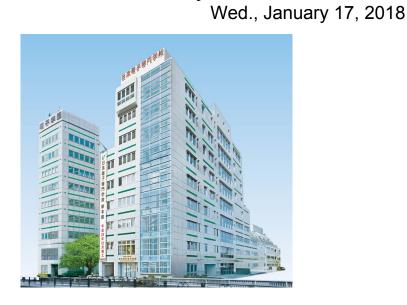
### QAPHE 国際シンポジウム「専門職高等教育の質保証」 教育の質保証に対する日本電子専門学校の取組み 平成30年1月17日(水)



日本電子専門学校校長 古賀 稔邦



# QAPHE International Symposium on "Quality Assurance of Professional Higher Education" Initiatives of the Japan Electronics College in Quality Assurance of Education



Toshikuni Koga President Japan Electronics College



### 日本電子専門学校の紹介

- 建学の精神
  - 「電子技術を核とした創造性豊かな 技術者の育成を通して世界に貢献する」1951年創立



所在地 東京都新宿区 本館~12号館 (約50教室 約50実習室) コンピュータ 約2000台保有

設置学科

昼間部:21学科 夜間部: 4学科

教職員数

専任教員 約90名 非常勤講師 約100名 職員 約60名

http://www.jec.ac.jp

3



### Overview of the Japan Electronics College

- School Philosophy
  - "Contribute to the world by training extremely creative technical experts with a focus on the electronics" Established 1951



Location: Shinjuku, Tokyo Main Building to Building 12 (About 50 classrooms and 50 labs) Computers: About 2,000

**Departments** 

Daytime: 21, Evening: 4

Number of teaching and support staff Full-time instructors: About 90 Part-time instructors: About 100 Support staff: About 60

http://www.jec.ac.jp



### 日本電子専門学校 学校評価のあゆみ

2005年 東京都専修学校各種学校協会にて専門学校の

「自己点検・自己評価 推奨項目」作成に協力

2006年 第三者評価の「モデル評価」 実施

2007年「第三者評価」 実施 「自己評価」毎年実施

2012年「第三者評価」更新(2回目)実施

2013年「学校関係者評価」毎年実施

2017年「第三者評価」3回目受審中





# History of School Evaluation at the Japan Electronics College

2005: Cooperated in the production of "Self-inspection/Self-Assessment: Recommendations" for professional schools in the Tokyo Metropolitan Vocational Schools Association

2006: Conducted "model evaluation" of third-party evaluation

2007: Conducted "third-party evaluation," conduct annual "self-evaluation"

2012: Conducted updated "third-party evaluation" (second time)

2013: Conduct annual "evaluation of college officials"

2017: Currently undertaking third "third-party evaluation"





### 職業実践専門課程による内部質保証



### 教育課程の編成

- •教育課程編成委員会(9月3月)
- •学科検討
- •学校の承認



### 教育の質の保証

- •自己点検評価
- •学校関係者評価(6月11月)
- •情報公開



### 教員の研修

- •職業実務卓越性研修
- •教育的研修



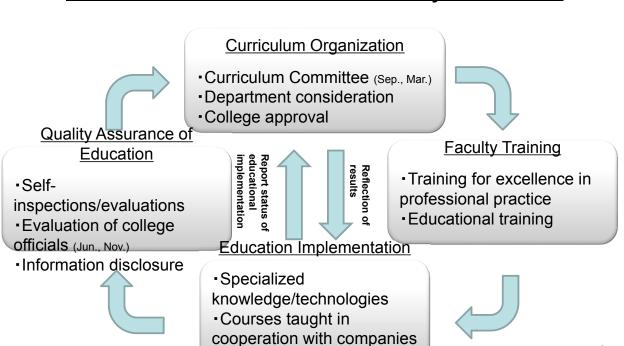
### 教育の実施

- •専門知識•技術
- •企業連携科目
- •卒業制作•研究



7

# Internal Quality Assurance through Professional Post-Secondary Courses



Graduation
 proiect/research



### 教育に付随する三つのポリシー策定による 学修成果の明確化とその評価

2016年度 ガイドラインの完成

\* 全学科共通ポリシー策定

2017年度 学科単位のポリシーの具体化

\*4学科を先行して策定中

ポリシーに基づいたカリキュラム策定

2018年度 学科単位のポリシーを順次具体化

ポリシーに基づいたカリキュラムで教育開始

\*2019年度以降

学修成果の評価と改善のためのサイクルを回す

# Clarification and evaluation of learning outcomes through establishment of three policies pertaining to education

AY2016 Completion of guidelines

\* Established policies common to all depts.

AY2017 Concretization of departmental policies

\* First formulating for 4 depts.

Settling on curriculum based on the policies

AY2018 Gradually concretize departmental policies

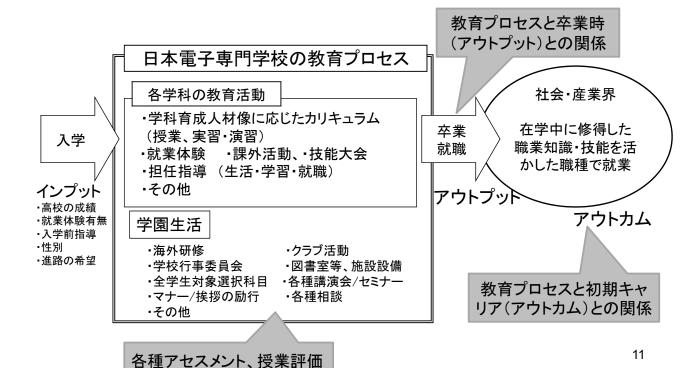
Start education with curricula based on the policies

\* From AY2019

Go through cycle of <u>evaluation of learning outcomes</u> and improvement

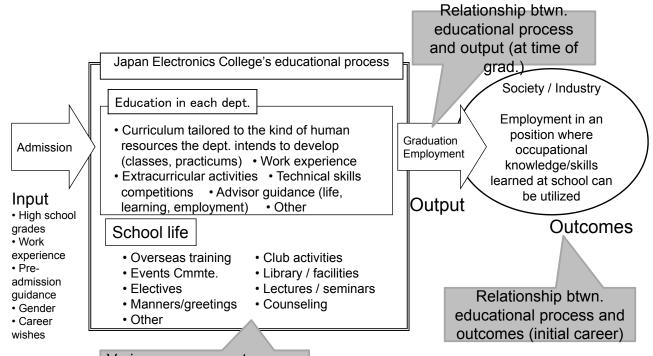


### IR活動による教育改善





### Improvement of Education through IR



Various assessments, course evaluations



### ご清聴、ありがとうございました。



ASIAGRAPH 2017 in Tokyoでアニメ分野 2学科の学生作品が複数受賞しました!!



### Thank you for your attention.



Works by students in the Department of Animation won several prizes at ASIAGRAPH 2017 in Tokyo!

平成 29 年度文部科学省

職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業

### 専門職高等教育質保証機関の 国際連携の推進および美容分野に おけるその成果の活用

### 事業成果報告書

発行日 平成 30年 3月

発行者 一般社団法人専門職高等教育質保証機構

〒106-0032 東京都港区六本木 6-2-33 六本木ヒルズノースタワーアネックス 3F

■禁無断転載■